

佳部 四畫

**雄力** ユウリキ いさましき力。すぐれたる力量。  
**雄渾** ユウコン 言論又は文章の雄々しく品よくして其よごみなきさまにいふ語。  
**雄略** ユウリク 策略の男らしきこと。  
**雄蕊** ユウジ (植) 花の生殖機關の一、花絲及葯より成りたるも。  
**雄姿** ユウシ 勇ましき姿。「の」  
**雄篇** ユウペン 著書又は詩文等の勝れたる作物をいふ。◎一大作。  
**雄風** ユウフウ 勇ましき様子。すさまじきいきほひ。◎一堂々。  
**雄辯** ユウベン 達者なる辯舌。口前のいとすぐれたること。  
**雄鷄** ユウキ 雄すの鷄。  
**雄飛** ユウヒ 勇ましく物を企てること。他を威服してはなをきかすこと。◎一の土。「と」  
**雄謀** ユウボウ すぐれたるばかりご  
**雄俊** ユウシュン 勝れもの。◎一の土  
**雄傑** ユウケツ すぐれいでたるもの

佳部 四畫

**雄視** ユウシ 他を下目に見ると、雄偉 ユウビ 心のたけくしてすぐれたること。  
**雄藝** ユウギ すぐれて大なるわざ。  
**雄毅** ユウキ いさましくたげきこと。  
**雄鎮** ユウジン 大藩のこと。すぐれたるもの。  
**雄謀** ユウボウ すぐれたるばかりご  
**雄勝石** ユウショウ 石盤・數石等とし屋根瓦の代用とする礦物。◎一屋根瓦の代用とする礦物。  
**雁** ガン 雁に同じ。  
**雁皮** ガンヒ (植) 瑞香科に屬し卵形葉を有し花序は頭狀に排列す樹皮の纖維は製紙の原料とす。雁皮紙の略。  
**雁字** ガンジ かりのたまづさ。雁の行列。文字などの雁の行列の如きなひふ。  
**雁木** ガンキ 船つきに設けたる階段。だんく。犬の牙の如く左右互に凸凹ありてよく相合ふ

佳部 四畫

もの。次第を追ひて進むもの。  
**雁垂** ガンゲレ 漢字の冠の名。雁などの如く上部にある尸の字の稱。  
**雁帛** ガンパク かりのたまづさ。  
**雁首** ガンシウ きせるのあたまたま。  
**雁來** ガンライ 陰曆八月の異稱。  
**雁行** ガンカウ 雁の並び行くこと。又そのさま。人などの斜に並びゆくこと。  
**雁陣** ガンジン 雁行の形を取りて軍隊の陣立に應用したるをいふ。  
**雁瘡** ガンサウ がんがさ。  
**雁書** ガンショ 昔雁の足に手紙を結び付けて送りたる古事より手紙の代名詞とす。又雁素といふ紙の代名詞とす。又雁素といふ紙の書。  
**雁使** ガンシ 手紙のたより。おさづれの書。「の段」  
**雁齒** ガンシ 橋の上に横へたる木  
**雁鵝** ガンガ かがてうのこと。  
**雁信** ガンシン 雁書に同じ。たより。  
**雁托** ガンダク 手紙の脇書に用ゆる

佳部 四畫

語、机下・坐下などの如し。  
**雁擬** ガンギ 油揚の一種、豆腐を細く切りたる野菜を入れ油にて煮たるもの。  
**雁聲** ガンセイ かりのこゑ。  
**雁木悟** ガンギゴ 頓に徹悟の境に到達するにあらずして次第を追ふて徹悟の境に達すること。  
**雁木棚** ガンギナ 雁木に組み合せたる棚。  
**雁木鏡** ガンギキョウ 太くして目あらく金屬をすするに用ふるやすり。物事の磨滅するにいふ語。  
**雁皮紙** ガンヒシ 雁皮の皮を剥きて製したる紙、質薄し。  
**雁喰豆** ガンクマメ (植) 豆科に屬する栽培草本、色黒き種子を有し形ふちまめに似たり。「名」  
**雁來紅** ガンライコウ 葉雞頭、秋草の雁字鴛梭 ガンジウソ 雁の空中に飛ぶ列を字形にたとへ鶯の樹間に飛びかふさまを織機の梭

佳部 五十六畫

にたとへなごして詩文の字句を虚飾すること。  
**雌** シヨ。ソ。みさい。  
**雌雉** シヨシヨ 目を見張りて見ると雌刺 シヨシ 災ひを亂れること。  
**雌鳩** シヨウキウ (動) みさい。  
**雌** シヨ。ソ。みさい。  
**雌尾** シヨシ せきじのしつぽ。(植)おにわらびの一種。「とり」  
**雌媒** シヨシ さいきじを呼びよせるお  
**雌經** シヨシ さいくびれ死ぬること。  
**雌門** シヨシ 皇宮の南の御門。「扇」  
**雌尾扇** シヨシ 雌の尾にて作れるシ。おさる。よわし。  
**雌** シヨ。ソ。みさい。  
**雌蕊** シヨシ (植) 花の其の中央にある緊要機關にして柱頭花柱

佳部 五十六畫

千房の三部より成るめしべ。  
**雌雄** シヨウ めすきをなすと。まけから。おとれると。まされること。弱きと強きと。◎一を決す。  
**雌竹** シヨク めだけ。  
**雌風** シヨウ ちりをあぐるに至らざる微風。  
**雌黄** シヨウ 砒素と硫黄との混合より成る顔料。固形體を爲し黄色の光澤を有し碎け易し、又薬用にも供せらる。又樹脂より製したる赤黄色の顔料。支那にて古詩文の添削に紫黄を用ひしより詩文の添削のことを雌黄といふ。  
**雌伏** シヨク かくれ居ること。他もの下に屈して下位にかみたること。有爲の才を抱いてかくれ居ること。  
**雌雄異株** シヨウシ (植) 雌花と雄花と株を異にして着生すること。  
**雌雄異體** シヨウシ (動) 雌と雄

佳部 五十六畫

と各體の異なること。

雍

ヨウ。エ。やはらぐ。ふさがる。むつまじ。さいはひ。さどごほる。いづく。おほふ。

雍和

ヨウリ 穆和。やはらぐこと。ヨウツク ふさがり。ふさがる。ふさがりさづること。

雍閉

ヨウヘイ ふさがりとづること。ふ雍雍 ヨウヨウ 雁の鳴き聲を形容して。いふ語。總て穆和の意味。○

雍言

ヨウゲン おだやかなること。雍熙 ヨウシ おだやかなること。雍容 ヨウヨウ やはらげるかたち。

雍蔽

ヨウヘイ 物をおほふこと。雍穆 ヨウモク 穆かに和らぐこと。安らかに睦むこと。

雋

セン。セン。ス。井。こ。える。あぶらざりたる肉。ラク。ふくろふ。みみつ。く。みづのな。みやこ。か

雉

セウ。セウ。ス。井。こ。える。あぶらざりたる肉。ラク。ふくろふ。みみつ。く。みづのな。みやこ。か

佳部 七十九畫

はらけ。洛又は緒に通ず。雉陽 ラケリ 洛陽に同じ。

隼

ヨ。ひよこ。ひな。たうまるのひな。テウ。くまたか。わし。あきらか。ある。ほる。

雕

テウ。くまたか。わし。あきらか。ある。ほる。業とする人。又彫匠といふ。彫刻を

彫工

テウコウ ほりものし。彫刻を業とする人。又彫匠といふ。

彫刻

テウコク ほりものをすること。みりさざむこと。 「もやう。

彫文

テウブン むらぶみ。ほりたる彫技 テウキ ほりものの手わざ。彫像 テウゾウ 肖像を刻むこと。彫刻したる像。

彫琢

テウソク ほり物などを磨くこと。みみみみ。みかきかざること。

彫畫

テウガク 彫刻したる繪畫。彫鏤 テウリウ ほりきざむこと。ほる彫青 テウセイ ほりもの。 「こ。

佳部 七十九畫

彫綯 テウゼン ほりもの又はぬひなどにてうつくしくかざれること。

雕几

テウキ ほりもの、あるつくみ。ほりうがつこと。

雕鏤

テウリウ ほりもの、技術。彫飾 テウシヤク ほり物の飾り。

雕鏤

テウリウ 金属物などをちりばめたるほりもの。あること。きざ

雕俎

テウソ 繪模倣ある俎。 「むこと。彫啄 テウソク 鳥がものいふ有様をいふ言葉。

彫刻家

テウコクカ ほりものし。彫刻を業とする人。又彫刻師といふ

雕章琢句

テウシヤクソクカ ざりつくろひたる文章又は文句。 雖 スイ 井。いへごも。 雖然 スイゼン さりながら。しかれごも。けれごも。

佳部 十畫以上

窩

ケイ。キ。つち。くればとほととぎす。めぐる。雋に同じ。

十畫以上

雞

ケイ。にはざり。はたをり。くだかけ。

雞公

ケイコ 雄雞。病。

雞旦

ケイタン 夜明。あけがた。あか雞失 ケイシヤ 雞の糞。

雞口

ケイコウ 小なる團體のかしら。一となるも牛後となる勿れ。

雞人

ケイジン 古宮中にて夜明を知らすことを掌りし人。

雞肉

ケイニク にはとりの肉。雞ト ケイト にはとりを殺して吉肉なうらなふこと。

雞髓

ケイスイ 骨髄にはとり。雞血 ケイケツ 雞の血。雞血石の略。一種の寶石。

佳部 十畫以上

雞時 ケイジ ねや。ねぐら。雞仔 ケイサイ にわとりの雞。雞肋 ケイロク 雞の肋骨をねぶれば一種の味ありて何となく捨てがたき心地せらるゝが如くさほど役に立たれど捨てがたき物事にいふ語。 「のけあひ。

雞卵

ケイラン にはとりのたまご。雞卵 にはとりのたまご。雞卵 にはとりのたまご。

雞兒

ケイニ にはとりの子。ひな。雞兒 にはとりの子。ひな。

雞音

ケイオン にはとりのなきこと。雞音 にはとりのなきこと。雞音 にはとりのなきこと。

雞冠

ケイカン にはとりのとさか。雞冠 にはとりのとさか。雞冠 にはとりのとさか。

雞屋

ケイヤ 雞の小屋。又そのしるみ。雞屋 にはとりの卵。又そのしるみ。

雞姦

ケイケン 男色をいふ。かばつ雞姦 ケイケン にはとりのけづめ。又雞姦に作る。

雞湯

ケイチュウ 雞の肉を煮出したる汁。スープ。雞林 ケイリン 朝鮮國の異稱。

佳部 十畫以上

雞眼 ケイガン (植) やはず。雞麻 ケイマ (植) やまぶきの類。

雞晨

ケイシン あげがた。よあけ。雞啼 ケイテイ にはとりのなき聲。夜明。鷓鴣。

雞語

ケイゴ 雞同志の相語ること。雞鳴 ケイメイ 曉にはとりの鳴くこと。にはとりのなき聲。 「曉を告ぐ。

雞籠

ケイロウ にはとりのかご。雞腸 ケイチャウ (植) よめがはざ。

雞羹

ケイカウ 鶏の肉の吸物。雞頭 ケイトウ にはとりの頭。(植) 其科に屬し葉は互生して長き尖頭を有す夏秋の交赤色・黄色若くは白色の花を開く、花序は雞冠狀をなす、觀賞用とし栽培せらる。

雞寮

ケイロウ 鶏の小屋。あげがた。雞曉 ケイキョウ 曉天をいふ。

雞雉

ケイシヤ にはとりのひな。雞聲 ケイセイ にはとりのなきこと。

佳部 十畫以上

雞彝 ケイ 雞の形した盃、禮式に用ゆるもの。「いふ」。

雞鳴助 ケイメイ 夫人の内助を稱するもの。

雞冠石 ケイカンシ 砒と硫黄との化合物、柱状又は粒状をなしうるばしき橙黄色を有して透明なり。

雞冠花 ケイカン けいとうに同

雞舌香 ケイゼツカウ 瑞香の一名。

雞脚菜 ケイキョウサイ (植) さころてん草。

雞褪兒 ケイタイジ (植) かたしる草。

雞皮鶴髮 ケイヒカクハツ 老人の肌の雞皮の如く頭髮の白くして龜皮の如きこと。

雞鳴狗吠相聞 ケイメイクハヒキヒキコ 人家の接續して絶へざることをいふ。

【雞】 ヨウ。ユ。にはたなき。さへづる。なく。やはらぐ。ふさがる。

佳部 十畫以上

雜 雜 ゾウ 睡み樂しむ有様をいふ。①として楽しむ。

雜 雜 ゾウ ざつ。まじへる。おなじ。まじはる。あつまる。みだり。めぐる。かざる。こまこま。まじき。分明に區別をつけ難き部分。あらかし。

雜人 ゾウジン 使はる人。

雜巾 ゾウキン よごれをふくきれ。板の間、廊下などをふくきれ。

雜木 ゾウボク 各種の木をいふ。

雜文 ゾウブン 色々の文章。「いふ」。

雜什 ゾウジツ 各種の詩歌俳文等をいふ。

雜生 ゾウセイ さまざまの草木の生へること。「規則」。

雜則 ゾウソク 種々の細き事柄の規則。

雜考 ゾウカウ 種々の考案又は考證。

雜仕 ゾウシ 雑務をつとむるもの。奴婢に同じ。「ろいろの入費」。

雜用 ゾウヨウ いろいろの用事。いふ。

雜布 ゾウブ あらかしぬの。

佳部 十畫以上

雜多 ゾウタ 種々數多くよせ集めたること。②種々。

雜色 ゾウシキ 古藏人所に屬して雜役に服せしもの。足輕又は中間の類。走り使ひの人。色々入交りたること。「ろの見込」。

雜見 ゾウケン 色々の意見。いろいろいふこと。

雜合 ゾウカフ 交じりあふこと。

雜具 ゾウキ 色々の道具。

雜役 ゾウヤク 種々の務め。雜用の役。種々の用に使ふ牝馬。「と」。

雜言 ゾウゴン 無駄口。惡口をいふ。

雜技 ゾウギ 色々の手わざをいふ。

雜兵 ゾウヘイ 普通の兵を卑しめていふ語。地位ひき部下の稱。

雜物 ゾウブツ いろいろの粗末なるもの。種々の品。鳥料理にて皮又は胃などをいふ。

雜物 ゾウブツ 種類のいりまじりたるもの。粗末なるもの。

雜沓 ゾウサツ 多人數こみあふこと。人こみ。混雜。①を極む。

佳部 十畫以上

雜炊 ゾウシ 色々取交せて煮込むこと。野菜を刻みこみてたきたる粥。「さめき集める」。

雜抄 ゾウセウ 拔萃に同じ。色々書すこと。

雜稅 ゾウゼイ 種々の稅。

雜卒 ゾウソツ さふひやう。陸軍にては憲兵・歩兵・騎兵・砲兵・工兵・輜重兵等の稱。海軍にては水兵・火夫等の稱。

雜舍 ゾウシャ 母屋に附屬する雜多なる小屋。「みたる肥料」。

雜肥 ゾウヒ 中に種々のものを含みたる肥料。

雜種 ゾウシュ いろいろの種類の種族の異なる男女又は雌雄・牝牡間に生れたるもの。あひのこ。

雜費 ゾウヒ いろいろのこまかき費用。諸入用。

雜行 ゾウギョウ (佛) 彌陀の利益にのみ依頼せず他にもいろいろの神佛を祈ること。

雜居 ゾウキョ 種々の人のいりまじりて住居すること。異なる人種又

佳部 十畫以上

は動物の一所に住居すること。②内地。「々の俗事」。

雜事 ゾウジ いろいろの事から種々色々と交へたること。

雜俎 ゾウゾ 色々と交へたること。

雜屋 ゾウヤ 小舎。

雜詠 ゾウエイ 季節課題にかかはらすいろ／＼のものをよみたる詩歌。

雜俳 ゾウハイ 季節に係はらす味みたる俳句。特に川柳をいふ。

雜書 ゾウショ いろいろの書物。

雜草 ゾウソウ さまざまのくさ。耕地に生ずる作物以外の草。

雜務 ゾウム 種々の仕事。役目の中の數あるしこと。

雜記 ゾウキ 種々の事をしるすこと。又そのもの。①帳。

雜魚 ゾウイコ さまざまの小魚。雜貨 ゾウカ 種々の家具。いろいろの日用食料品など。特に西洋小間物にいふ。①商店。

佳部 十畫以上

雜掌 ゾウテイ 雜事をつかさどる宮中の官吏。古傳奏家の家長。

雜節 ゾウセツ 曆にて節分・八十八夜・入梅・半夏生・二百十日。土用・彼岸・社日等の總稱。

雜題 ゾウタイ いろ／＼の仕方又は事柄のまじりたる問題。明かに區別の付かざるものを入れまじへたるもの。題目。

雜然 ゾウゼン 物の區別なく入混れるさまにいふ語。

雜報 ゾウバウ 色々取交へたる噂。新聞紙などに種々の出來事を書き集めたるもの。

雜業 ゾウギョウ 種々の會合。

雜碎 ゾウサイ こみこみしたるもの。數多き端物。

雜感 ゾウカン 種々の感じ。②漫遊

雜話 ゾウワ とりとめなき世間話。よもやまげなし。

雜亂 ゾウラン 亂雜。とり亂れたる

佳部 十畫以上

佳部 十畫以上

佳部 十畫以上

佳部 十畫以上

有様。①紛糾を解く。「傳」。  
 雜說 ゴウゴウ いろいろの説。②説  
 雜誌 ゴウジ 種々の事を取り雜へ  
 て書きたる書物。新しき事實を  
 報するため期日を定めて毎月  
 發行する書物。  
 雜駁 ゴウダク 一さして取止まりた  
 るものなきこと。入りまじりて統  
 一なきこと。③の議論。  
 雜劇 ゴウゲキ 歌舞伎。いろいろま  
 じりたるしばぬ、樂典正劇など  
 に對する詞。  
 雜興 ゴウキョウ 取交へた慰み。  
 雜學 ゴウガク 取交へた學問。  
 雜論 ゴウロン 何事も根據なき議論  
 ④空説。  
 雜篇 ゴウベン 種々取交へた詩文。  
 雜煮 ゴウニ 野菜又は肉類などな  
 餅と共に煮たる汁。  
 雜穀 ゴウコク 種々の穀類。五穀取交  
 ぜたること。⑤商。  
 雜談 ゴウダン これといふ取り止め

た談でなく種々のはなし。  
 雜揉 ゴウジウ 捏れ交へる。入り  
 交りて區別なきこと。「る」。  
 雜錯 ゴウサク 錯雜。種々入り交りた  
 雜錄 ゴウロク 取交へた記事。  
 雜纂 ゴウサン 色々取集めて編み立  
 てること。書籍などの編纂にいふ  
 雜懷 ゴウワイ 色々の考へ。種々の  
 思ひ出。⑥羅らす。  
 雜襲 ゴウシユウ 色々かさなり合ふこと  
 雜體 ゴウタイ 種々の形。色々の體  
 形。雜言體に同じ。  
 雜誌屋 ゴウジヤ 雜誌の取次又は販  
 賣を爲す書林。  
 雜貨店 ゴウカウテン 雜貨をあきなふ  
 店。小間物屋。  
 雜言體 ゴウゲンテイ 漢詩にて律又は  
 絶句の如く終始五言若くは七  
 言たるべき定めなき詩體。  
 雜記號 ゴウキガウ 音樂にて歌曲の  
 進行中其の或部分の聲音若く  
 は或一聲音に限り種々の變化

を要する場合に之を表示する  
 爲め其の最初若くは音符上に  
 附記する記號。  
 雜收入 ゴウシユウ 定まりたる收入  
 の外に不時に入る種々の收入。  
 雜木山 ゴウキヤマ 各種の木を生へ  
 てゐる山。  
 雜種兒 ゴウシユウ あひのこ。異國  
 人の間に生れたる兒。  
 雜種稅 ゴウシユウ (法) 商工業以外  
 の營業に課する地方稅、即ち理  
 髮人・劇場・舟・車・馬等に課す  
 るもの。  
 雜種地 ゴウシユウ 田畑・宅地・山林  
 牧場・原野・鑛泉・池沼以外の有  
 稅地。「る人」。  
 雜掌人 ゴウシユウ 雜掌の役にあ  
 る人。  
 雜性花 ゴウシユウ (植) 雌雄二つな  
 がら同一の株にある花。  
 雜居地 ゴウキヨチ 内外國人の雜居  
 する地。  
 雜寂類 ゴウキヨチ 穀類中豆・菽・蕎麥

佳部 十畫以上

佳部 十畫以上

佳部 十畫以上

胡麻などの特稱。  
 雜魚寢 ゴウイサ 此の如くに男女  
 打雜りて寝ること。  
 雜誌記者 ゴウジシヤ 定期刊行の  
 雜誌の記載又は編輯を擔當す  
 る記者。  
 雜僧 シユ。ス。スウ。  
 雜僧 スウワウ 小坊主。  
 雜妓 スウキ おしやく。未だ一人前  
 とならざる藝妓。牛婬。まひこ。  
 雜雞 スウキ 雞のひな。  
 雜星 スウイ 火星に同じ。  
 雜方 サウ。ソウ。ふたつ。たぐ  
 ひ。ならぶ。一對のもの  
 をかぞふるにふ語。  
 雜手 サウシユ 兩方の手。①を擧  
 げて賛す。  
 雜魚 サウキヨ 二尾揃へたる魚。手  
 紙の異稱。「調。二つの調子。  
 雜調 サウワウ 十二調子の一、春の

雙鬢 サウシユ 左右のびん。  
 雙子 サウシユ ふたご。又雙兒といふ  
 雙關 サウクワン 左右よりとさしあ  
 はすやうに作りたる屏。漢文の  
 體にて相對する句を立て、骨  
 子とし以下之に照應參伍して  
 文を行ふもの。  
 雙盤 サウバン 寺院にて閻魔の開帳  
 なごに打ち鳴らす金屬の盤。  
 雙親 サウシン 父と母。ふたおや。  
 雙頭 サウトウ 二つ相並びてつきた  
 雙袖 サウシュ 二つの袖。  
 雙袂 サウベキ 兩方の袂。  
 雙對 サウタイ 二つの揃ひ。  
 雙輪 サウリン 二つの輪。一對の輪。  
 前後又は左右に二つの輪をし  
 つらへること。  
 雙脚 サウキョウ 二本のあし。椅子な  
 どの二脚揃ひたること。「の軍。  
 雙翼 サウヨウ 兩方のつばさ。左右  
 雙美 サウビ 美しきものの二個所揃

ひたること。二人の美人。雙方と  
 もまげずおとらずすぐりてよ  
 きこと。  
 雙肩 サウケン 兩方の肩。自家の責  
 任。②責任を一に荷ふ。  
 雙眼 サウガン ふたつの目。雙方の  
 まなこ。  
 雙星 サウセイ ふたつならびて見ゆ  
 る星。牽牛と織女との稱。  
 雙斃 サウバイ 情死。しんちゆう。  
 雙六 サウロク 遊戲具の名。黑白の  
 石各十二を式の如く雙六盤上  
 に入れて振り出し其の出たる數  
 だけづゝ石を送り早く敵陣に  
 入り込みたるを勝とするもの。  
 雙子葉 サウシヤ 胚より出でたる  
 二枚の若葉あるもの。  
 雙殼類 サウカクル (動) はまぐりな  
 どの如く介殼の左右二つを具  
 ふる貝の稱。  
 雙六盤 サウロクバン や、長方形の面

佳部 十畫以上

の中間に縦に一條の間地を設け横に左右各々十二の格を設けて雙六を行ふに用ふる盤。

**雙魚宮** サウキョウ(天)十二宮の一、現在は春分點此の内にあり

**雙翅類** サウシル(動)昆蟲類の一、中胸部に膜質の翅一對あり後胸部の翅は極めて小なる根棒状をなして飛行の用を爲さず口は物を吸ひ又は舐るに適す、蚊、蠅などの類。

**雙眼鏡** サウカンキョウ(理)短き望遠鏡を二つならべたる装置のものにして兩眼にあて、見るやうに作れるもの。

**雙方行爲** サウハワカワ(法)當事者雙方のなす意思表示によりて成立する法律行爲。

**雙子葉植物** サウシエラシヨクワツ(植)發生するときに必ず二枚の子葉を有する植物。

**雙務契約** サウキョウ(法)當事者

佳部 十畫以上

**腹** 双方に義務を負担する契約。リク。ゴ。あかし。しんしゃ。

リ。チ。うぐひす。わかる。はなれる。あらく。あふ。ならぶ。あきらか。かかる。つらぬる。さる。つく。わかつ。

離

**離心** リシン 心のそむき離れること。

**離立** リリツ 揃ひ立つこと。

**離曲** リキョク 別れの時に唱ふ哀しみの歌。「一常ならず」

**離合** リカウ 離れて又合すること。

**離技** リキ 宙乗りなどの如くかけはなれたる技藝。

**離判** リハン 判断すること。

**離別** リベツ 知人にわかること。特に離婚をいふ。

**離杯** リハイ 別れるときさかもりの。別れのさかつき。

**離披** リヒ ちらばらになること。

**離居** リキ 家族離散して住むこと。

佳部 十畫以上

はなればなれに住むこと。

**離析** リシツ 細かく碎きて順つこと。

**離背** リハイ そむくこと。逆臣などにいふ。「臣下」す。

**離叛** リハン はなれそむくこと。謀叛

**離亭** リテイ 別れの座敷。

**離殃** リヤウ わざはひに係ること。

**離跋** リハツ 俗世間を隔たること。

一隔世。「席」を張る

**離宴** リエン 別れの酒宴。送別の酒

**離家** リカ はなれや。隣りのなき家。ひとつや。孤屋。子亭。

**離宮** リキョウ 天皇の御出遊などに供ふるため常の皇居の外に設けおく宮殿。「る」と。

**離畔** リハン はなれそむくこと。離れ

**離情** リジヨウ 別れを惜む情。

**離婚** リコン えんきり。離縁。夫婦別れ。(法)夫妻の關係を將來に無効ならしむる法律行爲。

**離絶** リキツ 離れ遠ざかること。交りななつこと。

佳部 十畫以上

**離過** リカワ 離れすぎること。

**離沮** リシヨ みだれやぶること。

**離散** リサン はなれちること。ちりぢりばらばらになること。

**離開** リカイ 出立のこと。はなれ開くこと。はなし開くこと。

**離間** リカン 互に仲あしくさすこと。他の惡意にせる間をさくこと。一仲傷。

**離棄** リキ はなしすつこと。

**離落** リラク 家來などの主人と運命を共にせず密かに敵に降ること。一内應。

**離解** リカイ ばらばらにほごすること。

**離琴** リシン 大いなる琴。

**離歷** リレ 取揃へること。整へること。

**離愁** リシウ わかれのなげき。

**離魂** リシ 死者のおもかけ。

**離群** リクン なかまはずれ。孤立。

**離隔** リカク 間をはなしへだつること。はなれへだつこと。離間。

**離經** リケイ 經書をとき分けること。

佳部 十畫以上

**離筵** リシ 別れのために酒を酌む席。送別會。

**離歌** リカ 知人などに別れることを惜みて咏む歌。一離詩。

**離樓** リロウ いろいろの木の交りあふありさま。

**離縁** リエン えんきり。夫婦間又は養親・養子間の關係を絶つこと。(法)養子縁組の關係を解除する法律行爲。

**離縱** リシヨウ 世間の惡聲をきかぬやうに自から遠くかけ離れること。

**離懷** リクワイ 別れを惜みての物思

**離離** リリ はなればなれなること。

**離靡** リヒ 物の引續くこと。

**離顯** リケン 明らかに顯はすこと。

**離遷** リエン 金銀又は玉などをちりばめ刻むこと。

**離魂病** リシヨウ 魂の抜け放れる一種の神經病。睡眠中に種々の事をしながら覺めて後更に覺

佳部 十畫以上

えなしといふ。

**離塵服** リシツク けさ。僧衣。

**離縁狀** リエンジヨウ 夫より妻に離縁の證として與ふる書付。さりじやう。みくだりはん。

**離間策** リカンサツ 互の仲をはなしさくばかりこと。

**離心率** リシツツ(數)圓錐曲線の焦點の中心よりの距離と其長半徑との比。

**離瓣花冠** リペンクワツ 各花瓣の離れたる花冠。「る」と。

**離門離戶** リモノリコ 出入を差止めなれて散居すること。

**離群索居** リクンサツキヨ なかまをはなれて散居すること。

ダン。ナン。かたし。おもし。せむる。なやみうれふ。わざはひ。うかる。たしなめらる。えらむ。そしり。むづかしきこと。

**難** ナン 及ぶがたきこと。

**難文** ナン 難解の文章。

佳部 十畫以上

難句 ナシク 詩句の解し難きもの。  
 難地 ナシク 凌ぎ難き土地。困難な  
 地。①の視察。  
 難行 ナシク 極めてつらき修行。  
 僧徒の修行のためにする難儀  
 なる行。①苦行。  
 難色 ナシク 承諾の返事を聞く  
 べき時に相手の顔色を見て不  
 承諾を知ると。  
 難件 ナシク 厄介なる事件。處理  
 のむづかしき事件。  
 難字 ナシク むづかしき文字。  
 難危 ナシク 危難に同じ。  
 難忍 ナシク がんがまんが仕切れぬと  
 難局 ナシク 事の處し難き所。處  
 理するに面倒なるばあひ。  
 難所 ナシク 困難の所。げはしき  
 所。通り難きところ。  
 難治 ナシク 病の癒え難きこと。療治  
 のとどかねと。なままりがたき  
 と。①の疾。

佳部 十畫以上

難耐 ナシク がんがまんが仕切れぬと  
 難命 ナシク 難題の命令。①餘  
 儀なし。  
 難風 ナシク 船の進行するに困難  
 難事 ナシク 難かしき事柄。  
 難阻 ナシク 難關に均しく山など  
 の噴阻のために妨げられること。  
 難法 ナシク 物の法式のむづかし  
 きこと。①解し難し。  
 難易 ナシク むづかしきとやすき  
 難抵 ナシク あたりがたきと。  
 難物 ナシク 處置し難きもの又は  
 人。もてあましもの。①非常の  
 病。①病さいふ。  
 難疾 ナシク むづかしい病。又難  
 難症 ナシク なほりにくき病氣。  
 難務 ナシク 難儀なるつとめ。  
 難道 ナシク 言ひ難き義。悪しき  
 道。  
 難問 ナシク 答へに困しむ問ひ。  
 難産 ナシク 産に臨みて胎兒が安  
 らかに出でずして苦むこと。おも

佳部 十畫以上

難破 ナシク 風にあたりて船の破  
 難章 ナシク 難解の文章。  
 難船 ナシク 荒波のために船の破  
 損し又はうちしづめらるること。  
 難進 ナシク 進みかぬること。  
 難語 ナシク むづかしき言葉。  
 難解 ナシク 解しにくきこと。解釋  
 しがたきこと。むづかしきこと。①  
 の問題。  
 難路 ナシク 困難なる道路。げはし  
 きみち。①惡道。  
 難業 ナシク 苦しき事業。  
 難義 ナシク 解し難き意味。わかり  
 にくき意味。くるしみ。  
 難詩 ナシク 難解の詩。①難文。  
 難當 ナシク あたりがたきこと。  
 難澁 ナシク 事むづかしくはかど  
 りがたきこと。やすくと通じざ  
 ること。①至極。  
 難艱 ナシク 苦しみなやむこと。か  
 たきこと。あらくして手にあはぬ

佳部 十畫以上

難儀 ナシク 難澁。苦しきこと。なや  
 難論 ナシク むづかしき議論。  
 難戰 ナシク 苦しき戦ひ。困難な  
 る戦争。①數刻に渉る。  
 難辨 ナシク 取り捌きにくきこと。  
 難險 ナシク けんその山。峠道な  
 どのげはしきこと。  
 難講 ナシク 述べにくきこと。  
 難題 ナシク 詩歌文章などの題の  
 作るに難きもの。解しにくき質  
 問。無理なるいひかけ。むづか  
 しいひがかり。  
 難關 ナシク 隔ての關所。たやす  
 く通られぬ所。①を越ゆ。  
 難癖 ナシク 非難すべき點。きず。  
 難料理 ナシク 取捌きにくきこと。  
 難行通 ナシク 自力によ  
 り修行の功を積みて、證果を得  
 んとする教法。  
 難破船 ナシク 難破したる船。

雨部

### 雨部

雨 ウ。あめ。  
 雨天 ウ。雨降る日。雨降る空。  
 雨順 ウ。順延。①も厭はず。  
 雨中 ウ。雨のふる中。①を  
 雨月 ウ。陰曆五月の異稱。  
 雨乞 ア。早のとき雨を神佛。  
 龍神などに祈り乞ふこと。  
 雨衣 ウ。あめ。あまみづ。  
 雨衣 ウ。あまだうぐ。雨具。雨中  
 用のころも。  
 雨足 ウ。あまあし。①早し。  
 雨季 ウ。雨の多くふる頃。  
 雨注 ウ。雨の如く注ぐこと。矢。  
 彈丸などが雨の如く來ると。  
 雨虎 ウ。海を底を匍匐する軟  
 體動物。あめふらし。  
 雨施 ウ。雨を降らせること。廣く  
 雨をふり及ぼせると。

雨部

雨師 ウ。星の名。二十八宿の一  
 たる畢星の名。雨の神といふ。  
 雨蛙 ア。カエル(動)かへるの一種。  
 形は小に體色は淡綠又は茶褐  
 色。指趾の末端に圓形の吸盤あ  
 りて巧に樹木の枝葉に攀づ。  
 雨燕 ア。ツバメ(動)一種の鳥。形普  
 通の燕に似て大きく腰部は白  
 色なり尾短くして分叉せず夏  
 は群をなして深山の懸崖に巢  
 を營む。①り。①の月。  
 雨後 ウ。雨降りのおと。雨が  
 雨承 ウ。あまうけ。雨の滴り  
 をうくるもの。  
 雨度 ウ。雨の降りし分量を計る  
 雨息 ウ。雨の止むこと。「機械。  
 雨氣 ウ。雨の降りさうなる空氣  
 雨時 ウ。雨の多くふる頃。雨季。  
 雨淋 ウ。雨にぬれること。雨のし  
 づく。雨の滴り。  
 雨雪 ウ。雨交りの雪。みぞれに

雨部

均しきもの。雨と雪と。  
**雨痕** ウツシ 雨の降りたる後、濡れ後などをいふ。「たるこぼれ」。  
**雨絲** ウツシ 雨の降る有様を見立てて。雨脚、ウツシ 雨の降るさまを形容して。雨を足に見立てたる言葉。  
**雨鳥** アマリ (動) 燕に似て腹黄色に雲雀の如き斑紋あり雨の降らんとする時群飛す。  
**雨晴** ウツシ 晴雨に同じ。降るとはれると。①一定まらず。  
**雨雲** クワン あまぐも。雨降る雲。  
**雨量** ウツシ 雨の降る分量。  
**雨意** ウツシ 雨を持てゐる空氣。雨もやう。①風心。  
**雨滴** ウツシ 雨の雫のしたたること。  
**雨儀** ウツシ 雨天の時に禁中の御儀式を省略せらるることの稱。後ち凡ての公事を略せるにもいへり。  
**雨餘** ウツシ 雨はれたる後。あまあ  
**雨龍** アマリウツシ 想像の動物、龍の一

雨部

種角なく尾赤く細くさかけの大なるが如き形に描けるもの。  
**雨聲** ウツシ 雨の降る音。  
**雨霧** アマリ 雨ともいふべきほどに甚だ深くふりくる霧。  
**雨曝** アマリ 物を雨のかかるにうち任せおくと。  
**雨露** ウツシ 雨と露と。うるほひ。①を凌ぐ。  
**雨籠** アマリ 雨のために外出せずして家に籠り居ること。  
**雨後笥** ウツシ 雨後発生する物事にたこへていふ語。  
**雨量計** ウツシ 雨量をはかる具。圓筒にして漏斗状の蓋にて蔽ひ其の中央の小孔を穿ち筒内に溜りたる水の深さによりて雨量を算出す。  
**雨畑石** アマリ 甲州富士川の川筋に産する粘土板岩、古來硯材として用ひらる。  
**雨乞使** アマリ 古神泉苑にて

雨部 三畫

あまごひに五龍祭を行はせられしとあり、その時使者になつもの、六位の藏人、これをつとむ。  
**雨寶童子** ウツシ 天照大神の雨順延、ウツシ 集會などにて其の當日が雨天なれば其の翌日に延ばしその翌日又雨天なれば更にまたその翌日に延ばすといふ如く雨天の日を取除きその次に來る晴天の日に行ふと。  
**雨** (國字)。しづく。あまだり。したたる。ウツシ。  
**雪** あまごひにじ。セツ。セチ。ゆき。しるし。はらふ。ぬぐふ。  
**雪山** ウツシ 雪を以て築きたる山。ゆきやま。雪を以て蔽はれたる

雨部 三畫

山。  
**雪女** ユツメチ 俗に雪の精なりといふ。深山などにて雪の中に女の貌を現するもの。  
**雪天** ユツシ 雪の降る空。  
**雪中** ユツシ 雪の中。雪の降るなか。①行軍。  
**雪水** ユツシ 雪どけの水。  
**雪白** ユツシ 雪の如く眞白なること。  
**雪片** ユツシ 雪のひら。  
**雪泥** ユツシ 雪と泥と。雪とけて生ずるぬかるみ。  
**雪色** ユツシ 雪のけしき。ゆきのいろ。白き色雪のけしき。  
**雪下** ユツシ 山風の雪を吹きおろすもの。綿を入れたる袋を袍のさきにつけて太鼓を叩く芝居の鳴物。  
**雪下** ユツシ (植) 虎耳草科に屬する草、葉は心臟形を爲し花瓣は大小不揃にして、小さき瓣には小さき斑點あり、觀賞用とし

雨部 三畫

て栽培せらる。「たる詞」。  
**雪花** ユツシ 降る雪を花に見立てる。雪花、ユツシ 雪あかり。「だ」。  
**雪肌** ユツシ 雪のやうな肌。白きは雪行、ユツシ 雪中を行くこと。  
**雪吹** ユツシ 雪の風まじりにふりて散亂すること。風雪。白髪まじりの頭髮の形容詞。ふぶせ。  
**雪汚** ユツシ 穢れたるを清めんと。  
**雪足** ユツシ ぬきあし。さきあし。  
**雪明** ユツシ 積雪のためうす明るきこと。雪光。ゆきあかり。「含む」。  
**雪君** ユツシ 梅の異稱。①笑を竹木の折れること。①竹。  
**雪兒** ユツシ うたひ女。藝者。  
**雪雨** ユツシ 雪と雨。みぞれに似たるもの。雪に雨の交りて降ると。  
**雪冠** ユツシ 雪の冠り。老人の白雪を形容したる語。①の老時  
**雪洞** ユツシ ぼんぼり。紙燭に同じ、手燭の一種。

雨部 三畫

**雪客** ユツシ 雪の異名。  
**雪後** ユツシ 雪の降つたあと。穢れた後を雪ぐ意味の言葉。①廓  
**雪雲** ユツシ ゆきぐも。「清」。  
**雪洗** ユツシ 清むること。雪ぎ淨むること。①雪辱。  
**雪消** ユツシ 雪のとくると。雪ぐえ模様。  
**雪氣** ユツシ 雪の降らんとする空氣。  
**雪柳** ユツシ こめざくら。いは雪辱、ユツシ 耻を雪ぐこと。  
**雪案** ユツシ 雪を集めて灯とする机をいふ。學問することの形容。①盤窓の苦學。  
**雪堆** ユツシ 雪の積る。①雪  
**雪差** ユツシ 白くて雪も恥づるばかりとの義。「ゆきだま」。  
**雪毬** ユツシ 雪にて作りたるたま  
**雪粒** ユツシ あられに同じ。  
**雪宛** ユツシ むじつの罪をすすぐこと。①の策を講ず。  
**雪意** ユツシ 雪の降りさうな空。

雨部 三畫

の雪もやう。「んな。  
**雪精** ヲキイ ゆきをまこと。ゆきを  
**雪遊** ヲキヨビ 小供などの雪の中  
 に種々の事をなして遊ぶと。  
**雪暮** ヲボキ 雪のふる夕。  
**雪線** セウセン (地) 地面より數尺  
 の上にて雨の常に雪となるべ  
 き境に設けたる想像線。  
**雪鞋** セウケ 雪靴。ゆきわらぢ。  
**雪膚** セウフ 雪の如く白きはだへ。  
**雪燒** セウケン 寒氣の爲めに手足な  
 ごの爛れると。  
**雪踏** セウタク はきもの、一種、竹の  
 皮の草履の裏に牛の皮をつけ  
 たるもの。  
**雪類** セウレイ 山上の積雪が春の  
 陽氣の爲に融けつれて落つ  
 ると。なだれ。  
**雪隠** セウイン かばや。便所。  
**雪見月** セウミツ 陰曆十一月の異  
 稱。又雪待月ともいふ。  
**雪花菜** セウカサイ 豆腐のから。か

雨部 四畫

ら。うの花。  
**雪達磨** セウタルマ 雪をかためて造  
 りたる達磨の像。「ふれ。  
**雪見船** セウミナベ 雪見の際に乗る  
 雪模様 ヲキモヨリ 雪のふらんとす  
 るそらあひ。「やうこ。  
**雪下紅** セウカコウ (植) ひよどりじ  
**雪見燈籠** セウミトウロウ たけ低く笠  
 大きく外に張り出でたる三脚  
 の石燈籠。  
**雪中行軍** セウチュウカウケン 雪中に於  
 て行ふ軍隊の行軍。  
**雪泥鴻爪** セウニコウソウ あとかた  
 なきと。ゆくへの不分明なると  
 僧。

雨部 四畫

雲上 ウンジョウ くものうへ。禁中。  
**雲中** ウンチュウ くものなか。  
**雲丹** ウンニ (動) 海膽類に屬する棘  
 皮動物、圓形輻狀の介殼は黒紫  
 色をなし海濱の岩礁上に多く  
 之を見る。  
**雲山** ウンサン 高くそびだてる山。  
**雲母** ウンボ (礦) 板狀又は片狀の  
 硅酸礦物にして花崗岩中に存  
 在し薄きを以て剝離すれば片  
 々弾力性を有して光澤あり。  
**雲半** ウンハン 陰曆十一月の異稱。  
**雲外** ウンガイ くものそと。  
**雲衣** ウンイ 雲を衣に譬へていふ。  
**雲色** ウンシヨク 雲の色合。曇り色。  
**雲車** ウンシャ 二階造りの車。米國  
 邊りの汽車は二階造りなり。  
**雲和** ウンワ 琴の異名。  
**雲來** ウンライ 雲の如く多くあつま  
 り來ると。一時に物の集まる形  
 容。  
**雲雨** ウンウ 雲と雨と。男女の交り

雨部 四畫

男女の共寢。立身出世の機會を  
 得ると。①に乗す。  
**雲臥** ウンゴリ 世を避けて深山など  
 に棲むと。  
**雲版** ウンバン 一種の樂器、からか  
 れの板にて作り周圍に雲がた  
 の模様をつけたるもの。  
**雲封** ウンフウ 雲に閉せられると。  
**雲表** ウンヘウ 雲外に同じ。高き建  
 築物などの形容にいふ。①に  
 從ゆ。  
**雲烟** ウンエン 雲と烟と。薄雲。山水  
 の名畫などにいふ語。物の過ぎ  
 去る形容。①過眼。  
**雲泥** ウンニ 雲と土。相違の甚し  
 きと。物の非常にかけ離れた區  
 別をいふ。①の差。  
**雲客** ウンカク 殿上人。貴人の稱。四  
 位以上の公家。  
**雲氣** ウンキ 氣象變化の爲め雲の  
 動くさま。空に立ちのぼる一種  
 異様の氣。

雨部 四畫

**雲峰** ウンホウ 夏の雲の色々の形を  
 なして山の如くに積み重なり  
 て一種の峰を形造りたると。  
**雲脂** ウンシ 頭のふけ。  
**雲脚** ウンキョク くも足。雲の長く行  
 くさまをいふ。  
**雲梯** ウンテイ 高きはしご。古城攻  
 めなどに用ひしもの。深山など  
 に雲を凌ぐほど高く架けたる  
 橋。①を架す。  
**雲彩** ウンサイ 雲の色どりをいふ。  
**雲尊** ウンソン 雲の模様を付けた盃  
**雲胎** ウンタイ 雲を畫きたる幡。  
**雲間** ウンカン 雲のきれ目。①一  
 瞥。  
**雲集** ウンシツ 雲の如く集ると。多  
**雲根** ウンコン 石の稱。「銀河。  
**雲漢** ウンカン 天つ空。大空。天の河  
**雲箋** ウンセン 人の手紙に對する尊  
 稱。①難有拜見。  
**雲齋** ウンサイ 織物の名。地粗く文  
 斜に織りたる厚き木綿布、足袋

雨部 四畫

の底又は船の帆などに用ゆ。  
**雲際** ウンサイ 雲の端。雲の邊り。  
**雲霄** ウンセウ 雲のある邊り。天空。  
**雲輜** ウンシ 輜車の車。「機。  
**雲龍** ウンリョウ 雲と龍と。①の模  
**雲霓** ウンゲイ 雲とにじと。雨ふら  
 んとして雲だつと。①の如し  
**雲額** ウンガク 雲のと。芝居等の諸  
 狂言に用ゆ。  
**雲騎** ウンキ くり。かげり。  
**雲霞** ウンカ 雲と霞と。物の夥しく  
 群れるにいふ語。(動) 有吻類中  
 蟬類に屬する小蟲、體の長さ二  
 分許、頭は突出し首翅は鱗狀を  
 爲して毛なく後翅は長くして  
 腰節に毛あり、多数群を爲して  
 稻田に來り軟葉又は花の汁を  
 吸ひ稻を枯らす。  
**雲霧** ウンム 雲と霧と。「文。  
**雲鶴** ウンカク 親王の袍につくる  
**雲南香** ウンナンカウ 雲南地方に産す  
 る麝香。雲南麝香の略。



雨部 四畫

雲上人 ウンジンヤウ 禁中に伺候せる公卿などの稱。くものうへ人

雲中白鶴 ウンチュウハククワク 俗に抜けたなれたる氣宇ある人といふ語。

雲心月性 ウンシングツセイ 利慾の念が機會に遭遇して立身出世するを雲起りて池中に潜みし靈魚の龍となるにたとへていふ語。

雲集霧散 ウンシムサン 多くのものがよりあつまり又は散りくくなる状態にいふ語。

雲泥萬里 ウンニマンリ 雲と泥との如き非常なる懸隔あるにいふ。雲煙過眼 ウンエンカガン 其の場のみ目を止むるばかりに之に心の執着せざるをいふ。

雲龍井蛙 ウンリョウイワ 賢愚・地位の互に懸隔することの極めて大なるものになたとへていふ語。

雨部 五畫

【霽】 ハウレバウ。ゆきふる。ゆきさかんなり。あめそそぐ。

【霧】 フン。ホン。ゆきとぶ。きり。

霧霽 フンサン 雪霜の寒さうな様にいふ。雪霽。

霧埃 フンアイ ちりあきた。

霧圍氣 フンキ 地球又は他の天體を圍繞する氣即ち空氣。

【電】 テン。デン。いなびかり。いなづま。

電子 デンシ (理)物質の原子を構成する假想的微分子。「句。電文 デンブン 電信の文。電報の文。電火 デンカ 火の火。いなびかり。「ま。石火。電光 デンクワ いなびかり。いなづ電池 デンチ 電氣をおこし貯ふる陶器製の壺。

電報 デンパウ 電信機にて通ぜしむる電路 デンロ 雷電の通ずるみち。

電覽 デンラン 人の見ること。敬語電鞭 デンベン いなびかり。又電花 さいふ。

電子説 デンシツ (理)物質の原子は陰陽兩電子より成るといふ假説。

電信局 デンシンキョウ 電信を取扱ふ局。「する柱。電動柱 デンシンバシラ 電信線を支持する針金。電信料 デンシンリョウ 電信取扱の料金。電信機 デンシンキ 電流によりて通信する機械。

電信隊 デンシンタイ 電信の架設に従事する工兵の一部隊。

電話機 デンワキ 電流によりて遠方の人と談話する機械。

電解物 デンカイブツ (化)電流により

雨部 五畫

電車 デンシャ 電力によりて軌道の上を走る車。

電柱 デンチュウ 電信・電話などの柱。電閃 デンセン 電光のきらめくこと。

電信 デンシン 電力に依て通信すること。電信機 による通信。

電力 デンリョク 電氣が原動力となりて種々に動く力。電氣力の略。電解 デンカイ (化)電流の通ずること。物質の分解すること。

電訓 デンクン 電報にて訓令すること。電位 デンイ (理)電氣を帯びたる二つの導線をつなぐとき電氣が導線に流動すれば其二つの導線は電位異なりといふ。

電壓 デンアツ (理)二つの導線の電位の差、即ち電動力の稱。

電場 デンヂヤウ 電氣を帯びたる物體の作用の及ぶ場所。

電命 デンメイ 電報によつての命令。電擊 デンゲキ 電氣に打たれること。

電氣計 デンキケイ (理)物體の電位電氣盆 デンキボン (理)エポナイト板とガラスの柄とを備へたる金屬板とより成り電氣を集むる器。

電氣石 デンキセキ (礦)硫酸鹽物的一種。破璃光澤を有し色は黒。褐・青・紅等あり熱すれば電氣を起す。

電氣燈 デンキトウ 電流の熱作用を利用してたる燈火、普通略して電燈といふ。

電磁石 デンジマシタ (理)コイルに軟鐵の心を入れたるものにしてコイルに電流を通ずるときは磁石となる。

電磁波 デンジハ (理)電氣振動の行はる、時其の周圍の電場に振動的變化の傳はるる。

雨部 五畫

電機 デンキ 電氣の力を應用したる機械。

電輝 デンキ 電氣性をもてるうな電線 デンセン 電氣の通ふ線。

電流 デンリウ (理)電位の異なる二物體を導線にてつなぐとき電氣が其の導線を傳はりて通ずること。「すると。

電療 デンリョウ 電氣力にて病を治療電鍍 デント 電氣めつきの略。電氣力を以て金銀銅などを流し懸けること。「りと。

電氣 デンキ 物と物と摩擦するより生ずる一種の力、熱及び光を發し他物をひきよせ又ば反撥する力あり。「りと。

電雷 デンライ いなびかりとかみな電話 デンワ 電話機械によりて所を隔てたる人と談話すること。電話機 の略。

雨部 五畫

電鈴 デンレイ 電氣じかけてなる呼

雨部 五畫

兩部 五畫

**電鑄術** デンシユウ (理)電氣分解によりて鑄物を作る術。模型に黒鉛を塗りたるものを陰極とし鑄造せんとする金屬板を陽極とし其の金屬の鹽類溶液に電氣分解を行ふときは其の金屬は模型に附着す。「かす力」

**電動機** デンドリョウ (理)電氣を動て廻轉運動を起す機械。

**電流計** デンリョウケイ (理)電流の強さを計る器械。

**電報料** デンパウリョウ 電報を取扱ふために其の當人より徴收する料金。「製造する術」

**電版術** デンバンジツ (理)電氣版を電鍍術 デンコウジツ (理)電氣分解による鍍金法、鍍金せらるべき金屬を陰極とし鍍金せんとする金屬板を陽極とし此の金屬の鹽類溶液の電氣分解を起さしめて爲す。

兩部 五畫

**電話料** デンワリョウ 自動電話などにて通話をなすもの、其の都度納入する金。「の番號」

**電話番號** デンワバンガウ 電話加入者電話交換 デンワカウケン 電話機によりて双方互に話を爲し合ふこと。

**電光石火** デンクワウセキカ いなづま又ばうち石の火の如く至極すばやく且つ瞬間の意義。㊦の働き。

**電信爲換** デンシンカヘ 普通の音信によらず電報にて取り扱ふかはせ。

**電氣鍍金** デンキメッキ 電鍍術によりてめつきすると。又そのもの

**電氣銅版** デンキドウバン 電鑄術によりて原版と同一に製造したる銅版、原版の模型の面に石墨を塗りたるものを陰極とし銅塊を陽極として銅の鹽類溶液中に入れ其の溶液の電氣分解を

兩部 五畫

行はしむれば銅は模型の面に附着す、之を取り去れば原版と同一の銅版を得。「鐵道」

**電氣鐵道** デンキテウダウ 電車の走る電氣振子 デンキシン (理)ガラスの支柱の上端に鉤を付し之に絹絲にて接骨木心の球を吊したるもの。

**電氣振動** デンキシンドウ (理)電氣が二つの導體の間に反覆往來するもの。

**電氣療治** デンキリョウヂ 電氣を身體に通じて神經筋肉に刺激興奮を與へ以て病氣をいやすこと。

**電氣療法** デンキリョウホウ 電氣療治による方法。

**電氣容量** デンキリョウリヤウ (理)蓄電器の内外二面の電位の差を一ヴォルトだけのぼすに要する電氣の量。

**電報用紙** デンパウヨウシ 電報の文句を認めて出す規定の川紙。

兩部 五畫

**電母雷公** デンボライコウ いな光りとかみなりの形容。

**電氣指力線** デンキシヨウリキ (理)電氣の作用する方向を示す曲線。

**電氣振動器** デンキシンドウキ (理)電氣振動を起すもの。

**電話使用料** デンワシヨウリョウ 電話加入者が電話の使用に對して納付する金。

**電信爲替證書** デンシンカヘシヨウシヨ 電信爲替の受取人に其の拂渡局より送達せる爲替證書。

**電話交換局** デンワカウケンシヨウ 逓信大臣の管轄に屬し四方の電話線をあつめ依頼に應じ指定の電話番號へ接続せしむることを取り扱ふ役所。

**電** デン ホウ。ヒウ。ム。

**電** デン きりふる。くもり。

**電** デン ハク。ホク。

**電** デン あられ。ひさめ。

兩部 五畫

**電** デン あられ。ライ。かみなり。

**雷** ライ いかづち。

**雷丸** ライクワン (植)竹林中に生ずる下等植物にして粟又は無患子の實に似、重くして堅く外黒くして内白し一種の藥劑とせらる。「たる火災」

**雷火** ライカ 落雷のためにおこり

**雷文** ライブン 電光の線を畫きて物の模様などとせるもの。「と」

**雷打** ライダ 雷の電氣に打たれる

**雷石** ライセキ 礫(砂地に落雷ありて砂粒の溶解せられて合成したる管状のもの。昔の戦争に攻城砲として用ひし石。「まて」

**雷光** ライクワウ いなびかり。いなづ

**雷名** ライメイ 廣く世間に名の知られたること。他人の名聲の敬稱。

**雷同** ライドウ わげもなく同意すること。善惡に拘はらず人と一所に

兩部 五畫

**雷雨** ライウ 雷鳴り雨降ること。

**雷鼓** ライコ 八面又は六面の太鼓。

**雷獸** ライジウ (動)形てんに似たるもの、雷鳴の時に出来るといふ。「又雷公といふ」

**雷神** ライシン かみなり。いなづま。

**雷管** ライクワン 發砲するまき火薬に火をおこすしかけのもの。

**雷鼓** ライコ 神の持つといふ太鼓。一種の太鼓にして八面あるもの。「たる盃」

**雷尊** ライソン 雲の模様などを畫き

**雷鳥** ライチュウ (動)鶉鷄類に屬する鳥 高山に棲み形鷄に類す。

**雷鳴** ライメイ かみなりの音。雷の鳴ること。㊦一轟々。

**雷除** ライジョク かみなりをよくるための装置。避雷針。「と」

**雷狼** ライラウ 雷電のなりはためく

**雷動** ライドウ 世に鳴り響くこと。㊦一世をす。「轟々の略」

**雷轟** ライカウ かみなりの音。雷鳴

雷封 ライフウ 村の代官。

雷響 ライヤウ かみなりの響。

雷陣 ライチン 古禁中にて雷が三た

びはげしく鳴る時近衛の将官が弓箭を執り伺候して守衛し奉りし所。

雷電 ライデン かみなりといなづま

雷斧石 ライフセキ かみなりのよま

りもの、石器時代の遺物。

【零】

あめふる。あまり。のこり。おつる。すすし。くだく。空位の數、數の全くなきこと。ぜん。

零丁 ライテイ おちぶるゝこと。

零本 ライホン はほん。

零露 ライロ 滴る露。

零落 ライラク 草木の萎むこと。人の

おちふれたること。又零替といふ

零細 ライサイ いとこまかきこと。

零時 ライジ 十二時と一時との間。

零碎 ライサイ こまこましたもの。

零星 ライセイ 詩歌などの纏まらぬ

原稿をいふ。【點滴】。

零零 ライライ 滴り落つるさま。

零賣 ライバイ 小賣。

零錢 ライゼン つりせん。【の度。

零度 ライド 度を起算するはじめ

零點 ライテン 試験などの點數の少

列氏寒暖計にて氷點の稱。

零亂 ライラン ばらばらとて揃は

すにあること。ばらせん。

零崎 ライキ ばした。端數。【ご。

零餘子 ライヨシ (植)むかごぬか

零子戲 ライシキ 芝居の切狂言。

六一七畫

【雷】 シユ。シユ。ナン。セン。まつ。うたがふ。ととめ。

需要 ジユウ 入りありて求めること

(經)財を獲得して之が報酬として支拂ふべき他の財を有するものが其の財を獲得して慾望を充たさんとする願望。【一供給】。

需給 ジユキウ 需要と供給と。

需求 ジユキウ 求めること。

需用 ジユキウ 入用。求めること。

【震】 テイ。グイ。はるる雲。あめやむ。シン。うごく。ふるふ。おこる。おどす。おそる。はらむ。いかる。いかつち。おこす。

震力 シンリキ 地震の力。

震厄 シンヤ 地震の災ひ。【ご。

震死 シンシ 雷にうたれて死ぬる

震防 シンボウ 地震を防ぐこと。

震災 シンサイ 地震の災害。

震央 シンヤウ (地)震源の直上なる

地表の稱。【まふご。

震怒 シンド 君主の劇しく怒りた

震幅 シンブ (地)地盤の震動が地

震計に感じて記されたる波の

はい。【ふるひうごこと。

震蕩 シンタウ ふるひうごかすこと。

震源 シンゲン (地)地下に於ける地

震の起點。

震駭 シンガイ ふるひおどるゝこと。

震撼 シンカン ふるひうごかすと

ふるひうごこと。

震域 シンキキ (地)地震にて地盤の

震動を感知し得べき區域。

震電 シンデン 雷の鳴りはためくこ

とこいな光りと。【くと。

震懼 シンキウ おそれて震ひおの

震動 シンドリ 震ひ動くこと。きびし

き動きの形容。【世界をす。

震驚 シンキヤウ ふるひ驚くこと。

震澤 シンタク 大きな湖水の名。

震霆 シンテイ かみなり。

震震 シンシン ふるひわななくさま

又ばぞつさするばかり嫌悪す

震度 シンド 震力の度合。

【霆】 テイ。チャウ。いなづま。

【霄】 いなびかり。いかづち。

【霄】 セウ。そら。あられ。

【霄】 たかし。みそばき。

霄壤 セウジヤウ 天地に同じ。【一月

【霄】 雲の差。

霄雪 セウセツ みぞれ。

霄霧 セウモ 幽冥におなじ。

霄漢 セウカン おほぞら。虚空。

霄嶺 セウレイ おほぞらにそびへた

るみね。

【霈】 チン。ながあめ。そらく

【霈】 もる。ひさしくくもる。

霈雨 チンウ ナが雨。霖雨。

【霈】 レク。モク。

【霈】 こさめ。

【霈】 パイ。メ。

【霈】 つゆのあめ。

【雲】 タフ。サフ。かまびすし。

【雲】 雨ふる。水の名。震電の

【雲】 貌。

【雲】 雲然 サラシ 物事の散るさまにい

【雲】 ふ語。【にいふ語。

【雲】 雲煙 タウエン ひかりかやくさま

【雲】 雲々 タウタウ 雲電の貌。

【雲】 八

【霖】 リン。ながあめ。ひさし

【霖】 きあめ。あめのふるさま

【霖】 雨のやまざること。

霖雨 リンウ 幾日も降りつづく雨。

【霖】 ながあめ。【陰々。【いふ。

霖潦 リンロウ ながあめ。又霖瀝さ

霖潤 リンジュン ながあめの濕氣。

霖濕 リンシツ 五月雨の曇り天など

【霖】 の如くしめりがちなること。

霖淖 リンチャウ ながあめにてぬかる

【霖】 こと。霖雨中の泥濘。

【霽】 ガイ。ゲツ。

【霽】 にじ。めにじ。

【霑】

テン。うるほす。うるほふ。そそぐ。おつる。ひたす。ぬらす。

【霑】

テシ。うるほひぬるゝもの形容。

【霑】

テシ。點火。燈火をつける

【霑】

テシ。大いに酔ふこと。

【霑】

テシ。あせにじむこと。

【霑】

テシ。はだをぬらすこと。

【霑】

テシ。うるほしそゞぐこと。

【霑】

ハイ。おほあめ。みづながる。澤の多きこと。

【霑】

ハイ。大雨の降るさまにいふ語。物事の多大なるにいふ語。驟雨として至る。

【霑】

ヒ。ゆきふる。こさめ。ひらめく。

【霑】

ヒ。じよばく雨。

【霑】

ヒ。小雨のふるさま又は細かなるもの數多降り來るさま

なごにいふ語。細雨。霏微と雨細やかに降る貌。サフ。セフ。

【霑】

こさめ。あめふる。

【霑】

ささ。小雨の降る聲。

【霑】

クワク。ラク。とぶ。ふる

【霑】

ふ。まめのは。かこむ。

【霑】

山の美事に茂りて見ゆる貌。雨などのやみて急に雲の散する貌。又霍焉といふ。

【霑】

夏の暑さにあたり吐瀉などする病。

【霑】

さかん。ひらめく

【霑】

守り育てること。

【霑】

カケ。ゆうやけ。かすみ

【霑】

あかれ。あきやけ。

【霑】

かすみ。もや。かすめる

【霑】

カ。きり。さざり。さま。

霞彩。美しい色の雲。朝日の影。夕やけなどいふ。「峰」

霞峰。かすみのたなびける

霞洞。仙人の住所。上皇の御所。仙洞に同じ。

霞際。かすみのほざり。

霞奥。かすみのおく。霞の立ちこめたる奥の方。

霞衣。霞を衣に見なしていふかすみのころも。「の方」

霞底。霞のたちこめたる底

霞眉。かすみをさして粧ひたる眉。徳川時代奥女中の間に

行はれしも。

サウ。シャウ。しも。はげし。氣温低降して水點以下に及ぶとき露又は水蒸氣の凝結して地表などに白く敷くもの。

霜天。霜の降る天。

霜先。寒くならんとする前霜の降らんとする頃の始。

霜夜。霜の降る寒き夜。名香の名。ぢんの一種。

霜除。草木などの霜にいたみらるるを防がんとす。藪などにその上を覆ふこと。

霜朽。しもやけ。「る草」

霜草。しもの降りかゝりたる草

霜籬。しもの降りかゝりたるまがき。

霜枯。霜に逢ひて草木などの枯れ萎むこと。冬などの寒き空

合の景。商賣の景氣あしきこと。

霜月。陰曆十一月の異稱。

霜氣。霜の寒さ。霜將さに降らんとするけはひ。肌を刺す。

霜雪。霜と雪と。頭髮の白きにいふ語。の苦をなめつ

霜降。二十四氣の一、秋季の末にして陽曆十月の二十二日頃をいふ。

霜腫。しもやけ。

霜林。しもの降りかゝりたる林。

霜釘。霜のために凍り付く霜の降りたる寒き曉

霜曉。霜の降りたる寒き曉

霜橙。熱したるくれんぼ。

霜降。霜の降ること。霜のふりかゝりたるが如き模様。赤貝

霜威。しものするごとく寒き

霜烈。しものほげしきこと。

霜毫。しもき毛。

霜曇。霜の降らんとする前

霜臺。彈止臺の唐名。「も」

霜燒。寒氣に申りて手足などの皮膚が脹れたること。

霜鬢。白髮の鬢。

霜蓬。しものかゝりたるもぎ。老人の白髮におどるに似したるにたさふ。

霜霰。フ。ホウ。ム。

霜霰。エイ。ヤウ。みぞれ。たなびく。あられ。

霜霰。リウ。ル。あまたれうけ。あまたり。したたり。

霜滴。あまたり。あまたれ

霜槽。雨垂れの流れる樋

霜脈。ハク。ミヤク。

霜脈。こさめ。霖の木字。

霜淫。ながあめ。

霜淫。淫雨。又霖

雲陰イシシ。長雨の曇り空。淋しく陰氣なること。①として日光を見ず。

【霧】

プム。ホウ。くらし。おほふ。きり。地表に浮遊する水分の煙の如く見ゆるもの。

霧中 ムキワキりのふる中。物のはつきり分らぬこと。

霧集 ムシラ霧の如く澤山集まる

形容。①雲霞。

霧消 ムキワ霧の如く消ゆること。又霧滅といふ。

霧霧 ムキワの深き有様。朦朧として見分けの付かぬこと。

霧雨 キワツ きりあめ。細かき雨をいふ。

霧水 ムキワ きりあめ。

霧香 ムカワ きりふさぎてくらき

霧隠 ムシキりにかくること。

霧島 キリマ(植)つじの一種。葉は普通のものより圓状にし

て光澤多く花冠は小形にして菊斗状若くは鐘状を爲し深紅色なり。觀賞用として栽培せらる。

霧散 ムシキりの如く散ずること。又霧飛といふ。①一集。

霧雲 ムシキりもや(霧)。

霧杏 ムキワ降り降りてくらきこと。ロル。つゆ。あらばる。さらす。つかるる。しらすのくるま。更に。少しも。わづか。在野の人。水蒸氣の温度が零點以下に下り液化して水滴となり。上におけるもの。

【露】

露犬 ロケン 強くあらき犬。

露刃 ロシメキミ。抜刀のこと。

露玉 ロシヨク 玉の如くに置ける露

露出 ロシユ ムキ出し。あらばれ

出づること。寫真にて撮影の際レンズの蓋をして光線を一時に入射せざること。

露布 ロウ 勝戦をしらせる廻はし文。封を爲さる書状。

露吏 ロリ 俗吏に用じ。①愚役。

露次 ロシ 野宿すること。路臥。

露坐 ロシ のてんにすわること。屋なき處にすわること。

露見 ロシ 密事なごのあらばること。悪事のあらばること。

露店 ロシ ぼしみせ。夜店に同じ

露命 ロシ 霧の如くはかなき命といふ義。①を繋ぐ。「すと。

露臥 ロシ 野宿すること。野外にふ

露盤 ロシ 塔の心をなす柱。上に高く突出せるもの。

露拂 ロシ 貴人の道中すること。きの先驅。遊藝などにて最初に勤むること。相撲にて横綱の土俵入のとき其の先に立ちて土俵に上る力士。

露呈 ロシ あらはしめすこと。

露語 ロシ 露西亞語。

露點 ロシ (理) 大氣の温度下り

て濕氣が液化せんとするときの温度。

露芽 ロガ 茶の異名。

露直 ロチヨク 愚直に同じ。真心。

露骨 ロコツ ムキだし。ありのまま

露封 ロワ 開き封の手紙。

露屋 ロラ 屋根なき家。あばらや

露洩 ロチ 秘密のもれること。あらはれもること。

露酒 ロシ 悪酒。薄酒に同じ。

露根 ロシ 根の地上にはひ出でたるもの。

露鈍 ロシ 魯鈍に同じ。おろかも

露脚 ロシ 嘘の顯はれること。化

の皮の禿げること。①類尾。

露宿 ロシ 野宿。露臥に同じ。

露滴 ロシ 露の滴ること。又露水といふ。①中宵窓寒し。

露葵 ロキ(植)あふひ草。

露臺 ロキ 屋根のなきものみ。昔禁中に設けたる床張の屋根なき場所。舞をまふところ。

露齒 ロシ ば。そつば。①兎口露魯 ロシ おるか。うつけ。①愚物。「きだしにせること。

露頭 ロシ 帽子を蒙らず頭をむ

露助 ロシ ロスキの轉。露西亞を罵りていふ語。轉じて人を罵りていふ語。

露探 ロシ 日露戦争のとき露國の爲に我國の事を探報せるもの。人をいやしめていふ語。

露草 ロシ 葉は莖の各節に互生し長楕圓狀卵形にして花は三瓣深綠色なり。

露檄 ロシ 封をせぬ早文。回狀に同じきもの。①を飛ばす。

露營 ロシ 外に陣營を張ること。夜營をすること。

露鷄 ロシ (動) しゃも。

露露 ロシ つゆ。顯はれること。

露顯 ロシ 密事の現はれいちじるしきこと。婚姻せしむを披露すること。(鎌倉時代の語)。

露峰房 ロハワウ 蜂の巢。露西亞草 ロシカ 露西亞肉より産出する草にして光澤ありて滑かなり。

露西亞草 ロシカ 露西亞肉より産出する草にして光澤ありて滑かなり。

露雪 ロシ 雪の融けしと「酒。透明なる礦物、種々の晶形をなし色も一定せず。

露釜 アラカマ 茶の湯に使ふ一種の釜。あられの形を外面に出したるもの。

露小紋 アラカマ 露の如き小紋を

雨部 十三畫以上

霰彈砲 サシゲンバウ 霰彈をこめてう  
つ銃砲。

十三畫以上

【霹】 ヘキ。ヒヤク。  
はたがみ。はためく。

霹電 ヘキデン いなびかり。

霹靂 ヘキレキ 急激なる雷鳴を形容  
していふ。だしぬけに事の起る  
こと。①一聲。

霹靂礎 ヘキレキシ 雷斧石に同じ。  
石器時代に用ゐられし石の刃  
物。

【霸】 ハ。ヘ。かしら。  
はたがしら。霸の本字。  
セイ。サイ。はるる。

【霽】 なさむる。あめやむ。  
霽霽 ヨイヨイ はればれしたるも。  
霽天 ヨイテン はれたるそら。

霽曇 ヨイテン 晴と曇りと。①常  
ならず。

雨部 十三畫以上

霽月 ヨイグ 是れたるつき。  
霽威 ヨイキ いかりを止むるも。き  
げんをなほすと。①き。

霽氣 ヨイキ 是れわたりたるけし  
霽顔 ヨイガン きげんをなほして顔  
色を和ぐるも。

【霽】 タイ。くもる。  
たなびく。

【霽】 タイワン たなびく雲。  
ボウ。モウ。こさめ。

【霽】 ヨカ。あめ。 「語。  
霽霽 ヨイヨイ 雨のふるさまにいふ  
バイ。メイ。

【霽】 つちふる。つちぐもり。  
霽風 ヨイフウ 土をふらす風。  
霽陸 ヨイリク 土けぶりあがりてく  
らきと。

【靈】 レイ。リヤウ。たましひ。  
なきたま。みたま。いつ  
くしむ。さいはひ。神聖  
よし。みこ。かんなぎ。あ  
きらか。いきほひ。たふ

【靈】 レイ。リヤウ。たましひ。  
なきたま。みたま。いつ  
くしむ。さいはひ。神聖  
よし。みこ。かんなぎ。あ  
きらか。いきほひ。たふ

雨部 十三畫以上

靈木 レイキ 神社の境内などにあ  
る樹木。神靈の憑るといひ傳ふ  
る木。神木。

靈代 レイダイ 死者の靈のしるしと  
して祀るもの。

靈地 レイチ 神社・佛閣などある地  
靈現あらたかなる地。又靈區・  
靈場といふ。

靈巧 レイコウ 靈妙なるたくみ。手  
際のよき仕事をいふ。

靈妙 レイコウ 計り知るべからざる  
こと。不可思議にしてたへなると  
こと。不可思議。

靈化 レイカ 人の精神に一種靈妙  
なる力を與ふる神靈の超絶的  
感化。 「明らかにすると。

靈明 レイメイ 精神上一種の暗示を  
靈雨 レイウ 有難き濡ひ。總て人を  
濡ほすことの形容。  
靈府 レイフ ココロ。人類のたまし  
ひの存在する處。

雨部 十三畫以上

靈芝 レイシ (植) 万年竹に同じ。  
靈舍 レイシャ 靈魂をまつところ  
おたまや。廟。 「るも。

靈怪 レイクワイ あやししくふしぎな  
靈前 レイゼン 死人のみたまをまつ  
れる所。かみのみまへ。

靈牌 レイハイ 死者の諡を記して祀  
る木牌。位牌。

靈祀 レイシ みたまをまつること。  
靈璽 レイシ 天子の御印。 「尊稱。

靈柩 レイキウ 死人を納めたる柩の  
靈保 レイホ 神主。靈女に同じ。

靈星 レイセイ 十二支の中の辰を祭  
りたる神。

靈室 レイシツ 黃帝の書府。  
靈肖 レイシヨウ 吳の伍子胥を祭りた  
る神の名。 「はれ。

靈根 レイコン 靈魂に同じ。心のお  
靈雀 レイシヤク (動) ひばり。  
靈草 レイコウ 藥草の最も著しき効  
能あるもの。  
靈祇 レイシ 天神と地祇と。

雨部 十三畫以上

靈氣 レイキ 神靈の氣。深山などの  
殆んど人界を隔てたる處など  
にて一種の氣に觸れること。

靈液 レイエキ くしき液。一種の適  
薬に對する敬語。又靈水といふ  
①一滴の一人命を救ふ。

靈異 レイイ しくしき尊きと。ふしぎ  
なるも。靈妙。

靈符 レイフ まもりふだ。こふ。  
靈華 レイカワ いなづま。いなびか  
り。電鞭。

靈鳥 レイウ 一種の神靈を得たり  
こいふ鳥。又靈禽といふ。

靈瑞 レイスイ あらたかなる兆。奇  
瑞。①奇兆。

靈窟 レイクツ 神仙などの鎮座せる  
いはやないふ。

靈魂 レイリン たましひ。人のみた  
ま。肉體又は物質よりはなれて  
自ら宇宙に存在すると思惟せ  
らるる精神若くは作用の木體。  
靈徳 レイタク 靈妙なる徳。

雨部 十三畫以上

靈感 レイカン 神佛のふしぎなる感  
靈祭 レイサイ みたままつり。 「應。

靈寵 レイチュウ 神佛などのたふと  
きめぐみ。 「きくすり。

靈藥 レイヤク きよめのいちじるし  
靈場 レイヤウ 靈現あらたなる地。  
靈鼓 レイコ 六面の太鼓。神の太鼓  
といふに同じ。①堂々下界を  
攻む。 「いふ。

靈屋 レイヤウ みたまや。又靈廟と  
靈夢 レイム 夢として一種の感應  
あるものをいふ。神佛の示現あ  
りたるくしきゆめ。①感應。

靈境 レイキョウ あらたかなる地。靈  
場。靈地。 「き肖像。

靈像 レイゾウ 神佛の偶像。たふと  
靈堂 レイダイ 周の文王の居城。精  
神。こころ。精靈の稱。天文堂を  
いふ。

靈貓 レイベウ (動) 麝香猫の異名。  
靈獸 レイジュウ 麒麟の類。ふしぎな  
るたふとさけもの。

雨部 十三畫以上

靈鼓 レイコ 靈鼓に同じ。神の御聲

靈鏡 レイシ みるくじ。

靈驗 レイケン 神使のふしぎなる感

靈魂説 レイコン 物質の外に靈魂

靈魂不滅説 レイコンマツ 肉體は

雷 さいかんなり。もや。

雷霧 アイム もや。又雷霞といふ。

雷 さいかんなり。もや。

雷の鳴り響く聲。

青部

靄 レイ。レキ。リヤク。

靄に同じ。はたたがみ。

靄 アイ。エイ。

靄 たなびく。

靄 アイ 雲のたなびきわたる

靄 アイ 雲のたなびく雲のさま。詳

靄 アイ 雲のたなびく貌。

靄 アイ 雲のたなびく貌。

靄 アイ 雲のたなびく貌。

青部

青木 アイキ (植) 山茱萸科に属す

青木 アイキ 葉は對生し卵形尖頭

青木 アイキ 雄異株にして枝端に簇り着く。

青木 アイキ 觀賞用として栽培せらる。

青桐 アイキ (植) 梧桐科に属する

青桐 アイキ 落葉木、樹幹直立三丈餘に達す

青桐 アイキ 樹皮白色にして纖維強く葉は

青桐 アイキ 潤大にして深き缺刻あり木材

青桐 アイキ は種々の用に供せられ樹皮よ

青桐 アイキ り絲を取り油を製す。「の馬。

青馬 アイマ 白き馬。普通に黒色

青馬 アイマ 青肉 アイマ あをいるの印肉。

青蜂 アイバチ (動) 膜翅類中細腰

青蜂 アイバチ 蜂科に属する蟲、全體黒色なり

青玉 アイキョク 竹の異名。(鐵) 鋼玉

青玉 アイキョク 石の一種、色青く裝飾品とす。

青色 アイシヨク あなき色。

青地 アイチ 青々としたる土地。

青羊 アイヤウ 羊の異名。

青年 アイニシ 若もの。年壯なるも

青年 アイニシ のさしわか。

青部

青田 アイテン 稻の青々と生ひたる

青芋 アイウ 里芋に同じ。「田。

青青 アイサイ 青色の形容。あをあ

青佳 アイカ 山鳩。山陰の聲。

青房 アイノウ 芝居の樂屋をいふ。

青盲 アイマウ 明きめくら。色盲に

青金 アイキン なまり。

青松 アイシヤウ 松を形容していふ

青屋 アイマウ 屋根裏を青く塗りた

青李 アイリ 青すもも。

青柑 アイカン 青蜜柑に同じ。

青春 アイシヨウ 春。としわかき時

青帝 アイテイ 春を司る神。春の神。

青衿 アイケン 青色のえりといふ義

青葛 アイカワ (植) 泡吹科に屬し

青部

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青部

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青 緑色の枝を有し黄色の花辦あ

青部

青磁 サイヨウ 薄緑のかけ薬をかけたる焼物、磁器の一種。

青蕪 サイヨウ 草の青々さ茂りたる地。①「風に飄る。」

青旗 サイキ 酒屋の目標の旗。①「青樓」

青樓 サイロウ あげやのみや。女郎屋。①「遊ぶ。」

青緑 サイリョク 青と緑と。物の見分け等にいふ語。①「不列明。」

青淵 サイエン 水深くして青々と見青錢 サイゼン 蓮の葉。「ゆる淵。」

青鳩 サイコウ (動)鳩の一種、體の上部は濃綠色なれども頭上及び下部は黄綠色にして風切羽及び尾の外側は黒く脚は赤し。

青鷺 サイソ (動)灰青色の體を有し頭頸は白く眼邊に長き黒羽ある所々に薄黒き斑點を帯ぶ。

青蚨 サイフ (動)かげろふの異稱。錢の異名。

青藍 サイラン 濃き藍色。

青漆 サイシツ 草色のうるし。

青部

青龍 サイリョウ 青き龍。車海老。

青黛 サイタイ 遠山のみどり。女のまゆに對する形容。①「芙蓉の青。」

青苗錢 サイベウゼン 稻の苗を見越して百姓に貸し付ける錢、宋の王安石の定めたる制。

青表紙 サイベシ 論語・孟子などの經書の稱。

青大將 サイダイシャウ (動)蛇の一種、體色少しく綠色を帯び長大なるは六七尺に及ぶものあり人家に入りて鼠などを捕ふ。

青山吹 サイサンフキ かせの色目、表裏共に黄色なるもの。

青唐紙 サイタウカミ かせの色目、經うすあをく緯萌黄の表に青き裏のもの。

青女房 サイニョウバウ 年若く未だ物事になれざる女房。「會。」

青年會 サイニョウカイ 青年同志の集會。

青海波 サイカイハ 舞樂の曲名、舞ふ人の服に波の模様を染めたるもの。青海波の舞曲に用ふる服の染模様。

青部

青朽葉 サイクハ かせの色目、表は青く裏は朽葉色なるもの。

青煙煤 サイエンバイ 磨り卸した墨。

青腰兒 サイウエ 下男。しもべ。

青銅器 サイドウキ 青銅を材料としてつくりたる器具。

青斑猫 サイハンネウ (動)荒菁科に屬する小形の甲蟲、體色濃緑にして觸角黒し薬用に供せらる。

青銅海 サイドウカイ 上等の田地。

青天白日 サイテンハクニツ よく晴れわたりたる日和。世間晴れて少しもは、かる所なきこと。少しもうるぐらきことなきこと。

青銅器時代 サイドウキ時代 石器時代よりは較々人智進歩し青銅を用ひて器具・器械を製するに至りたる時代、この時代より進歩して鐵器時代となる。

青部

靖

セイ。ジャウ。はかる。おもふ。なさむ。やはらぐ。やすんず。しづむ。しづか。きよし。いさぎよし。

靖兵 セイヘイ 戦争をやめること。

靖和 セイワ 睦みやはらぐこと。

靖寧 セイテイ 安らかなること。

靖亂 セイラン みだれたるをしづむること。「しづする」とも。

靖恭 セイキウ やはらぎうやくこと。

靚粧 セイシヨウ あざやかにけしやうすること。

靚飾 セイシヨク よそはひかざること。

靚粧 セイシヨウ よそはひかざること。

靚飾 セイシヨク よそはひかざること。

青部

静

セイ。シヤウ。はかる。おもふ。なさむ。やはらぐ。やすんず。しづむ。しづか。きよし。いさぎよし。こふ。やすむ。すむ。やはらか。聲なきこと。

青部

静逸 セイイツ ものしづかにして心身やすらかなること。

静女 セイジョ 操正しき女。

静止 セイジ 静かに止まること。とまりてあること。

静坐 セイザ 静かにすわること。儒教にて座禪の如く端坐して心を静かにすること。①「默考。」

静折 セイセツ しづめをり。常に未の方まで疊まりてある扇。

静夜 セイヤ 静かなる夜。

静

する脈にして皮膚の外表面より青く見ゆるもの。あなすぢ。青く見ゆるもの。あなすぢ。青く見ゆるもの。あなすぢ。

静淑 セイシュ 穩かにしてしとやかなること。上品なること。「と。」

静寂 セイシヤク さびしく静かなること。らかにさまること。

静養 セイヤウ 静かに世の中を避けて精神を養ふこと。身心を静かにして療養すること。

静肅 セイソ 言行の静かなること。もの静かにしてしんとしたること。①「謹聴。」

静歌 セイカ 静かにうたふ歌。

静慮 セイロ 静かに寛やかに考へること。おちつきて静かなること。静謐 セイヒツ 世のおだやかなること。人民業に安んじよく治まるとも。太平。安靜。又靜平といふ。静勢 セイセイ しづかなるいきほひ

青部



青部

静鎮 サイジン しづむること。  
静的 サイジキ 静止せる事物の平均せるさまにいふ語。

静聆 サイレイ 心しづかにきくこと。

静態 サイタイ 静止せる状態。「事」  
静穩 サイオン 穩かなること。①無

静止角 サイシカク (理) 平面上にて  
物體を引摺らんとするとき摩

擦と平面の壓力との合力の方  
向と壓力の方向とのなす角の

最大なるもの。

静電氣 サイデンキ (理) 摩擦したる  
物體などの帯ぶる電氣。

静脈血 ジヤウマクケツ 靜脈によりて  
心臓へ輸送せらるゝ汚血、多量

の炭酸と少許の酸素を含む  
て暗紅色を爲す。

靛缸 テイコウ あるがめ。

靛 テイ テン。デン。

靛 テイ ある。藍染め。

靛 テイ あるがめ。

靛 テイ あるがめ。

古文の天の字。

非部

### 非部

ヒ。違ふ。惡し。いつはり  
そしる。さがむ。あらず。

道ならざること。よこしま  
つみ。きず。或語に冠し

て其の物事を否定する  
意を表はす語。勤めのあ

きたること。

非人 ヒニン 乞食。罪人。

非文 ヒブン 文事に通ぜざること。禮  
儀に反すること。文法上破格の文

非分 ヒブン 身分不相應。「章」  
非行 ヒコウ 善からぬ行ひ。①惡

策。②「役なしにあること。

非役 ヒヤク 役を免ぜられたること。

非命 ヒメイ 災。又は負傷などに  
て死すること。①の死。

非法 ヒポフ 法にたがふこと。世の中  
の法式に合はぬこと。

非俗 ヒソク 惡しき風俗。①惡弊

非部

非度 ヒド 度外れのこと。

非背 ヒハイ そむくこと。

非時 ヒジ (佛) 法師に與へる食事  
午後の食事。とき。

非常 ヒジョウ なみなみならぬこと。  
普通ならぬこと。「ること。

非想 ヒソウ 想念を執着せしめざ  
ること。

非晶 ヒコウ (鐵) 結晶せざる特質

非凡 ヒフワン 凡庸にこゝ出でたる  
こと。つれにこゝえてすぐれたること

非望 ヒボウ あらぬ望み。身分不相  
應の望み。①企つ。

非情 ヒジョウ 心なきもの。無情に  
同じ。「こと。道理にそむくこと。

非理 ヒリ 不道理。理にかなはぬ

非域 ヒイキ 墓地に同じ。

非番 ヒバン 勤め番の休み。

非義 ヒギ 道理に叶はぬこと。

非業 ヒゴウ (佛) 罪のむくいにあ  
らざること。壽命ならぬ命數。①

非道 ヒドウ 人道に外れたること。人

非部

情に外れたること。道理に外れた  
ること。「じ。

非運 ヒウン 運の悪きこと。不運に同  
じ。

非毀 ヒキ そしること。「くこと。

非違 ヒワイ 法に違ふこと。規則に反

非器 ヒキ 役に立たぬ器。

非謗 ヒボウ そしること。

非類 ヒルイ 人に對して鳥・毛物・  
虫けらなどないふ。るいのなき

非禮 ヒレイ 禮儀に叶はぬこと。禮に

非職 ヒシヨク 官職にありながら別  
に務めの無きこと。官吏たる位置

はそのまゝにして職務を免ぜ  
らるること。①大尉。

非譏 ヒキ そしること。

非議 ヒギ そしること。

非興 ヒキョウ 興味のさめたること。  
おもしるからざること。

非笑 ヒシウ そしりわらふこと。

非難 ヒナン 缺點又はあやまりな  
ごとがめ責むること。そしり難

非部

すること。

非常線 ヒジョウセン 犯罪其他非常の  
出來事に際し警察權を以て特

別に或範圍を警戒すること。

非常口 ヒジョウクチ 出火其他の事  
變に逃げ出づる用意に設けた

る門戸。

非常赦 ヒジョウシヤク 古國內に大いな  
る吉凶禍災などのありたる時

全國の罪人を悉皆赦し放ちし  
こと。

非常費 ヒジョウヒ 非常の時の費用。  
(法) 第二豫備金の稱。

非常死 ヒジョウシ 罪なくして人に  
殺さるること。

非結晶 ヒケツショウ 規則正しき結晶  
を爲さぬこと。

非金屬 ヒキンゾク 非金屬元素の稱。

非商人 ヒシヤウジン (法) 商人にあら  
ざる人。「る數。

非素數 ヒソウスウ (數) 素數にあらず

非非想 ヒヒソウ (佛) 有無に執着す

非部

る想念なきも眞如を求むる想  
念なること。無色界の頂上。

非現行犯 ヒゲンギョウハン (法) 犯罪事  
實の終りたる後に發覺したる

もの。

非訟事件 ヒソウジケン (法) 裁判所  
が權利關係の成立・變更・消滅

等に關し權利を確認し決定し  
て其侵犯さるゝを豫防するを

目的とする訴訟事件。

非常警察 ヒジョウケイサツ 國家社會  
の事變に際して安寧秩序の保

持の爲に普通の警察法を停止  
し臨機急に應ずるの方法を取

る警察をいふ。

非常上告 ヒジョウジョウコウ (法) 第一  
審と第二審とを問はず法律に

於て對せざる所爲に對して刑

を言渡し又は相當の刑より重

き刑を言ひ渡したるに期間内

に上訴するものなくして其の

裁判確定したるさき其の事件

非部

につき上告を受くるの権ある裁判所の檢察は司法大臣の命により若くは職權を以て何時にても其の裁判所に爲すことを得る上告。

**非常召集** ヒキヤウサウシ 戦時又は事變に際して行ふ在郷軍人の召集。「物體」。

**非結晶體** ヒクワシヤウタイ 非結晶の**非金屬元素** ヒシヨクケンソウ (化) 硫黄・酸素などの如く金屬にあらざる單體。

**非理法權天** ヒリハウケンテン 補正成が其の旗に「非は理に勝つこと能はず理は法に勝つこと能はず法は權に勝つこと能はず權は天に勝つこと能はず天は明かにして私なし」と書きし語にして人間幾多の波瀾曲折あるも遂には天を欺くこと能はずといふ義。

面部

**【靠】**

**【靡】**

**靡損** ヒキシ 傷めそこなふこと。  
**靡縛** ヒキクシ しばるること。  
**靡碎** ヒキサイ 細かに砕くこと。

**面部**

**面友** メンユウ 友はべつきあひする友。うはべつきあひ。  
**面** メン 面前にてなじること。がほ。かほ。かほばせ。つら。まへ。まのあたり。むかふ。顔面の形に擬造したるものにて顔に被りて舞ふもの。(數) 多面體の限界を爲す平面。ひらたき物を數ふる語。

面部

**面目** メンボウ かほかたち。ありさま。世の中に立ちて相當の地位を占むること。①を失ふ。

**面上** メンジョウ 顔のうへ。かほ。

**面叱** メンシツ まのあたりしかるること。

**面皮** メンヒ 世人に對するかほ。

**面色** メンシヨク かほつき。顔色。

**面妖** メンエウ 不思議。怪しきこと。奇怪に同じ。「むること」。

**面折** メンセツ まのあたりいさめせ。

**面面相** メンメン がおの。めいめい。

**面晤** メンブ 達ふて話すること。面會すること。「いふ」。

**面後** メンゴ 顔のうしろ。又面背。

**面拜** メンバイ 向つて拜すること。

**面相** メンサウ 顔つき。おもしろ。

**面倒** メンダウ 事の煩はしきこと。厄介なること。行ふにいとほしきこと。

**面述** メンジュツ まのあたり述ぶること。「體物」。

**面炮** メンパウ 顔面に生ずる小さき目。メンゼン 目の前。まのあたり。

面部

**面容** メンヨウ 顔つき。おもしろ。めんてい。  
**面個** メンゴ 鉛又は土にて製したる碁石の如くひらたく作れる遊戯具。圍を畫きその圍の外にうち出すを勝とす。  
**面從** メンジュウ 面前にておもれりへつらふこと。其の人の前にて之に服従すること。「事情」。  
**面陳** メンチン まのあたり述ぶること。  
**面接** メンセツ 對面。めんくわい。  
**面部** メンブ かほ。顔面。①に頁傷す。「る器」。  
**面桶** メンツウ 乞食などの飯を入れめんパン あげた。「こと」。  
**面斑** メンハン 其人に向つて責める。  
**面責** メンセキ 其の人のあたり評すること。其の人の目前にて試むる批。  
**面朝** メンチウ 朝に臨むこと。「評」。  
**面會** メンクワイ 相見ること。對面。責あふこと。面語。①拒絶。  
**面訴** メンソツ まのあたり訴ふること。

面部

**面詰** メンキョウ 面前にてなじること。  
**面語** メンゴ 面會して話すること。  
**面貌** メンバウ かほつき。めんてい。  
**面談** メンダン 面會して直接に相談すること。①逐一。  
**面論** メンロン まのあたり論すること。眼前にて説論すること。  
**面謁** メンテツ 御目通り、貴人に對する敬語。  
**面積** メンセキ 平方の尺を以て量る廣さ。平面形又は表面上の形の限界内の場所のひろさ。  
**面頰** メンケン 兜に附屬する具。鐵製の面の如きものにて顔一面を被ふもの。瞭甲。擊劍の練習に用ゐる具。面に當る部分を鐵にて格子の如くに作り之に綿を入れたる布をつけてつくりたるもの。  
**面壁** メンベキ 壁に向つて坐禪を組むこと。達磨大師の故事。①九年始めて邪に入る。

面部

**面縛** メンバク 顔をむぎ出しにして後手に縛はるること。手を前面に縛はるること。①して罪を乞ふ。  
**面識** メンシキ 知り合ひ。①一。  
**面體** メンタイ 顔つき。おもしろ。  
**面番所** メンバンショ 見張り番所のこと。  
**面對稱** メンタイシンヨウ (數) 一つの平面より一つの圖形上の一點に至る距離と等しき距離にして反對の位置に第二の圖形上の點が必ずあるさき又は一つの圖形が一つの平面にて分たれ其の一半上の一點と此の平面より等距離にして反對側の點が必ず他半の上にあるとき初の二つの圖形又は後の圖形は面對稱なりといふ。  
**面積速度** メンセキタド (天) 動徑が單位時間に通過する面積。テン。はづ。ばららふ。あらはる。まのあたり人を見る貌。

革部

靦顔 シヤクシヤ ばぢざると。あつかましきこと。

靦然 シヤクシヤ 面目の貌。クワイ。エ。

靦 シヤクシヤ 顔洗ふ。あらふ。エフ。えくぼ。笑ふ時生ずる頬のくぼみ。

靦 シヤクシヤ 顔を洗ふ。あらふ。エフ。えくぼ。笑ふ時生ずる頬のくぼみ。

革部

革令 カクレイ 陰陽家にて甲子の歳カタク。よろひ。昔の武器。

革甲 カタク 緋の縁を帯びたるもの。少し黒ばみたる御納戸色。

革鳥 カセキ なめしがはのくつ。カタク。かばぶくろ。

革任 カタクシ 革職に同じ。職任を改めること。

革部

革車 カタクヤ 戦争に用ゆる車。カタク。改革に同じ。あらためること。

革改 カタクイ 改革に同じ。あらためること。

革免 カタクシ 職をやめ替へられること。カタクイ。國家・社會の組織を變更すること。前の王統倒れて他の王統之に代り統治者となること。陰陽家にて辛酉の歳の稱。佛蘭西の大。

革易 カタクイ 凡て變りあらたまること。カタクイ。大病に同じ。

革病 カタクキ 大病に同じ。

革砥 カタク とさかば。

革亂 カタクシ 革命に同じ。國家社會を亂すこと。

革職 カタクシヨ 職を改め替へらるること。

革進 カタクシ 舊態を改めて進歩の域に向ふこと。

革籠 カタク 外面を革又は紙革にて張りたる籠。革匣。革文庫 カタクシ 革にて作りたる手箱。

革部 二一四畫

鞞 テイ おぎなふ。

鞞底 テカン くつぞこを修復するさい。せ。

鞞 シヤクシヤ やいれ。うつば。シン。

鞞帶 シヤクシヤ 關節部を包める白色の物體にして強靱撓みやすけれど伸びず。

鞞皮部 シヤクシヤ 植物の幹にて皮部の柔かく淡色を呈する内部をいふ。

鞞 クワケ くつ。かばぐつ。獸皮にて製し人の足に穿つもの。

鞞下 クワケ 靴をはく時に用ゐる足袋。

鞞底 クワケ 靴のそこ。魚の名。靴鞞墨 クワケ 革の保存のために靴

革部 六畫

鞞 ハク ホク。柔革の工人。なめしがはし。かばん。

鞞 シヤクシヤ 冷笑に同じ。辱かしめて笑ふこと。嘲罵。

鞞 シヤクシヤ 堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 細長く肉薄きもの。キン。コン。馬具。馬の胸に當てるもの。むながひ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

革部 六畫

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

革部 六畫

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。

鞞 シヤクシヤ 鞞。堅し。卑しむ。辱かしむ。



草部

【韓】

カン。から。朝鮮國の一

【韓珠】

カシユ。外國より渡來せる珠

【韓紅】

カシヨ。深紅の色。韓國より

【韓語】

カシヨ。朝鮮人の使用する語。

【韓櫃】

カシヨ。唐風に造りたる櫃。

【韓非子】

カシヨ。韓の諸公子韓非の著せし書物にして、刑名の學

【韓】

井。よし。

【鞞】

ハイ。ペ。ふいがふ。

【鞞】

火を吹き起す器。

【鞞】

陰曆十一月八日に

【鞞】

鍛冶屋の行ふ祭。

【鞞】

チン。ウン。

【鞞】

柿色をいふ。

【鞞】

タウ。トウ。ゆみぶくる。

【鞞】

ゆくて。ひろし。おさむ。

【鞞】

つるぎぶくる。ふくる。

兵法の秘訣。

非一音部

【鞞】

カタクワイ。形跡なくらますと。

【鞞】

タリヤク。兵書六鞞三略の略

【鞞】

キウ。ク。にら。

【鞞】

一種の葷菜。

【鞞】

キウ。

【鞞】

同上。

【鞞】

サイ。セイ。

【鞞】

齋に同じ。

【鞞】

セン。ソン。

【鞞】

やまにら。ほそし。

音部

達し鼓膜之が爲に振動

するによりて生ずる感

覚。一氣に出づる音聲。

漢字の字音。

音信 オシシ。おとづれ。たより。消

音響 オシヤウ。ひびき。

音調 オシテウ。音楽の調子。詩文の

語路又は音曲の曲折。①音律

音聲 オシキョウ。おん。こわつか

ひ。こわいろ。

音程 オシテイ。二つの楽音の振動數

音叉 オシサ。音の調子を計るに用

ふる具。

音律 オシリツ。音の調子。轉じて音

音曲 オシキョク。琴・三味線などの樂

器に合せてうたふべきうたひ

物の稱。鳴りもの。

音讀 オシドク。漢字を其の音にて讀

むと。聲を出して讀書すること。

音階 オシカイ。元音と其のオクター

ヴとの間に順次異なる樂音を

排列したるもの。

音部

音便 オシシ。語調の便宜によつて

其の音をなだらめてよびなす

一定の音格。

音息 オシシツ。音信。たより。おとづ

音問 オシシツ。おとづること。訪ひ

尋ねること。又音問といふ。

音義 オシキ。言語の發音と意味と。

一音ごとに有する意味。

音官 オシクワン。音樂を司る役人。

音樂 オシガク。鳴りもの。各種樂器

の音を歌に合せて人を樂しま

しむるもの。①美妙の。

音波 オシハ。音響の波の如く傳つ

て行くも。(理)發音體に接觸せ

る空氣が發音體の振動を受け

て生ずる疎密の波。「さいふ。

音書 オシショ。音信の手紙。又音翰

音塵 オシチン。ほのかな音づれ。

音吐 オシト。こゑ。聲の出しかた。

①一期々。「びきこ。

音韻 オシオン。音と韻と。こゑとひ

音頭 オシド。數人にて歌ふとき一

音部

人先づ發聲して調子を示すと。

音耗 オシマウ。便りの遠ざかること。

音韻學 オシオンガク。音と韻とにつ

きて研究する學問。

音沙汰 オシサタ。たより。おとづ

れ。①もなく。

音博士 オシハカセ。古大學に置きし

博士の一、漢音・吳音等を研究

しかれてそれを諸生に教授せし

人。「人。音樂専門の人。

音樂家 オシガクカ。音樂に長じたる

音頭取 オシドトリ。音頭を取る人。

さきだつもの。物事の首唱者。

韻 オシオン。

韻に同じ。

韶光 サウクワウ。うつくしくかや

韶代 サウダイ。明らかにおさまれる

韶華 サウカ。位記などを承け繼ぐ

韶華 サウカ。文明に同じ。

音部

韶然 サウゼン。文化の行き渡る貌。

井ン。ウン。こゑ。れ。て

を其の韻の類似により

て區別したる稱。文辭の

中に同一若くは類似の

音を隨意又は一定の間

隔毎にひびき合すもの。

韻字 サシジ。詩の韻脚に用ゐる文

韻事 サシジ。風流のことから「字

韻掩 サシジ。詩の韻を隠して

その何なるかをあて試むる遊

戯。ぬふたぎ。「ぬる文字。

韻脚 サシキヤク。詩の韻字として用

韻致 サシキヤク。風雅なるおもむき。お

もむき。「文章。

韻文 サシシ。韻をふみて作りたる

韻學 サシガク。音韻を研究する學。

韻會 サシクワイ。宋の黃公紹の著は

せし書、韻によりて文字を排列

し註釋せしもの。

韻字本 サシシホン。漢詩に用ゐる韻

頁部

韻會小補 字を記載せる本。昇千謙の編纂せし書、韻字によりて文字を排列して詳解を附したるもの。

響

響像 キヤウシヤウ ほかの間に聞ゆること。響波 キヤウハ 響の傳はるること。響動 キヤウドウ 響きとらるること。鳴りばためくこと。響音 キヤウオン ひびき。音響。

頁部

頁

ケツ。ゲツ。かうべ。頭。ヘーシ。(西洋綴の書物の紙数を計ふる語)。

頂

頂上 チヤウシヤウ いたいき。かみ。てつべん。最上。

頁部

頂角 チヤウカク ながきつ。(植)なたれなどの子房の受粉後生長肥大して長き角に似たる果實となるもの。「ろ芽」。

頂

頂芽 チヤウガ (植)枝の最上端にある。頂首 チヤウシュウ うなじ。くび。

頂

頂戴 チヤウタイ うけおさむること。人より物を受くるにいふ語。

頂

頂警 チヤウキョウ たぶさ。

頂

頂布 チヤウフ 頭に被むる布。

頂

頂好 チヤウカウ 好き事の頂上といふ意味。「敬意を表すること」。

頂

頂禮 チヤウレイ 禮拜すること。無上の(數)角を爲す二直線の相會する點。多面角を爲す數面の相會する點。

頁部

頃

頃久 ケイキウ しばらく。少しの間。

頃

頃刻 ケイカク 先刻。しばらく。

頃

頃筐 ケイキヤウ かん。

須

須臾 シユ しばらく。少しの間。

須

須捷 シユキョウ みすばらしき有様。

須

須頃 シユキョウ しばらくの間。

須

須磨琴 スマゴト 一絃琴に同じ。

須

須彌座 シユミヤ (佛)佛像を安置する座。兜のはちまんざ。

須

須彌山 シユミサン (佛)天地四妙に次ぎて高さ八萬四千由旬大海の内におりて日其の陰に入れば夜となり現るれば晝となるといふ大山。「臺」。

須

須彌壇 シユミダン (佛)佛像をおくかん。ガツ。おほがほ。かみなし。かふる。

頁部

順

順列 ジュンレツ (數)數個のある中其の數だけのものを適宜に採出して順序にならべたる配置。

順

順逆 ジュンギャク 素直と逆ふこと。正しきと正しからぬこと。①の理

順

順服 ジュンブツ 素直に服すること。

順

順理 ジュンリ 道理に従ふこと。

順

順當 ジュンタウ 道理に叶へること。順序の適當なること。①こと。

順

順流 ジュンリウ 孟の次第にめぐる

順

順民 ジュンミン 新占領地などの住民の素直に新政廳の命に服すること。政化にしたがふ人民。

順

順序 ジュンジュ こと、のひて定りたるすぢみち。ついで。したい。①を逐ふ。

順

順從 ジュンジュウ 能く従ふこと。

順

順次 ジュンジ したい。じゆんぐり。

頁部

順

順番 ジュンバン 次第に廻り廻りて當る番。「事得意の場合」。

順

順境 ジュンキョウ 穏やかな境遇。萬

順

順諫 ジュンカン 穏やかに諫めること。

順

順風 ジュンフウ おひて。船の行かん

順

順祝 ジュンシツ 豊年のいばひ。

順

順延 ジュンエン 順次に次へ〜と延ばすこと。「届けること」。

順

順達 ジュンタツ 回状などを順次に

順

順縁 ジュンエン 情に隨ひて佛縁を

順

結ぶこと。親が子より先に老者が

順

幼者より先に死すること。

順

順應 ジュンオウ 生活物がその生活に都合よきやうに自然力に應ずること。順序をたがはず應ずること。「しきこと」。

順

順良 ジュンリヤウ 素直なこと。おとな

頁部

順

順順 ジュンジュン 順序をおふさまに

順

順天 ジュンテン 天理に従ふてそむ

順

順風耳 ジュンフウジ はやみ。秘密

順

の事をよく聞き出すこと。

順

順次業 ジュンジヤウ (佛)善悪作業の

順

應報が次第〜にあらはること。

順

順後業 ジュンゴウ (佛)現世に於て善悪作業の應報が三世以後にあらはること。

順

順現業 ジュンゲンヤウ (佛)善悪作業の應報が現世に於てあらはること。

順

順養子 ジュンヤウシ 弟が兄の嗣子となりて兄の子を又其の嗣子とするなどの稱。

項

項領 カウレイ うなじ。首筋。

項

項背 カウハイ うしろ。

項

項目 カウキョウ 目じるし。部類にして其の締め括りしたる個條。

頓

トシ。わかづく。更らに。つまづく。さつぱりに。はかに。

頓首 トシ。支那の禮に頭にて地を叩きて拜禮すること。轉じて日川文の末に敬語として用ゐるもの。①再拜。

頓心 トシ。ひたすらなる心。

頓卒 トシ。思ひ掛けの苦しみ。

頓才 トシ。機に應じて出づる才。きのきくと。早速の才。

頓丘 トシ。遠なりたる峰。

頓死 トシ。急に死ぬること。

頓狂 トシ。輕はづみにてへうきんなること。

頓馬 トシ。とんちき。まぬけ。

頓着 トシ。しんばい。けれん。

頓舍 トシ。宿をとること。寄せ付

頓怯 トシ。あはてたる振舞をな

頓挫 トシ。物事の腰を折ること。中折れのすること。急に勢ひの抜けること。漢文にて文勢の急に轉折すること。①。

頓宮 トシ。假りにたてたる宮。かりこし。

頓病 トシ。急に起つた病氣。

頓智 トシ。機に應じて出づる智。早速の智慧。①機轉。

頓服 トシ。ひといきに呑み下す薬。一劑を一服に服用すること。

頓悟 トシ。俄かに悟ること。急に智見開けて眞理を洞觀すること。①直覺。

頓頓 トシ。食事の度毎といふ意

頓慙 トシ。傷み悲しむこと。

頓興 トシ。輕はづみにてへうきんなること。

頓僵 トシ。倒れること。倒れ伏すこと。倒れてへたげること。

頓廢 トシ。廢物に同じ。役に立たぬこと。

頓罷 トシ。疲れること。弱ること。

頓轡 トシ。くつばをしづめる義。馬を止めると。くつばをしめること。

頓服藥 トシ。解熱劑又は下痢劑などの如く頓服に用ふる藥劑。「まぬけ。さんま。

頓痴氣 トシ。おろかなるもの。

頓珍漢 トシ。ものごとのかけ違ふこと。ものごとの豫定の如くならぬこと。

頓生菩提 トシ。ヨウガイ(佛)直ちに成佛すること。時機に際會して忽ち菩提に入ること。

頓白 トシ。白まじり。灰色。半白に同じ。①の老人。

頤

頤童 トシ。かたくなでものを知らぬわらべ。ち。小姓に同じ。「暗き。暗愚。

頤鈍 トシ。物事に鈍くおろかなること。

頤味 トシ。かたくなで道理に

頤空 トシ。物を知らずして知

頤童 トシ。かたくなでものを知らぬわらべ。ち。小姓に同じ。「暗き。暗愚。

頤鈍 トシ。物事に鈍くおろかなること。

頤味 トシ。かたくなで道理に

頤空 トシ。物を知らずして知

頤童 トシ。かたくなでものを知らぬわらべ。ち。小姓に同じ。「暗き。暗愚。

頤鈍 トシ。物事に鈍くおろかなること。

頤味 トシ。かたくなで道理に

頤空 トシ。物を知らずして知

頤童 トシ。かたくなでものを知らぬわらべ。ち。小姓に同じ。「暗き。暗愚。

頤鈍 トシ。物事に鈍くおろかなること。

頤味 トシ。かたくなで道理に

頤空 トシ。物を知らずして知

頤童 トシ。かたくなでものを知らぬわらべ。ち。小姓に同じ。「暗き。暗愚。

頤鈍 トシ。物事に鈍くおろかなること。

頤味 トシ。かたくなで道理に

頤空 トシ。物を知らずして知

頤童 トシ。かたくなでものを知らぬわらべ。ち。小姓に同じ。「暗き。暗愚。

頤鈍 トシ。物事に鈍くおろかなること。

頤味 トシ。かたくなで道理に

頤空 トシ。物を知らずして知

頤童 トシ。かたくなでものを知らぬわらべ。ち。小姓に同じ。「暗き。暗愚。

頤鈍 トシ。物事に鈍くおろかなること。

頤味 トシ。かたくなで道理に

頤空 トシ。物を知らずして知

頤童 トシ。かたくなでものを知らぬわらべ。ち。小姓に同じ。「暗き。暗愚。

頤鈍 トシ。物事に鈍くおろかなること。

頤味 トシ。かたくなで道理に

頤

頤頌 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤詩 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤揚 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤辭 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤德 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤行 トシ。わからひるめること。分ち配ること。

頤布 トシ。あまれく分ちひるめ

頤曆 トシ。曆を國中にくばること

頤水 トシ。昔夏季に水を諸大夫へ分ち與へたる儀式。

頤首 トシ。大なるくび。

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤絨 トシ。種々の物が交る有様

頤頌 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤詩 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤揚 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤辭 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤德 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤行 トシ。わからひるめること。分ち配ること。

頤布 トシ。あまれく分ちひるめ

頤曆 トシ。曆を國中にくばること

頤水 トシ。昔夏季に水を諸大夫へ分ち與へたる儀式。

頤頌 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤詩 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤揚 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤辭 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤德 トシ。功徳をほめて歌ふ歌

頤行 トシ。わからひるめること。分ち配ること。

頤布 トシ。あまれく分ちひるめ

頤曆 トシ。曆を國中にくばること

頤水 トシ。昔夏季に水を諸大夫へ分ち與へたる儀式。

頑蠢 グラシユン ぐづ／＼もの。片意地もの。おろかももの。

頑民 グラシシ かたくなにて辨別なき民。理に従はぬ剛情な民。

頑強 グラシキヤウ 意地強きこと。手強きこと。①なる抵抗。

頑鷲 グラシド 役に立たぬ馬。片意地に物の用に立たぬ人を侮辱して馬に喩へていふこと。

頑硬 グラシカワ かたくなを通ずこと。強情。

頑剛 グラシガワ 頑固で人情のなきこと。

頑夢 グラシム 頑固なる迷ひのゆめ

頑是無 グラシギシ 小兒などの是非善惡の區別を未だ知らずして何となくおどけなきこと。

預 ヨ あづくる。あづかる。たのしむ。あそぶ。事に先ちて。あらかじめ(國訓) 「た金銭。」

預金 ヨキン あづくる金銭。あづけ

預表 ヨヘウ 前以て知らせること。

預知 ヨチ あらかじめ知らすこと。

五六畫

領 レイ リヤウ。くび。えり。なまむ。すぶ。しるす。うく。おもむき。かなめ。なま。嶺に通ず。

領土 レイド 領分の土地。其の國の主權の下に屬する一定の土地及び沿岸海の區域。①管内

領引 レイウイン 護送に同じ。

領分 レイブン 諸侯の領地。封土。

領手 レイシュ 手に受取ること。

領收 レイシュウ うけ取ること。「頭。」

領主 レイシュ リヤウ。うけの持主。地

領有 レイユウ 所領としてたもつ

領内 レイナイ 領土のうち。「と。」

領地 レイヂ 領分の土地。封土。①管内。

領旨 レイシ 仰せを受けらること。

領邑 レイイ リヤウ。領分の土地。知行所。①封土。

領受 レイウジュ 受取ること。金子などを受け納めらること。

領取 レイキ リヤウ。受取ること。取りて自分のものとする。

領事 レイジ 通商條約國に駐在して其國と自國との通商上の状態等を報告し兼ねて其地在留の自國人民の保護取締を司る官吏。

領洗 レイセン 洗禮を受けらること。(耶蘇教の語)。耶蘇教信者となる時に受くる儀式。

領承 レイショウ 先方のいふ事を吞み込むこと。承知に同じ。

領書 レイショ 手紙を受取ること。

領海 レイカイ その國の領分と定まれる海、その陸地より三哩以内を限る。

領略 レイリヤク 統へ括らること。

領家 レイカ 古公卿の莊園を領したりし役人。

領納 レイナク リヤウ。受け納めらること。

領袖 レイシュ 頭立つ人。かしら。えりとそでと。②政黨の。

領解 レイカイ 手紙を受取つて開

領啓 レイキ 教を受けらること。

領教 レイキョウ 諸侯の領する國。領地。采邑。

領接 レイセツ 手に受取ること。

領域 レイキョウ 領地の區域。支配せらるもの範圍。

領掌 レイショウ 手に受取ること。

領信 レイシン 手紙を受取ること。

領會 レイカイ 自然の廻り合せ。思ひ掛けの廻り合せをいふ。合點すること。呑み込みたること。

領境 レイキョウ 領分。領分さかひ。

領銀 レイギン かねを受取ること。

領諾 レイダク 承知すること。うべなふこと。②委細。

領謝 レイシャ 人の意見を呑み込んで禮をいふこと。

領收書 レイシュウショ うけとり。受

領事館 レイジカン 領事の駐在地に於て其の職務をあつかふ所。

領事裁判 レイジサンバイン 領事が領事裁判權によりて行ふ裁判。

領土主權 レイドシユケン (法) 一國が自國內に他國の主權の侵犯を許さざる國際法上の權利。

領事裁判權 レイジサンバインケン (法) 特殊の條約により一國の在留民が其の在留せる國の裁判權に服せず自國の法律によりて自國領事の裁判を受くる特權。

頰 ハ。バ。すこぶる。よこしま。かたよる。片落ち。

頰 ハ。平氣であること。冷淡な

頰 ハ。え。こ。かたひいき。へ

頰 ハ。フ。トウ。見る。ま

頰 ハ。みゆる。天子に謁見する

頰 ハ。にいふ。てあらふ。

頤 イ。ン。いたゞき。頭の頂上。

頤 イ。ケツ。ゲチ。カツ。すぐなるうなじ。飛びあがる。

頤 イ。あがる。へらす。さしる。

頤 イ。ケツ。飛び揚ると飛び下ると。互ひに負けず劣らず張り合ふこと。②彼此相いす。

頤 イ。ケツ。入られて正しからぬ言葉。取扱ひ難きこと。

頤 イ。アツ。アチ。ばなすぢ。鼻柱に同じ。

頤 イ。エ。イ。さとし。かしこし。ぬひちぢむ。頤に同じ。

頤 イ。エ。イ。すぐれたる才智。覺

頤 イ。エ。イ。すぐれてかしこきと

頤 イ。エ。イ。秀でたる才智。物事

頤 イ。エ。イ。にもわけいづること。①頓智。

頤 イ。エ。イ。勝れたる才智。



穎果 エイグワ (植) 単胞にして單種子有する閉果。

穎脱 エイダツ するごく秀で出づる性質。エイセイ 惻愍なる性質。

穎悟 エイゴ さとさき。かしこきこと。すぐれてかしこきこと。

穎敏 エイビシ 勝れて敏きこと。① 伶俐。

穎穂 エイス# ほさき。鎗などの双割。カヒワリ 種子より萌え出でたる二葉。甲折。

頰 テイ。チャウ。あかし。經に同じ。ケフ。ゴフ。

頰 ほほ。ほつべた。部に位する骨。つらばね。

頰 頰とおさがひと。ケフ。ゴフ。

頰 頰とつらかまら。ケフ。ゴフ。

頰 頰とつらかまら。ケフ。ゴフ。

頰 頰とつらかまら。ケフ。ゴフ。

頰 頰とつらかまら。ケフ。ゴフ。

頰 頰とつらかまら。ケフ。ゴフ。

頭

トウ。ツ。かしら。人を數ふるにいふ。かうべある動物を數ふにもいふ。他の上にたつ人。長。

頭人 トウジン 鎌倉幕府の裁判役をつとめし人。かしら。をさ。頭取

頭辨 トウベン 昔藏人頭にて辨官を兼ねたるもの。

頭陀 トウダ 僧の行くく。錢を乞ひて修行すること。

頭骨 トウコツ あたまたまを構成する骨

頭取 トウリ 銀行又は組合若くは會社などに其の代表者となり業務執行の任に當るもの。

頭角 トウカク あたまたまのまき。① 頭を顯はす。

頭巾 トウキン 頭に被むる袋の如き

頭目 トウモク 長。かしら。おやかた

頭房 トウボウ 側の部屋。

頭帕 トウパ 頭を包むきれ。

頭垢 トウコウ 毛髮の中に生ずる垢。ふけ。

頭部 トウブ かしらの部分。

頭首 トウシュ あたまたま。かしら。くび。多くの人の長。

頭盔 トウライ 兜の鉢。

頭殼 トウカク 頭腦を包む蓋骨をい

頭顱 トウロ あたまたま。かしら。こ

頭蓋 トウガイ 頭の鉢。

頭塞 トウサン 風邪の爲に頭痛のす

頭爲 トウヰ 初めの時。

頭痛 トウツウ 頭の痛む病。づつう。

頭腦 トウノウ あたまたま。腦。判断力。主要の所。おさ。① 明晰。

頭髮 トウハツ かみの毛。

頭熱 トウネツ 熱氣の頭部にあつま

頭遭 トウソウ 先程。先刻。

頭緒 トウシュ 初め。手掛り。手づ

頭生兒 トウセイニ 初産。初めての

頭蓋骨 トウガイコウ 頭部において腦

頤 シン。頤の略字。目をあげて人を見る貌。イ。ふかし。

頤 養ふ。おとがひ。あこにて差圖すると。あこにて人を使ふこと。

頤 ケイ。キヤウ。ケイ。くび。

頤巾 ケイキン へりまき。

頤毛 ケイモウ 頤の毛。

頤雀 ケイジヤク 實物不詳の鳥の名。

頤珠 ケイシュ 各種の寶玉を連れたる頤飾り。

頤項 ケイコウ 頤筋。くび。

頤痛 ケイツウ 頤の痛み。

頤飾 ケイシヨク くびかさり。

頤鉗 ケイカン 頤飾の一種。

頤圍 ケイヰ 頤のまはり。

頤領 ケイリョウ 頤筋。くび。

頤瘤 ケイリウ 頤筋のこぶ。

頤錠 ケイテイ 頤に懸けるくさり、一種の裝飾。

頤鏡 ケイカイ かぶごのしころ。

頤頭 ケイトウ かしらの形容語。

頤錢 ケイセン 古罪人が首を斬らる、を贖ふために出だせし錢。

頤環 ケイワン くびわ。

頤門 タイモン 一家一門のくづる。

頤思 タイシ 深く思案に暮る。

頤舍 タイシャ こぼれた小屋。あばらや。① 溫和。

頤柔 タイジウ 穏かなる氣質。

頤垣 タイケン 墻壁の破れたる。

頤屋 タイヤ 崩れ家。頤舎に同じ。

頤家 タイカ 家産を失ふこと。

頤唐 タイタウ 財産を失ふこと。勢のおとろふること。

頤倒 タイタウ 崩れ倒れること。

頤を包む骨、八枚あり。

頤足類 トウツル# (動) 軟體動物の一體は頭部と胴部とに分れ

頤端に數本の筋肉質の足を有し體を倒にして水底を運動す。

頤中將 トウチュウザウ 昔藏人頭に近衛の中將を兼ねたる官。

頤陀袋 ヲツツボロ 頤陀の僧が物をに入れて頭に掛くる袋。死人を葬るとき其の頭に掛くる袋。

頤吳足越 トウゴツクツエツ 頭が吳の國で足が越の國との義にて、つまり上下表裏の親密ならぬをいふ。吳越は反對の意味に用ふ。

頤從足反 トウジュウツクハン 表面に從ふ如くして内心は服さぬこと。

頤足異處 トウソクトコトコトニス 又首足異處ともいふ。腰斬せられて頭と足とが別々になるをいふ。

頤 クワイ。ケ。洗ふ。面を洗ふ。

頽雪 タイセツ なたれ。山に積める雪のとけて崩れ落ちること。

頽陵 タイリョウ 崩れて仕舞ふこと。

頽琳 タイリン 滅茶苦茶に壊れること。

頽産 タイサン 財産を失ふこと。

頽陽 タイヤウ いろ日。夕日。一に對して往時を思ふ。

頽陷 タイケン つまづくと。事業などの一頓挫するをいふ。

頽落 タイラク 城郭などの崩れ落ちること。又頽下といふ。「同じ」。

頽然 タイゼン 無理ならぬこと。頽に頽塌 タイタツ 壁・石垣などの崩れたること。古城一の跡。

頽運 タイウン 氣運のおとろふること。くだりざかになること。

頽廢 タイハイ 物の衰へ廢れること。世の徳義人道などの段々に崩れ行くこと。「石垣」。

頽壁 タイヘキ 崩れたる壁。崩れたる壁 タイシヨウ 壁の破れたること。

頽齡 タイレイ さしよると。老いば

頽壞 タイクワイ くづれこはれること。

頽爛 タイラン 元の形の崩れたること。當時の鐵壁も一其跡を留めず。

頻 ヒン ビン。すみやか。ならぶ。しきり。ほざり。ひそむ。たび重なる。きし。くり返すこと。速かなるにいふ字。

頻回 ヒンクワイ たびたび。

頻吹 ヒンスイ しぶき。しぶかれてあたりへ飛びちる細かき水。

頻頻 ヒンビン たびたび。物事のしげくおこるさまにいふ語。

頻繁 ヒンパン しげく多きこと。しきること。かすかさなること。

頻數 ヒンシュ たびたび。しばしば。頻蹙 ヒンシュツ 安んぜざるさま又は

頻蹙 ヒンシュツ 安んぜざるさま又は

頻蹙 ヒンシュツ 安んぜざるさま又は

頻蹙 ヒンシュツ 安んぜざるさま又は

頻蹙 ヒンシュツ 安んぜざるさま又は

頻蹙 ヒンシュツ 安んぜざるさま又は

頻蹙 ヒンシュツ 安んぜざるさま又は

頻蹙 ヒンシュツ 安んぜざるさま又は

頻蹙 ヒンシュツ 安んぜざるさま又は

頽 スヰ スヰ。ズヰ。やつる。やむ。クワ。クワン。小さき頭。つぶ。ふき(草の名)。

頽凍 クワトウ 欺冬の異名。

頽個 クワコ 雅印などの一個といふが如し。

頽伴 クワバン なかま。つれ。セン。うやうやし。おろか。もつぱら。ひとり。まろし。こまし。

頽民 クワミン 良民に同じ。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽頽 クワクワ おろかなること。

頽

ギヨウ。グ。おほあたま。さかんなり。あふのく。おごそか。おだやか。うやうやし。

頽

ガン。ゲン。つら。かほ。かんげせ。

頽揃 カネソロヒ 其の處に列すべき人数のそろひたること。伎倆すぐれたるもの又は種類同じきもの、そろひ居ること。

頽色 カシヨク かほ色。かほつき。顔のいろあひ。「同じ」。

頽容 カシヨウ かほかたち。顔貌に顔面 カシメン かほ。おもて。

頽料 カシロウ 化粧に用ゐるもの。總稱、べにおしるいなごの類。ふのぐ。染料。

頽貌 カシボウ かほかたち。みめ。顔役 カシヤク 勢力あり名望ある親分。俠客。かしら。なま。

頽觸 カシブツ 昔芝居にて一座の役者が抽出にて見物人に目見え

せしと。其の物事の計畫又は發表などに列する連中。

額 ガク ギヤク。ひたひ。かぎり。さだめ。たか。かす。員數又は分數。へんがく。紙又は帛若くは板などに文字又は繪畫などを書きて門又ははなげしなどに高く掲ぐるもの。

額面 ガクメン 公債・株券などの定めある金高をいふ。扁額をいふ。一若干圓。

額堂 ガクドウ 信者より奉納したる額を掛けおくために神社佛閣の境内に設けてある床なき堂宇。又額殿といふ。

額板 ガクイタ がくめんの板。鑑のこての飾の名。

額間 ガクマ 御殿の名を書きたる額をかけてある柱の間。

額裏 ガクウラ 額面のうら。衣服の裏に上部だけ他と異りたるよき帛をつけたるもの。

額頭 ガクウ ひたひ。

額數 ガクスウ 定まりたる數。

額銀 ガクギン 今の二十五錢に當る徳川時代の銀貨。形額面に似たり。又額判といふ。

額波 ガクハ 額の皺を波の寄る様に譬へていふ。老人に對する形容。

額紫陽花 ガクアザナギ (植)あぢさゐの一種、其の花周圍の外に向ひたる方より開き始むるもの。

額面價格 ガクメンカク 公債・證書・株券などの額面ごほりの價格。テイ。ダイ。とひ。ひたひ。かしら。しるし。名。しながら。しるす。試問の個條。詩歌文章の趣意を其の篇のはじめに短く書けるもの。或ものに對する自家の感想を書

題

きあらはしたる詩歌又は文章の稱。

**題目** タイマ げだい。問題。日蓮宗にて法華經の題即ち南無妙法蓮華經の七字の稱。○一を唱ふ

**題字** タイジ 書物・圖卷の初め又は書幅・石牌の上などに記する文字。

**題言** タイゲン 題したること。著書などの初めに記するもの。はしがき。「作らしむること。」

**題作** タイサク 題を出だして文章を題咏 タイエイ 題に因つて詩歌などを詠むこと。

**題者** タイシャ 宗論の時、論題を出したまその當否を定むる役僧。

**題肩** タイケン 藁の異名。

**題跋** タイハク 著書の巻初の文と末に書く文と。題と跋と。奥書。

**題詩** タイシ 題したる詩。書物の初めに記す言葉。それらの詩。○一題咏。

**題意** タイイ 問題の意味。題號に因つて表はされたる意味。

**題號** タイガウ 物又は書籍の標頭。

**題標** タイヘウ 標號。總て物の名詞。

**題縁** タイエン 神佛に寄進する金錢。奉加。○一喜捨。

**題額** タイガク ひたひ。門口又は戸口などに掲げた額。

**題稱** タイショウ 總ての物の代名詞。○一題識 タイシキ 題辭として書きしるすこと。かきしるしたる題辭。

**題辭** タイジ 書物又は圖卷の初め若くは書幅又は石牌の上などに記すことば。又題詞といふ。

**題脚** タイキョウ 海老魚の口邊にある三對の脚。

**類** ルイ ルキ よし。のり。ためし。こと。かたら。たぐ

ひ。にる。かたごる。なむ。したがふ。くらぶ。おほむね。歌の名。

**類分** ルビ 部類わけ。分類。

**類比** ルヒ 比類。たぐひ。くらべあはせ。てらしあはせ。

**類句** ルキウ 短歌を句の頭字の音に從ひて分ち集めたもの。○一

**類同** ルキドウ によること。同じたぐ

**類別** ルキベツ 類わけ。「一品。

**類似** ルキシ 似ること。似寄ること。○一類例 ルキレイ 似寄りたるためし。

**類典** ルキテン 似寄りの儀式。

**類草** ルキソウ 藥草。

**類則** ルキソク 似寄りの規則。

**類版** ルキバン 同じ様な版木。

**類字** ルキジ 似よりたる文字。

**類書** ルキショ 似寄りの類によつて集められたる書物。「といふ。

**類症** ルキシヤウ 似寄りの病。又類病

**類派** ルキハ おなじ種類の内にて

すこし異なること。○一類別。

**類推** ルイイ 似よりたる種類の例を以て他をおしはかること。

**類從** ルイジヨウ 同じ類の爲めに同じ趣きになり従ふこと。

**類祭** ルイサイ 天つまつり。

**類規** ルイキ 似寄りの法規。

**類族** ルイゾク 一家一門。やから。

**類集** ルイシュ 部類によつて集めること。同一部類のもの、集まること。同一部類のもの、集まること。焼く。餘所からの出火に共焼けのすること。又類火といふ。○一御見舞。

**類聚** ルイシュ 部類によつて集めること。○一御見舞。

**類說** ルイショウ 似寄りたるばなし。

**類歌** ルイカ によりての歌。

**類縁** ルイエン 似よりたるゆかり。縁者。似よりたるゆかり。

**類語** ルイゴ 同種類のことば。

**類題** ルイタイ 種類によつて題目を分けたるもの。歌を其の題によ

りて聚めたるもの。同種類の句題。○一集。

**類藥** ルイヤク 似寄りの藥。類似的處方によりて調劑したる藥。

**類獸** ルイジュウ 狐に似て男女兩性を備へありといふ。人若し其肉を食はば總ての猜み心を去ると言ひ傳ふ。

**類證** ルイジヨウ によりたる證據。

**類纂** ルイサン 部類によつて集め書ること。同種類のものを編纂すること。

**類似品** ルイシヒン によりたるしな

**類似症** ルイシシヤウ 或病氣に類似したる病氣。

**類同法** ルイドウホウ 歸納的研究法の一種。個々の事物を其類點より觀察して通法を發見すること。

**類句集** ルイキウシュ 俳句・短歌などを句の頭字にて集めたるもの。

**類喩法** ルイユホウ 修辭法の一種。一事物を同類の事項のみによ

りて一段の文をなすをいふ。

**類題集** ルイタイシュ 似よりたる題にて分類せる詩歌集。

**類似聯合** ルイシゴウガク 或物を見聞せしにより他の之に似よりたる物と思ひ出すこと。

**類** ルイ ルキ ひたひ。

**類額** ルイガク ひたひ。

**類頭** ルイカウ ひたひさき。

**願** ガン グワン。おほあたま。れがひ。のぞむ。いのる。したふ。つねに。ことに。

**願人** ガンニン 乞食の類。請願人。願書を差出したる人。

**願力** ガンリキ 願ひだてをしてその目的を貫かんとする志。念力

**願文** ガンモン 願ひの意を記したる文。多くは神佛への願がけにいふ。

**願立** グレンダ 神佛に誓を立て、祈り願ふこと。ぐわんがけ。  
**願主** グレンシュ ねがひをする本人。ぐわんを立つる人。「くること。」  
**願掛** グレンカケ 神佛にぐわんをかある主意又は文面。「なること。」  
**願面** グレンメン 願書に書き立て、ある主意又は文面。「なること。」  
**願免** グレンメン 願によりて免職と願免 グレンメン 陰曆七月七日裁縫に巧にならんとを思ひて女子がたなげたに捧ぐる絲。  
**願書** グレンシヨ 官廳へ差出す願ひの意を書きたる文書。「第。」  
**願状** グレンジヤウ 願ひ文。「第。」  
**願意** グレンイ 願ひのむね。願の次願酒 グレンシユ 神佛に誓つて禁酒すること。「ること。」  
**願賽** グレンサイ 神佛に願ひを懸け願望 グレンバウ れがひのぞみ。志願。希望。(心)或目的を心中に思ひ浮べて之を得んと要求する感情と意思との結合。

**願人坊主** グレンニンバウ 昔江戸にて人に代りて願がけの修行又は水垢離なごせし乞食の僧。轉じて乞食の僧又は頭髪を蓬々さばしたる僧。  
**顛** テン もと。さかしま。くつがへる。いただき。たふる。おつ。くるふ。まよふ。さかんなり。  
**顛下** テンカ 物のくつがへり落つること。●岩石。「こと。」  
**顛仆** テンボク けつまつきたふるる顛末 テンマツ 事のもとす点。事の始より終までの情狀。●一を明かにす。「この間。」  
**顛沛** テンバイ すこしの間。ちよつ顛冥 テンメイ 迷ふこと。よみぢに迷ふの義。「さ。」  
**顛頂** テンテイ 頂顛に同じ。いただ顛倒 テンタウ さかさにする。物の覆り倒れること。常を失ふこと。漢文にて返

字の位置が常規にたがふこと。●主客一す。「へること。」  
**顛跌** テンテツ つまづくこと。くつが顛滅 テンメツ みなごろしにすること。全滅。●敵を一す。  
**顛落** テンラク こるびおつること。顛墜 テンツイ こるびおつること。おさるへかばること。  
**顛額** テンガク ひたひ。  
**顛覆** テンフク 物のくつがへること。ひつくりかへすこと。ほろぶること。ほろぼすこと。たふる。たふすこと。  
**顛顛** テンテン 一途に志すさま又は憂へるさまにいふ語。  
**顛躓** テンシツ たふれつまづくこと。  
**十畫以上**  
**願** ロル 願に同じ。かうべ。あたま。シユク。願をしかめる。

**願** コク かへりみる。かへる。うらはらにて。たゞやとひ。むくゆ。ひく。  
**願己** コク 己れの身を省みること。  
**願反** コク 振り向くこと。又願面といふ。  
**願念** コク 過ぎ去つたことを思ふ  
**願命** コク しにぎはの書置。君主又は貴人の死後の事の依託。深く愛しての命令。  
**願省** コク 過去を思ひだして省みること。●往時を一す。  
**願客** コク 得意客。とくい。  
**願問** コク かへりみて意見な問ふこと。またその間に答ふる人。さうだんに與る人。諮詢を受くる人。  
**願病** コク 病氣を見舞ふこと。  
**願阿** コク 四邊をふりかへり見ること。●一回視。  
**願望** コク 省み望むこと。かれこれと考へわたりて決行せざること。

**願眷** コク 眷願。目を懸けること。  
**願愛** コク 目を懸けると。愛願に同じ。●一を受く。  
**願慮** コク かへりみて前後を考へること。後事を心配すること。●願瞻 コク 省みること。「一熟考。」  
**願問官** コク 陛下の御諮詢にあづかる職。セン。まがる。震ふ。わななく。セウ。セウ。やつれること。憔悴したる状をいふ。  
**顛顛** セウ 衰せ衰へること。やつれること。シユ。ニユ。  
**顛愚** セウ おろかなること。ケン。ゲン。ひかり。あきらかなる物事。あらはれたる位地。あらはにみる。ひいづる。

**顯正** ケンセイ 尤も正しきこと。正しきものを益すあらはにする。●顯乎 ケンフ 顯はになること。形容  
**顯世** ケンセイ この世の中。現世。  
**顯成** ケンセイ 立派に出来上ること。物の成功すること。「ころ。」  
**顯衣** ケンイ 喪服の稱。「ころ。」  
**顯地** ケンチ 要路。かんじんなると  
**顯在** ケンザイ あらはれてあること。  
**顯出** ケンシュツ あらはれ出ること。世に出ること。「こと。」  
**顯明** ケンメイ 明らかにあらはれる  
**顯見** ケンケン はつきり見えること。  
**顯表** ケンヘウ あらはにする。●顯官 ケンクワン 高等の位置にある役人。●高位。「こと。」  
**顯要** ケンヤウ 重き地位。「こと。」  
**顯炳** ケンヘイ 火の如く明らかなる  
**顯幽** ケンウ 明らかなると幽かなること。暗きを明かにすること。  
**顯美** ケンビ 美徳の顯はれること。  
**顯逞** ケンテイ 見えびらかすこと。

頁部 十一畫以上

頁部 十一畫以上

頁部 十一畫以上

顯然 ケンゼン はつきり顯はるるさまにいふ語。

顯達 ケンタク 立身出世の義。

顯揚 ケンヤウ 高名に同じ。世間に廣く名を知られるる。家を起すにいふ。◎家名を一す。

顯著 ケンシヤク 物の著しきこと。あきらかにあらはるること。

顯貴 ケンキ 尊き君主に對する名詞。◎一の御肖像。

顯暗 ケンアン 明暗に同じ。物の表裏に喩へていふ。

顯聖 ケンセイ 神佛の略。

顯密 ケンミツ あきらかなるとひそかなること。顯教と密教と。

顯教 ケンキョウ (佛) 釋迦牟尼が物に接し機に應じて明に邁く衆生に説きたる教法の稱。

顯證 ケンシヨウ あきらかなること。

顯現 ケンゲン あきらかにあらはるること。あらはし示すこと。「こと。顯榮 ケンエイ 世に知られて榮ゆる

顯微 ケンビ つまらぬことを明らかにする。

顯德 ケンタク 徳の顯はれること。◎一著名の士。「謙むること。

顯諫 ケンケン 公然と君主に向つて諫言すること。

顯道 ケンダウ 立派に行ひ少しも秘密の所なく心中穩かなること。

顯職 ケンシヨク 高き地位の職。たふとき官職。高官。

顯露 ケンロ 露顯に同じ。惡事など顯はれること。「にいふ語。

顯顯 ケンケン 總て明らかなるさま。

顯微鏡 ケンビキョウ 肉眼にては見えず極めて細微なる物を廣大して見するめがね。むしめがね。

顯露事 ケンロジ 人間界の稱。

顯章堂 ケンシヤウドウ 古内裏の太極殿の東南にありたる堂の名。

顯花植物 ケンカシヨク (植) 普通の花が見て花さ見なす花を開き果實を結び種子を生ずる高等植物の稱。

【擧】 ヒン。ピン。 しかむ。ひそむ。

擧面 ヒンメン しかみづら。しかめるかほ。かほをしかめると。

擧蹙 ヒンシヤク 眉にしわをよする。物事を卑しめ斥くる意。

擧火鉢 ヒンカハチ 金屬製にて足に獅子の面のしかみたる如き飾りを付けたる火鉢。形圓くつば廣し。

【顛】 ロル。 かうべ。頭。

顛骨 ロツ 頭のほれ。頭蓋骨。

顛頂骨 ロツチョウコツ 頭の頂上にある左右一對の骨片。扁平方形にして頭蓋骨の一部を爲す。

【顛】 セフ。ネフ。 耳たびら。こめかみ。

顛顛 ロツロツ 耳の上の部分にて物を噛めば動くところ。

顛顛骨 ロツロツコツ 頭の側面を造れる左右一對の骨片。即ちこめ

風部

風部

風部

【風】

かみにある不齊扁平なる骨にして頭蓋骨の一部を爲す。顛顛筋 ロツロツキン 頭の兩側にありて顛顛骨を蔽へる扇狀の筋肉をいふ。ケン。ゴン。ほ、ぼれ。つらがまちの骨。顛骨 ケンコツ 頰の骨。

風部

風人 フウジン 狂人に同じ。きちが風土 フウツ 土地の地味・氣候・狀態等をいふ。風化 フウカ 上の徳に下の化せらるること。上の徳に下の化せらるる

と。(化) 結晶體が空氣中に於て漸々結晶水を失ひて粉末となること。(地) 岩石が空氣中の水分を吸収して次第に崩解すること。風月 フウゲツ ちよき風ささやけき月と。風にうそぶき月をながめて楽しむこと。◎一を友として世を避く。「ま。ながめ。風色 フウシキ 景色。風景。ありさ風交 フウカウ 風流なるつきあひ。◎一雅友。風向 フウカウ 風の吹き來る方向。風位 フウイ かざむき。風帆 フウパン 風を受けたる船の帆。◎一矢の如し。風光 フウクワウ けしき。ながめ。◎一明媚の地。風言 フウゲン うはさ。風説に同じ。風災 フウサイ 風の爲に受けたるわざはひ。風伯 フウハク 風の神。風師。◎雨師風車 フウシャ 風ぐるま。風の力に

て回轉する装置の車。風波 フウハ 風と波と。騒動の磯。風荒く波高きよりいふ。あらそひ。もめ。◎平地に一を起す。風佚 フウイツ 我ま。氣ま。風位 フウイ 風の方向。風雨 フウウ 風と雨と。あらし。風毒 フウドク れうまちす。又風病といふ。◎一佳良。風味 フウミ あぢはひ。おもむき。風來 フウライ 風に吹きよせられたる如く何處よりさもなくさまよひ來ると。他所から來たものにて確と居處の定まらぬこと。居處不定のもの役に立たぬこと。◎一山人。風咄 フウダツ 風の如しさいふ意味風物 フウブツ 景色などのもの。ながめにいふもの。季節のもの。風采 フウサイ なりふり。みめ。人品。ひとがら。風邪 フウジャ ひきかぜ。かぜひき。

風部

風紀 フウキ 風俗をして奢侈淫猥等に流れざらしむる爲に社會に存する規律。  
 風船 フウセン 風を満たして飛ばせる船。輕氣球。  
 風姿 フウシ すがた。なりふり。機。  
 風寒 フウカン 陰曆十一月の異稱。  
 風致 フウチ 遊き。あぢはひ。景色。  
 風俗 フウゾク 習はし。風儀。しきたり。よそほひ。みなり。  
 風計 フウケイ 風の強弱を測る器械。驗風器。  
 風氣 フウキ 風邪に感したる氣味。風をひきたる心地。風の將に吹き起らんとする様子。風俗。  
 風骨 フウコウ 人品。すがた。やうす。  
 風砲 フウハウ 空氣鐵砲。  
 風流 フウリウ みやびやか。おもむき多きこと。風雅なること。前代の遺風。俗事に關係せざる興味多きこと。①韻事を事とす。  
 風師 フウシ 風の神。

風部

風迹 フウキ 風教に化した迹。  
 風害 フウガイ 風の爲めに受けたる損害。  
 風浪 フウラウ 風と浪と。海荒れて風候 フウコウ 風のもやう。風の方角を見る具。  
 風密 フウミツ 風の通ふ隙も無きこと。風習 フウシヨク しくせ。ならはし。しきたり。①古來の①。  
 風鑑 フウカン 容貌風采によりてその人の性質を推しはかること。  
 風神 フウジン かたち以外にあらはれたるおもむき。  
 風眼 フウガン 目の痛む病。濃汁の眼中に入るによりて發するもの。  
 風鳥 フウトリ (動)形三光鳥に似て尾は薄の穗の如く脚は鼠に似たり多く洞中に棲み羽毛甚だ麗しく飛ぶこと巧なり。  
 風教 フウキョウ 風習上のをしへ。世の教へ。徳を以て下のものなみ

風部

ちびき教ふる。①を重んず  
 風雪 フウセツ ふぶき。風と雪と。風あらく雪しげく降ると。  
 風袋 フウタイ 秤にて物をはかる時その品物の上包又は之を容れたる箱・樽などの稱。轉じて正實に對して外觀の稱。  
 風通 フウツウ 金銀線を用ゐて花文を出したる織物。①のあし。  
 風脚 フウキョク 風の吹き行く力。風淫 フウイン 風邪の類の病氣。  
 風情 フウセイ 趣き。様子。やから。町人。①名、脚氣の一種。  
 風脹 フウチヤウ 風から起る病氣の風發 フウハツ 風の起ると。ふるひおこると。ばげみ起つこと。  
 風評 フウヒョウ とりざた。うわさ。  
 風雲 フウウン 風と雲と。英雄豪傑などの世にあらはれ出づる機となる天下の事變。①に乗す  
 風景 フウケイ けしき。景色。①明媚の地。

風部

風雅 フウガ みやびたること。風流。詩歌・俳諧其の他凡て俗事ならぬこと。の稱。  
 風損 フウソン 風の爲に受くる損害  
 風鈴 フウリン 鐘に似て小さく内に舌ある金屬製の具。  
 風禽 フウキン いかのぼり。たこ。  
 風箏 フウソウ たこのうなり。  
 風靡 フウビ なびきしたがふこと。なびきしたがはず。  
 風露 フウロ 風すやくしく露しげき  
 風前 フウゼン かぜの吹く所。  
 風變 フウヘン 普通の風と異なること。性癖の常人にことなれること。從前と風のかはれること。  
 風帶 フウタイ 几帳の上に垂るる細長き布帛。掛軸の上方に垂るる二條の幅狭き帛。  
 風話 フウワ 取り止めの無き話。風説に同じ。①がん。  
 風琴 フウキン 西洋楽器の名。おる  
 風説 フウセツ うわさ又風聞といふ

風部

風塵 フウジン 風に立つちり。世の中のうるさきことども。①を避く。  
 風歌 フウカ ほのめかし唱ふこと。  
 風潮 フウウ 世のなりゆき。風に隨ひて流るるなみ。①險惡。  
 風儀 フウギ 風俗。きやうき。作法。ならひ。ならはし。  
 風標 フウヒョウ 風の方向を見る物。むさみ。ひさがら。やうす。  
 風趣 フウシュ おもむき。あぢはひ。  
 風樹 フウジュ 風の吹き當る木。親すてに逝去して奉養し得ざること。  
 風貌 フウボウ 容貌に同じ。なりか  
 風濤 フウタウ 風となみと。風たちて浪あらざること。  
 風霜 フウソウ 風と霜。寒冷の意義。人に對する艱難の形容。①を凌ぐ。  
 風鎮 フウチン 掛物の兩端に掛ける  
 風聲 フウセイ かざ聲。風邪にて聲

風部

の枯れたること。うわさ。かぜのおと。をしへ。①鶴唳。  
 風靈 フウレイ 風ふきて土ふること。  
 風概 フウガイ やうす。ひとから。  
 風韻 フウウン おもむき。趣味。雅致あること。前代の遺風。①雅趣①。  
 風濕 フウシツ れうまちす。  
 風蘭 フウラン (植)蘭科に屬する草深山の樹幹などに生じ、葉はおもとに似て小さく花は小形にして黄色又は白色なり。  
 風議 フウギ かわさ。風説。  
 風鐸 フウタク 風りん。①聞くこと。  
 風聽 フウテイ 風の便りに仄かに  
 風懷 フウワイ 風流の心持ち。  
 風騷 フウソウ 風流遊び。風雅。  
 風鰻 フウマン やつめうなぎ。  
 風體 フウタイ すがた。なりふり。様子。みめかたち。①ひ。  
 風癩 フウレイ きちがひ。ものぐる  
 風土病 フウドビョウ 其の土地の氣候地質等より起る病氣。

風部

風切羽 カキキ 鳥の腋の下にありて飛ぶとき風を切る短き羽。

風袋倒 フウタイダシ 掛目の多くあるが如く見えて其の實いと輕きと。外觀徒らに美にして其の實實之に伴はざること。

風雨計 フウウケイ 晴雨計に同じ。風藤葛 ソウドウカラ (植) 胡椒科に屬する草、海濱に生じ卵形互生葉を有し花は小形白色にして穗状花序を爲す。

風露草 フウロウソウ (植) げんのしようこの一種、花は白色又は赤色にして美し。

風俗歌 フウゾクカ かがらうたの類。國國の風俗を唱へたる歌。諸國のはやりうた。

風聲鶴唳 フウセイカクレイ 恐れ氣のつきたる人があらぬ物事におぢおそるゝ事にいふ語。

風帆船 フウハンセン 西洋形の帆船船

風俗畫 フウゾクガク 風俗を畫に書きあらはしたるもの。

風紀衛兵 フウキエイ 軍隊の風紀をとりしまる爲めの衛兵。

風吹餅 フウフエチ 極めて薄き煎餅。

風前燈 フウゼントウ 風の吹くところにあるさもしびといふ義にて危急に迫りたることに譬へていふ。一よりも危し。

風紀警察 フウキケイサツ 風俗をさりしまるための警察行政。

風來物 フウライモノ 役にたゝぬすた

風媒花 フウバイカ (植) 雄蕊の花粉が風の媒介によりて雌蕊の柱頭に送られ以て生殖作用を營み種子をなす花。一「うがん。

風來山人 フウライサンジン 所を定めず所々をさまよひまはる人。きまぐれもの。おちつくすべのなき人。役に立たぬもの。

風雲會 フウウンカイ 明主と良臣と相會する。英雄豪傑などの世にあらはれ出づる機會。

風熱眼 フウネツガン 目の痛む病。つ風馬牛 フウバウ 牝牡相誘ふ馬と牛と。風馬牛も相及ばすといへ

風餐露宿 フウサンロシュク 野外に起臥すること。

風部

風部

風部

三十五畫

〔嵐〕

(國字)。おろし。高き處より吹き下すかぜ。

〔颯〕

サフ。ソフ。はやて。大風の吹くさまをいふ。

颯戾 サフレイ 秋の夜などの涼しきこと。

「て飛ぶ状。」

颯沓 サフタツ 鳥などの一群になり

颯然 サフゼン 風の急に吹き起るさま又は一陣の風吹き至るさまにいふ語。

颯爽 サフサフ 風姿勇壯にして氣味

よきさまにいふ語。◎英姿。語。◎金風。

颯纒 サフシ 袖の長きこと。

〔嵐〕

あらし(國訓)。風雨のあれたつもの。暴風雨。

〔颯〕

ヘウ。ハウ。ベウ。ハク。ホク。あらし。風の聲。おほし。物の空より墮つる

〔颯〕

貌にいふ。セン。風のものゝ動かすさま。風吹きて波立つと

〔颯〕

六一九畫

颯風 タウ (地) 一分間に凡そ二十九米突以上走る風、螺旋狀に急に旋轉す、はやて風。つむじ

颯母 タウ 大風の起らんとする前にあらはるゝ虹の如きもの。

颯去 ヤウキ 飛び去ること。

颯言 ヤウゲン わざと物事を大きくいひなすこと。

颯扇 ヤウセン 穀物の糶を分くる器

颯飛 ヤウヒ とぶこと。〔たうみ。

〔颯〕

シ。風涼し。すすかぜ。すすし。

颯風 シウ はやて。

シフ。セウ。風の貌。

〔颯〕

十畫以上

颯 ハン。ボン。ヘン。馬の疾く走ると。風吹きて船の進むにいふ。はしる。

颯 エウ。上行の風。ふきのぼる風。風に吹かれて動く。あがる。風の高く吹くこと。

颯 ヘウ。ベウ。つむじ。はやて。ひるがへる。旋る。疾し。さまよふ。

颯 飄忽 ヘウコツ 風の吹く如くすみやかなる様にいふ。「無常の風。

飄風 ヘウフウ 劇しき風。つむじ風。

飄揚 ヘウヤウ 空中に舞ひあがるとひるがへしさまよふこと。◎犬空に

風部 六一九畫

風部 十畫以上

風部 十畫以上

飄搖 ヘウウイ ひるがへり動くこと。ひるがへしうごかすこと。

飄然 ヘウゼン 漂ひて定まらぬ様にいふ語。ひらひらと。ふらりと。何気なく立ち去るさま。又は出て来るさまにいふ語。

飄飄 ヘウヘウ 風のふくさま。ひらめき行くさま。定めなく所を替へ行くさまなどいふ語。

飄飄跟跟 ヘウヘウウウ ひよろ／＼として去る。

飄 ヘウ 飄に同じ。

飄 ヘウ 飄に同じ。始めは焱に作りたるも俗に焱を用ふ。

飄 ヘウ つむじ風。あらきかぜ。おほかぜ。

飄回 ヘウウイ つむじ風の如く吹

飛部

颯 セツ きまくること。取締りなく亂れること。① 颯る所なし。

颯風 セツフウ 下から上方に吹き上ける荒き風。つむじ風。はやて。サウ。ソウ。

颯 セツ 風の聲。シウ。ソウ。

颯 セツ 風吹く。風の音。リウ。ル。

颯 セツ 風の聲。シウ。シチ。

颯 セツ あきのかぜ。チウ。ダウ。すし。

颯 セツ すずしき風。おほかぜ。こゆ。

飛字 トビ 高き家ののき。高き家。

飛部

飛天 トビテン 天人。天女。

飛入 トビイリ 他より入りまざること。又そのもの。不意に加はり入ること。① 勝負。

飛火 トビヒ 火災のとき火の子の飛びて他にもえ移るもの。すべて火の子の飛びたるもの。稱。周圍に紅暈ある小豆大の水ぶくれを生じ忽ち所々にうつりはびこる一種の皮膚病。

飛丸 トビワ 彈丸のとぶこと。飛び來るたま。① 雨注。

飛切 トビキ 高く身をおどらせて敵を切る。他に超え勝れたること。最上。極上等。

飛白 トビハク 漢字の書體の「かすれ筆にて書くもの、字體隸書に似たり。かすり。縞。

飛石 トビシ 庭前又は茶室の路次などに少しづつ離して敷き並べたる石。

飛札 トビシ 急ぎの手紙。飛脚にて

飛部

寄せ來りたる手紙。「地。

飛地 トビチ 此處彼處に散在せる

飛奴 トビヌ はしりづかひ。

飛去 トビク さびさること。① 飛來

飛矢 トビヤ 流れ矢のこと。

飛行 トビウ 天空を飛び歩くと。

飛耳 トビミ はやみみ。「自在。

飛肉 トビニク 鳥類をさしていふ。

飛光 トビクワ ひかりもの。

飛車 トビクルマ 飛ぶが如くに早き車。將基の駒の名。「つ。

飛兵 トビヘイ 早く走る兵。① 一を放

飛言 トビゴン ねなしこと。いひふら

飛來 トビライ とびくること。

飛花 トビハ ちるばな。① 落葉。

飛部

香いおこせよ梅の花主なしとて春なわすれそ」と一首の歌を味じたるに其の梅遂に配所に飛び行きたりといふ故事。

飛沫 トビシ 水の細かになりて飛び散るもの。しぶき。とばちり。

飛動 トビウ とびうごくと。

飛雨 トビアメ 劇しく横に飛ぶ雨。

飛泉 トビセン 吹き出す泉。吹きあげ

飛書 トビショ 匿名の手紙。早飛脚にて遣る手紙。

飛魚 トビイサ (動) 大さ一尺ほどにて形ばらの如く兩脇の鱗長大にして殆ど翼の如し、海上を飛び上りて直進す。

飛雪 トビユキ 降る雪。① 紛々。

飛揚 トビウ 空中へ舞ひのぼると。はねあがること。雀躍。

飛將 トビシャウ 軍さのすばやく將軍をほめていふ語。「なへ。

飛鳥 トビトリ とぶ鳥。周易で離のこ

飛禽 トビトリ とぶとどり。

飛部

飛黃 トビウ 名馬の名。千年も生き延ぶるといふ駿馬。「と。

飛跑 トビハウ 早く飛ぶこと。早く走る

飛絮 トビコ 風にさぶ柳の花。

飛檄 トビキ 檄文をいそぎまはすこと。いそぎまはす檄文。

飛簾 トビレン 風の神。(植)おにのまゆはき。

飛蛇 トビヘビ 霧に乗つてさぶといふ

飛翔 トビウ 空中をとびかけること

飛渡 トビワ とびこすこと。とびて向

飛脚 トビキ 急事を報する使。昔人の音信を遠方に届くるを業とせし人。「き瀬。

飛湍 トビタン たきみづ。水流のはや

飛舸 トビカ 脚の早き舟。はやぶね。

飛散 トビサン とびちること。

飛報 トビハウ 急のしらせ。

飛雲 トビウン 走る如くに流れる雲。さびゆく雲。① 矢の如く風早



飛部

飛園 ヒョウ 釣り庭のこと。「報」  
 飛電 ヒョウ いなづま。到来せる電  
 飛禍 ヒョウ 思ひがけなき禍ひ。不  
 慮の災難。①—を買ふ。  
 飛彈 ヒョウ 砲彈のとぶこと。飛び來  
 る彈丸。②—雨注。「し」。  
 飛語 ヒョウ とうはさ。風評。いひふら  
 飛箭 ヒョウ 飛び行く矢。①—流矢  
 飛鼠 ヒョウ 蝙蝠の異名。  
 飛錫 ヒョウ 僧又は道士の行脚す  
 ること。うんずる。  
 飛燕 ヒョウ 飛びかふつばめ。相術  
 にて飛びかふつばめの如く身  
 をひるがへすこと。  
 飛蟲 ヒョウ トムシ(動)甲殻類に屬する  
 節足動物、多く淡水に生じ能く  
 跳ね飛ぶ、體長二三分許側扁に  
 して彎曲し灰白色なり。  
 飛蟻 ヒョウ トムシ(動)あり。  
 飛橋 ヒョウ ばね橋。「る水流」  
 飛瀑 ヒョウ たく。高所より落下す  
 飛風 ヒョウ トムシ 飛びあがること。さびひ

飛部

飛龍 ヒョウ トムシ 空に飛ぶ龍。能書の  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。  
 飛龍 ヒョウ トムシ 早く走る騎兵。

飛部

飛龍頭 ヒョウ トムシ 粳米と糯米との粉  
 を等分に混合し水にてねりゆ  
 で、油に揚げたる食品。豆腐の  
 がんもどきの類。  
 飛道具 ヒョウ トムシ 弓矢・鐵砲などの  
 如く遠くより打ちばなして敵  
 をうつつ具。  
 飛雙六 ヒョウ トムシ 道中雙六の如く  
 順を追はず各區劃に采の目に  
 よりて各行くべき所をしるし  
 たるに準據して石を處々に轉  
 ぜしむるもの。  
 飛針走線 ヒョウ トムシ 針飛び糸走  
 るといふ義にて裁縫の達者な  
 ることの義なり。  
 飛絮漂花 ヒョウ トムシ 浮き川竹の  
 身をいふ。流れ渡りの定まらぬ  
 身の上。  
 飛來頭兒 ヒョウ トムシ 賭博の貸元。  
 飛驒工匠 ヒョウ トムシ 古毎年京都  
 へ飛驒國より召出されし工匠。

食部

食

食部

シヨク。シ。シキ。くらふ  
 かむ。くひもの。めし。す  
 ぎはひ。まつり。ちぎや  
 う。むしばむ。かふ。やし

食部

轉じて木工の稱。  
 〔翻〕 ハン。ホン。さかのぼる。  
 翻本 ハン 別様の本。翻刻本。  
 翻譯 ハン 外國語を自國語にう  
 つしなほした自國の語を外  
 國語にうつしなほすこと。  
 翻然 ハン 思ひかへすさま又は  
 心を改むるさまにいふ語。  
 翻弄 ハン 勝手にあそぶと  
 てたまにとるこ。  
 翻譯官 ハン 外國文書の翻  
 譯をつかさどる高等官。  
 翻譯權 ハン 或著作物の翻譯  
 をなし得る特權。

食部

食用 シヨク 食ひものを用ゆる  
 こと。食物に用ふるもの。①—に  
 供す。  
 食言 シヨク 約束を違ふこと。いひ  
 かはしたる詞にそむくこと。  
 食邑 シヨク ちぎやうしよ。自己  
 の受け得たる領地。①—食祿。  
 食事 シヨク 飯を食ふこと。  
 食指 シヨク ひとさしゆび。  
 食前 シヨク 食事する前。食事す  
 る席の前。  
 食器 シヨク 食物を入れる、うつは  
 食素 シヨク 食物のもとを爲すも  
 のにして、無機性(水・鹽などの  
 如し)有機性(蛋白質・脂肪の如  
 し)の二に分つ。「臺」。  
 食卓 シヨク 食事用の机。ちやぶ  
 食物 シヨク 食ふべきもの。①—  
 充實。  
 食品 シヨク 食料とする物。粗生  
 物に調理を加へて食料とした  
 るもの。  
 食封 シヨク ouchi。ちぎやう。  
 食客 シヨク 自家に養ひ置く客  
 人。あさふらう。かかり人。  
 食後 シヨク 食事の後。  
 食料 シヨク 食物に用ふる品。食  
 物の代金。食物の料。①—品。  
 食堂 シヨク 食事する室。「進」。  
 食慾 シヨク 食ひたき心。①—増  
 食俸 シヨク 食ひ扶持。  
 食鳥 シヨク 食用の鳥。  
 食滓 シヨク 食ひあましたる残  
 り。くひあまり。  
 食道 シヨク 高等動物の消化素、  
 咽喉より胃に至る迄食物の通  
 する徑路。  
 食鹽 シヨク (化)食用に供する  
 しほ。即ち鹽化ナトリウムの  
 食祿 シヨク 扶持。祿。「稱」。  
 食滯 シヨク 食物が消化せずし  
 て胃中に滞ること。「ば」。  
 食餌 シヨク 凡てのくひもの。ゑ

**食籠** シヨクワリこの類。べんたうばこ。多くは蓋あるもの。  
**食糧** シヨクヤウ 食用にするかて。  
**食氣** シヨクキくひげ。「あたり。食傷」  
**食指動** シヨクシウツク 饗應にあふ前兆あるにいふ。「もの。」  
**食用品** シヨクヨウヒシ 食物に用ふる  
**食蟲類** シヨクチュウルシ(動)むぐらち。ぢれずみなどの如く土中に穴居し蟲類を求め食ふ獸。  
**食牛氣** シヨクギウキ 幼稚にして逸氣あるをいふ。  
**食堂列車** シヨクダウレツシヤ 食堂の設備ある鐵道列車。  
**食蟲植物** シヨクチュウシヨクツク(植)蟲類を捕へて葉面より其の液汁を吸収して營養とする植物。もうせんこけの類。  
**食前方丈** シヨクゼンハウサウ 食事する席に一丈四方の面積を塞ぐるほどの食物を並べたる義にて

食事の贅澤なるにいふ。  
**二二三畫**  
**釘** テイ。チャウ。たくばふ。  
**釘豆** テイメイ 文章を作るに徒らに文詞を排列せしのみにて意味なきをいふ。食酸をつらぬると食物を貯ふる事。  
**釘座梨** テイザリ 立派なる人物。シ。シ。飲に同じ。かて。くらばす。  
**飢** キ。うゑ。うう。  
**飢者** キヤ 食にうゑたる人。  
**飢饉** キキ 腹のへる事。  
**飢饉** キン 米穀の實のらずして人民の飢ゑ苦むと。饑饉。  
**飢寒** キカン 飢へと寒氣と。  
**飢色** キシヨク 飢へたる顔色。  
**飢渴** キカク 腹がへり咽のかはくと。①に瀕す。

**飢** カン。ケン。コン。饑又は饑に同じ。ほしいひ。チ。ヂ。あめ。  
**四畫**  
**飧** サン。ソン。ばんめし。ちやづけ。ころかけ。へん。ハン。くらばす。くふ。めし。いひ。こきあぢ  
**飯玉** ハンギョク 玉を細かく碎き飯に交へて炊くもの。一種の祭典  
**飯汁** ハンシユ 粥の極めて薄きもの  
**飯米** ハンマイ 日常飯にかしぐ米。食川米。  
**飯豆** ハントウ 白あづき。  
**飯埧** ハンカン めしつき。  
**飯時** ハンジ 食事する時間。  
**飯桶** ハンツク 飯を入れる器。  
**飯匙** ハンシ 飯を器に移す具。飯じやくし。しやもじ。  
**飯粒** ハンリョク 飯つぶ。

**飯粘** ハンネン 飯にて製したる糊。  
**飯筒** ハンツク 古飯を盛りし器。おはち。めしびつ。「おひつ。  
**飯器** ハンキ 飯を入れる器。おはち  
**飯頭** ハンヂウ 寺院にありて食事を司る人。「ちやぶたい。  
**飯臺** ハンダイ 食事の用に供する臺  
**飯櫃** ハンクワ 飯を容れおく桶。かぶせぶたありて上を掩ふ。  
**飲** イン。オン。のみ。のみもの。さかもり。そそぐ。かくる。かくす。のます。みづかふ。  
**飲食** インシヨク 飲物と食物とのみくひ。①無錢。  
**飲泣** インキヤク 聲を立てずに泣くこと。すすりなき。①之を久うす。  
**飲客** インカク 酒を飲むもの。上月。  
**飲器** インキ 總て酒をのむ器をいふ。  
**飲燕** インエン さかもり。①一夜を

**飲料** インシヨク のみもの。のみしろ。  
**飲徒** イント 酒のみなま。  
**飲水** インスイ 飲み料にする水。のみみづ。飲料水の略。  
**飲酒** インシユ 酒をのむ事。  
**飲餞** インシヤン 別れのさかもり。①種別の情。  
**飲福** インフク 祈禱をする事。  
**飲食店** インシヨクテン 飲食物を商ふ店。料里屋。  
**飲料水** インシヨクスイ 飲用に供する水のみみづ。  
**飭** チヨク。チキ。つつしむ。なさむ。つさむ。ただす。ととのふ。いましむ。  
**飭愿** チヨクガン いましめつゝしむ事。  
**飭勵** チヨクレイ いましめばげます。テウ。テチ。むさぼる。トン。ドン。シユン。こきあぢはひ。

**飮** ヨ。サ。さかもり。あく。  
**飮** シン。ニン。にる。にたる食物。  
**五畫**  
**飧** テツ。テチ。饗に同じ。むさぼる。食を食る。ハウ。ヘウ。みつ。あく。あかしむ。  
**飽和** ハウワ 充分になると。定限の極度に達したると。固體が液體の中に入りて其れ以上溶解し得ざる程充分に溶解し盡したると。  
**飽滿** ハウマン 腹一杯になると。充  
**飽食** ハウシヨク 飽くまで食ふ事。食事に不足なき事。①暖衣。  
**飽學** ハウガク 飽くまで學問すること  
**飽厭** ハウエン くひあきていやになる事。  
**飽足** ハウツク あきたると。十分な

食部 五畫

**飽和溶液** ハウヨウキ (化) 一定の温度に於て 固體或は液體が十分に溶けたる液。

**飽和蒸氣** ハウヨウキ (理) 一定の室内に於ける液體が 一定の温度に於て漸次蒸發して 或度に達すれば遂に蒸發休止するに至る蒸氣。

**飼**

シ。シ。畜類に食を與ふ。かふ。やしなふ。

**飼育** ショクヤ かしそだつる。

**飼禽** ショクヤ 家禽を飼ふ。

**飼養** ショクヤ 動物をかし養ふ。

**飼面** ショクヤ 顔面に生ずる褐色の斑點。雀斑。そばかす。

**飼殺** ショクヤ 死ぬるまでやしなひおく。

**飼料** ショクヤ 牛馬などに與ふる食イ。シ。あめ。

**飼** あまみ。くらはす。

**飼石** ショクヤ 割れば中の色水飴の如き石。

食部 五畫

**飴色** ショクヤ 水あめの如き色。

**飴津** ショクヤ あまき汁。「めうし」。

**飴牛** ショクヤ 毛色の飴の如き牛。あ

**飴漿** ショクヤ あめのしる。

**飴糖** ショクヤ 水飴。

**飴錫** ショクヤ 水飴。

**飴鹽** ショクヤ 食鹽に同じ。

**飾** ショクヤ シキ。おそふ。かざる。なまむ。のごふ。

**飾車** ショクヤ 美しく飾りたる車。

**飾釘** ショクヤ かざりのためにつ

**飾帶** ショクヤ 飾りに用ゐる美し

**飾馬** ショクヤ 祭禮などの時に曳く

**飾讓** ショクヤ けりて謙退する。

**飾玉** ショクヤ 裝飾に用ふる玉類。

**飾緒** ショクヤ 水晶・碧玉又は瑪瑙等の稱

**服** ショクヤ 軍人の將校などが制服の上にかざる緒。

食部 六畫

**飾櫛** ショクヤ 古冠に着けたる一種の櫛。「る海老」。

**飾海老** ショクヤ 新年の飾に用ゐ

**飾夜具** ショクヤ 遊女が外見のため積み重ねて飾り立つる夜具、その數の多きを譽さず、俗につみやぐといふ。

**六畫**

**餌** ショクヤ ぶば。もち。ぶ。くひもの。ぶじき。

**餌食** ショクヤ くひもの。ぶじき又餌糧といふ。

**餌啗** ショクヤ ぶばをくらはすと。ヤウ。やしなふ。まもる。たのしむ。かふ。とる。よろし。うれふ。そだてる。ととのへる。そなふる。はぐむ。

**養** ショクヤ 他人の子を養ひてわが子とする。やしなひ(法)養子縁組によりて子たる身分

食部 六畫

取得する。

**養兄** ショクヤ 父又は母の養子にして自分より年上のもの。

**養女** ショクヤ 他人の女をわが子とする。もらひむすめ。養子となりたる女。「かた」。

**養方** ショクヤ 養家の方。養育のし

**養心** ショクヤ 心を養ふ。

**養成** ショクヤ そだてあげる。やしなひそだつる。

**養父** ショクヤ 養子の父とする人。

**養母** ショクヤ 養子の母とする人。

**養生** ショクヤ 病にかゝらぬやうに注意すること。攝生。専一。

**養老** ショクヤ 老人の身を保養すること。老人をいたはり養ふ。

**養弟** ショクヤ 父又は母の養子にして自分より年下のもの。他人をわが弟として養育すること。義弟

**養牧** ショクヤ 家畜を養ふ。

**養夜** ショクヤ 長き夜。「家」。

**養家** ショクヤ 養子又は養女となる

食部 六畫

**養育** ショクヤ やしなひそだてる。

**養孤** ショクヤ 孤兒を養ふ。

**養勇** ショクヤ 勇氣をやしなふ。

**養氣** ショクヤ 氣をやしなふ。

**養親** ショクヤ 養子縁組にて親たる身分を取得したるもの。

**養料** ショクヤ 營養に供するもの。他人の生活を支ふるために給與する財物。

**養蠶** ショクヤ 蠶を養ふ。こがひ。

**養祖父** ショクヤ 養親の父。

**養祖母** ショクヤ 養親の母。

**養子先** ショクヤ 養子となりたる先方の家。「なふ」。

**養本家** ショクヤ 一家を保ちやし

**養花雨** ショクヤ 春雨。はるさめ

**養花天** ショクヤ 花をそだつる春の時節。

**養育院** ショクヤ 自ら生活すること能はず頼る所なき孤兒・老人などを引きとりて養ふ所。

食部 六畫

**養育料** ショクヤ 養育のために費せし料金。

**養子縁組** ショクヤ (法) 實際上親子の關係なきものが法律上親子の關係を生ぜしむる法律行為。

**養老律令** ショクヤ 元正帝の養老二年大寶律令を修定せしもの。各十卷、但律十二篇、令は三十篇。

**養老保險** ショクヤ 安全に老後を養ふ爲めに一定の年齢に滿つるを待ちて保險金の受授をなす保險をいふ。

**養虎遺患** ショクヤ 己れを害するものを養ひて後患を留むること。

**銜** ショクヤ 地の名。シヤウ。サウ。おくる。ほしいひ。かれいひ。おくりもの。

**餉** ショクヤ 地の名。シヤウ。サウ。おくる。ほしいひ。かれいひ。おくりもの。

食部 七畫

餐

飴

餅

餅

餅

餅

餐

餘

餘

サン。ソンのむ。くらふくひもの。ゆふめし。もち。とる。ほむ。瘡に同じ。ナン。古文の賸字。かけとる。とる。タリ。トウ。財貨又は飲食を食ふこと。饜に同じ。ヘイ。ペイ。餅の俗字。もちいひ。もち(國訓)。

餅炙 ヘイヤ 蒲餅の異名。餅干 ヘイカン びすけつとのこと。餅干桃 ヘイカンモモ 味ひよき果の類。

七畫

餐 サン。ソンのむ。くらふくひもの。ゆふめし。もち。とる。ほむ。瘡に同じ。

餘 ヨ。の。こり。あまり。おほし。わけ。みな。

餘人 ヨシ ほかの人。當事者以外

食部 七畫

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘力 ヨリヨリ ありあまるちから。餘子 ヨシ おほくの子。衆子。餘分 ヨシ あまりのぶん。のこり餘日 ヨシ のこりのひかす。あまの日限。餘白 ヨク 文字を書き又は印刷したる餘りの紙の白き部分。餘生 ヨイ 残りのいのち。殘生。餘命。老後。

餘角 ヨカク (數) 二つの角の和が一直角に等しきとき其の一つの角の他の角に對する稱。

餘色 ヨシヨク (理) 甲の色に混するとき白さなるべき乙色の甲色に對しての稱。

餘師 ヨシ 十分に師となすべきも

餘民 ヨシ のこりの民。土地等を荒されて離散し其後にのこる民。

餘地 ヨシ 餘りの土地。餘るさ。餘年 ヨシ のこりのとし。老いさ

食部 七畫

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘光 ヨリヨク きえ残れる光。おかけ。餘利 ヨリ 餘りの利益。餘物 ヨシ 餘り物。のこりもの。餘事 ヨシ 肝要の事柄より外のこと。餘炎 ヨシ 残りのほとぼり。もえ餘り。猶消えじ。

餘金 ヨシ あまりの金。餘芳 ヨハク 残れる香り。餘波 ヨハナ ながり。とばしり。餘命 ヨイ 生き残れる命。老いさき短き命。幾もなし。

餘所 ヨシ 外の處。遠きところ。うとんすること。

餘香 ヨカク のこれるかほり。殘香。餘計 ヨイ あまりのこり。むだ。役にたゝぬ。心の心配。

餘殃 ヨリ 惡事のむくひとして來る災難。

餘音 ヨシ 残るこゑ。餘食 ヨシヨク 澤山に食ふこと。餘りのくひもの。

食部 七畫

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘威 ヨシ あり餘るあゝわう。餘勇 ヨシ 猶餘りある勇氣。餘流 ヨシ のこるながれ。枝ながれ。餘罪 ヨシ ほかのつみ。あまれる餘震 ヨシ (地) 大地震の後に小さき震動の續發するもの。餘程 ヨシ 度すこぶる進みて。だいぶ。「たる記録。」

餘記 ヨシ 仕事のひまに書きつけ

餘財 ヨシ あり餘るたから。外の財物。のこれる財物。「あまり。餘烟 ヨシ 残りのほとぼり。もえ餘怨 ヨシ 残りのうらみ。餘臭 ヨシ きえ残れるくさみ。餘屑 ヨシ あまりくず。餘病 ヨシ もとの病癒えて後新に發したる病。「うけ。餘益 ヨシ 餘りの利益。餘計のま餘得 ヨシ 餘計の利益。まうけ。のこれるまうけ。餘貨 ヨシ 餘りの品物。殘貨。

食部 七畫

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘閑 ヨシ 時務の間のひま。餘産 ヨシ のこりの財産。餘情 ヨシ 詩歌文章などの其文句の外に又少なからぬ意味のふくまれてあること。なごりの風情。餘裕 ヨシ のこりが有つてゆつくりせると。胸の中のゆつたりしてあること。「せ。餘習 ヨシ しきたり。のこれるく餘剩 ヨシ あまりのこり。餘寒 ヨシ 春に至りて残れるさむさ。大寒後のさむさ。猶去り難く候處。餘念 ヨシ ほかのおもひ。餘蘊 ヨシ あまれるたぐはへ。餘裔 ヨシ ばつそん。子孫。餘喘 ヨシ あへぎのこるいき。生きのこる餘。僅に一を保つ。餘資 ヨシ あまれる資本。用ひ残れるたから。

食部 七畫

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘

餘熱 ヨシ のこりのあつき。病の癒えざばになりて猶残れる熱。餘陰 ヨシ おかげ。餘數 ヨシ 餘りのかず。餘弊 ヨシ 右來の惡習。餘賊 ヨシ 討ちもたらされたる賊。餘勢 ヨシ 餘りあるいきほひ。餘業 ヨシ ぶんの仕業。のこり餘祿 ヨシ 餘分の取り前。餘榮 ヨシ 過ぎ餘る程の譽れ。後に残れる名譽。老後の。餘慶 ヨシ あり餘る喜び。善報より來る吉事。積善の家にはあり。餘德 ヨシ のこれる徳。宏大なる餘暇 ヨシ ひま。いとま。「の話。餘談 ヨシ 残りの話。肝要以外餘興 ヨシ ある定まりたる式なごの終りたる後に種種の遊技を演じて興を添ふる。芝居。餘熱 ヨシ のこりのあつき。病の癒えざばになりて猶残れる熱。餘陰 ヨシ おかげ。餘數 ヨシ 餘りのかず。餘弊 ヨシ 右來の惡習。

食部 七畫

餘憤 ヨシ 残りのいきどほり。①

餘贏 ヨシ 餘りの利益。あまり。

餘滴 ヨシ 餘りのしづく。

餘類 ヨシ 同類の内の残れるもの。残黨。

餘澤 ヨシ 餘りのうるほひ。先祖の恵みなどの後世にのこる。

餘難 ヨシ あとのなんぎ。重もなる難儀に随伴して生じたるなんぎ。

餘録 ヨシ 仕事のひまに書きつ

餘韻 ヨシ 残るひびき。詩歌文章

餘孽 ヨシ 残りのひこばへ。滅亡

餘黨 ヨシ 徒黨の敗れ散りて残

餘燼 ヨシ もえのこり。もえさし

食部 七畫

餘饒 ヨシ ゆたかなること。ありあ

餘響 ヨシ のこりのおと。さし

餘所見 ヨシ 傍を見ること。わきみ

餘所事 ヨシ 現前の事又は自分

餘所目 ヨシ 傍に見て居ること。や

餒餘 ヨシ 食物のくひのこり。

餓餘 ヨシ 食物のくひのこり。

餓張 ヨシ ひろめると。

餓餓 ヨシ うゑる。

餓餓 ヨシ うゑたる人。

餓餓 ヨシ 飢えて行倒れた人。餓

食部 八畫

餓鬼 ヨシ うゑたる亡者。無縁の

餓死 ヨシ 飢ゑはて、死ぬること。

餓鬼道 ヨシ (佛)六道又は六趣

餓鬼大將 ヨシ 兒供ながま

餓餓 ヨシ うゑる。あざる。

餓餓 ヨシ うゑる。あざる。

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

食部 八畫

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

食部 九一十畫

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

食部 十一畫

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

餓餓 ヨシ 食物乏しくしてう

食部 十二畫

饅頭 マシカ 米の粉に甘酒を加へ  
こねて餡を包み蒸して作る。

饅

リヤウ。ロウ。米のかて。  
軍におくる穀物。

饒

セウ。ネウ。おほし。ゆる  
す。ゆたか。あく。あまる

饒命

ゼンメイ 生命を助けるさいふ  
とを饒命を乞ふと云ふ。

饒富

ゼンフ ゆたかに富めること。

饒足

ゼンソク 物の十分になりると

饒衍

ゼンエン ありあまること。

饒裕

ゼンユ 物のゆたかなること。

饒多

ゼンタ たくさん。あまた。

饒鉢

ゼンハチ 佛家の樂器、銅にて  
作りたる皿の如きものを二枚  
合せて聲を發せしむ。「とこ」

饒舌

ゼンゼツ 多言。おしやべりの

饒舌家

ゼンゼツカ よくしゃべる人。  
キ。ケ。う。う。う。う。

饑

飢に同じ。

食部 十二畫

饑餓 カハラのへる。うふる  
こと。①に迫る。

饑饉 マシ 作物の不出來の爲に  
人民に食物の缺乏すること。②印  
度の大。

饑寒 カシ 飢ゑて寒きこと。

饑色 キシヨク 飢ゑたるかほつき。

饑犬 ケケン うゑたる犬。

饑歲 キシサイ 饑饉のある年。凶歲。

饑弊 ケイヘイ うゑつかること。

饑嘆 ケシタン うゑてたらざること。

饑餒 イ。エイ。エチ。イツ。む  
せふ。すえる。味かはる。  
サン。ゼン。

饑餓 キシヨク 飢ゑて供ふ。

饋賂 キキロク かくひものをやること。  
饋差 キキサ かくひもの、馳走。

食部 十三畫以上

饋豕 キンシ 豚のこをおくこと。

饋貽 キンシ ものを送ること。

饋運 キンシ ものを運送すること。

饋給 キンシ かくりあてがふこと。

饋食 キンシ かくひものをおくこと

十三畫以上

饗應 キヤウ 酒食を供へて人を  
待つこと。ひびきの聲につれて起  
るが如く其の人の爲す所に應  
じてきそひ起ること。②天下す  
の席。

饗立 キヤウ 食物を折敷などに  
盛りて客に出す時その食物の  
周圍に立つる紙の折形。

饗食 エン かく。いとふ。

饗食 エンシヨク いやになるまで食

首部

首

シウ。シユ。かしら。くび  
むかふ。はじめ。かうべ。  
たし。もこ。詩歌をか  
ぞふるにいふ語。

首本

シホシ おほもと。根本。

首部

饗

シヤウ 食をおくこと。

饗人

ヨウジン 料理人。

饗正

ヨウセイ 料理人のなま。

饗餼

ヨウキ よく煮たる肉。

饗餼

シヤウ 食をおくこと。

饗飽

フエ。たらふく食ふこと。

饗殘

エンゼン くひのこすこと。

饗貪

エンシ 食ひたがること。

饗饗

タウ。トウ。むさばる。財  
貨を食ふ。飲食を食ふ。

饗饗

タウ。トウ。むさばる。財  
貨を食ふ。飲食を食ふ。

饗饗

タウ。トウ。むさばる。財  
貨を食ふ。飲食を食ふ。

饗饗

タウ。トウ。むさばる。財  
貨を食ふ。飲食を食ふ。

饗饗

タウ。トウ。むさばる。財  
貨を食ふ。飲食を食ふ。

饗饗

タウ。トウ。むさばる。財  
貨を食ふ。飲食を食ふ。

饗饗

タウ。トウ。むさばる。財  
貨を食ふ。飲食を食ふ。

饗饗

タウ。トウ。むさばる。財  
貨を食ふ。飲食を食ふ。

饗饗

タウ。トウ。むさばる。財  
貨を食ふ。飲食を食ふ。

首部

首位 シウイ 第一の位。第一の位置

首尾 シウイ かしらとこ。はじめ

首府 シウフ 皇居のある府。②帝國

首肯 シウケン うなづくこと。同意す

首長 シウチャウ 重立ちたる人。かし

首卷 シウケン 書物の最初の巻。

首級 シウキウ 討ちこりたる首。

首服 シウフク 自首して罪に服する

首惡 シウアク 犯罪の張本人。ほつ

首腦 シウノウ おもなること。おもな

首謀 シウモウ 悪事などのくはだて

首部 シウブ はじめの部分。

首鼠 シウソ 進退又は去就を決し

首線 シウセン (數)直線が一點の周

圍に回轉するとき其の出發の

首部

位置を定むる一定の直線の稱。

首途 シウト カどで。①を視す。

首相 シウシヤウ 各大臣の首班に位

せるもの。總理大臣。「ること。

首領 シウリョウ うなづくこと。同意す

首夏 シウカ 夏のはじめ、即ち陰曆

四月の稱。「一の席。

首席 シウシヤウ はじめの席。上席。第

一の席。シヤウ カみの席次。かみに

つくべき資格ある人。「席。

首班 シウバン かしら。首席。一番上

首唱 シウチャウ 唱へはじむること。唱

へはじめたるもの。

首患 シウワン 第一のなんざ。

首將 シウシヤウ 主將。第一の大將。

首罪 シウサイ 首をきる罪。犯罪中

にて最も大いなる犯罪。共犯者

首領 シウリョウ 人のかしらたる人。

首頭 シウトウ かしら。はじめ。

首魁 シウクワイ さきがくること。かし

ら。張本人。群衆を統御するも

首部

の。賊徒の。

首選 シュゼン へりぬき。

首謀者 シュボウシヤ かしらだちて物を企てたるもの。悪事の首謀たる人。

首實見 シュジツケン 古戦ひにて得たる敵の首を大将自ら檢せしこと。

首座教員 シュゼウケウイン 數多の教員中にて最も上位に立つもの。稱。教頭。

首鼠兩端 シュブツリウタン どちらにもつかざる。うちまたがうやうやしく。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

首鼠 首鼠を切る。とる。戦争の場合に敵の首の代りに耳を切りて持ち歸る。

香部

香部

キヤウ。カウ。かうばし。にほひ。かほる。にほひのよきもの。

香水 カウスイ 香たかき花などより取りたる匂ひよき水。化粧又は邪氣又は臭氣を消すに用ふ。眞宗にて信者の剃髮の眞似をなす時その頭の上に注ぐ水。

香木 カウキ にはひの木の總稱。

香宇 カウウ (植) なんきんまめ。

香合 カウカウ 種々の香を焚きてその香の何なるかを嗅ぎあつる技。

香道 カウダウ 香をたくばへ置く器。

香具 カウキ 香を焚く器具。

香味 カウミ にはひ。かなり。

香車 カウシャ 將基の駒の一、前へのみ眞すぐに進むとを得るもの。

香部

の。香油。

香油 カウユ 化粧に用ゆる匂ひよき油。

香匣 カウコウ 香を入れるもの。

香壺 カウロ 香具をしまひおくつる盆。

香盆 カウボン 香爐香合などをのせる盆。

香客 カウカク 寺などへの參詣人。

香烟 カウエン 香のけぶり。

香粉 カウフン 香と白粉を交ぜたるもの。

香氣 カウキ にはひ。かなり。

香魚 カウイコ (動) あゆ。

香匙 カウシ 香を盛るに用ゆるさじ。かうすくひ。

香盒 カウコウ 焚しもの、香を入れる器。

香雲 カウウン かほる雲。梅花のさき續けるさまの形容語。

香染 カウシヤン 黄に黒みある色。

香具 カウキ 白檀・沈香・丁香・麝香などの如く匂ひもの、或はたきものなどの材料。

香煎 カウケン 米のこがしに陳皮。

香部

茴香などの香料を交へ合はせたる粉。湯に點じて飲む。

香雪 カウセツ かほる雪。梅花のさきみだれたる形容語。

香料 カウリョウ 死者の靈前に供する金員。かほりのよきもの。食慾を促すために用ゆる薬味。

香箱 カウコウ 香を入れる箱。

香匱 カウケン 香を入れて神佛に供ふる爲に用ゆる器。

香圓 カウエン (植) まるめる。

香奠 カウテン 死者の靈前に供ふる金品。喪を弔ふための贈物。線香料。

香園 カウエン かほりに圍まれたる香華。カウゲ 佛又は死者に奉る香と花と。

香餌 カウジ にはひよきる。人にくらはす好利益。

香稜 カウリョウ (植) はますげ。

香敷 カウシキ きらゝの薄片などにて作り炭火の上に置きて香を

香部

たく時用ゆるもの。「ばき。

香椿 カウチン 椿の類の木、たまつ香臺 カウダイ 香爐をのする臺。香盤 カウバン 香をたく器。「机。

香猫 カウネウ (動) じやかう猫。

香錢 カウゼン 神佛に捧ぐるさいせ。

香橘 カウキツ (植) くれんぼ。「ん。

香疊 カウダイ 香包。香簪其の他香道に必要の具を包む紙。

香草 シタカ (植) 菌類の一種、椎。樫などの樹幹に生じ香氣高く食用に供す。「をたく處。

香壇 カウダン 神佛の前にありて香香願 カウガン 神佛への願ひこと。

香櫛 カウシ 芸香料に屬し全葉香氣あり柚子に似たる果實を結ぶ。

香爐 カウロ 香を焚く器。漆器。銅器。陶器など種々あり。

香霽 カウサイ かほるかすみ。春の形容。山野にたなびく。

香囊 カウナウ 守り袋。匂ひ袋。

香部

香具師 カウキシ 香具を賣り又は香具をつくる人。やし。

香具屋 カウキヤ 香具をうり又はつくる人。

香香 カウカウ かうのもの。つけも香附子 カウブシ (植) 田野に自生する一種の草、葉は葦に似て堅く光澤あり夏黄花を開き實を結ぶ。薬用に供せらる。

香奩體 カウエンタイ 詩の一種、極めて美はしき言葉にて男女の間柄を詠じたるもの。

香華院 カウゲエン 菩提所。だんな寺香園粉陣 カウエンチン 美人のあまた居る中をいふ。

馥郁 ヒヨク。フク。かほり。かうばし。

馥郁 フク 香のかぐはしきさまにいふ語。

馨 ケイ。キヤウ。かうばし。かほる。語を助くるに用ゐる字。

馬部

# 馬部

## 馬

バ。メ。ウ。マ。たけし。いかる。あと。かす。

馬丁 バライ べつたう。ぎよしやの下に働くもの。まこ。うまかた。車夫の徒。

馬力 バキ 壹頭の馬の有する力。(理)工率の單位、一分間に三万三千はんごの重量を擧ぐべき

馬夫 バウ うまかた。まこ。「力。馬仔 馬の子。

馬奴 バド うまかひ。うまかた。馬車 バシヤ 馬背の上。馬に乗る。乗馬にて戦場に往來すると

馬代 バダイ 昔馬を贈る代りとして贈りし金。借馬の貸錢。

馬皮 バシ うまのかは。馬棧 バシ 版木を摺る用具。平たきものを心とし之を竹のかはにてつゝみたるもの。

馬糧 バライヤウ 馬のかひば。まぐさ。馬氈 バシ 鞍の上に敷ふもの。くらしき。

馬蘭 バラン (植) 百合科に屬する草、地下莖を有し葉柄を高く地上に挺出して末端に葉を展開す、葉は大形にして卵狀披針形を爲す。

馬蘭 (植) 鳶尾科に屬する草、蘭に似て長さ一二尺の葉を有し春夏の交花開く。

馬糧 バライヤウ たづな。馬見所 バケンシヨ 調馬又は競馬を見るために馬場の側に建てたる高き家。

馬具師 バクシ 馬具を造る人。馬桐油 バトウユ 旅人の荷物と共に馬上にて身を被ふに用ゐる大なる桐油合羽。

馬蹄銀 バタイギン 馬蹄形にしたる支那の銀貨幣。

馬蹄石 バタイシキ (礦) 蒼黒色にし

馬部

馬部

馬匹 バヒツ うま。改良。馬甲 バカウ くらげのこ。

馬肉 バニク 馬のにく。馬兵 バヘイ うまにのる兵士。騎兵

馬克 バク 獨逸の貨幣を數ふるに用ゆ、一マルクは凡そ我國の二十五錢にあたる。

馬尾 バビ うまの尾。うまのす。馬鹿 バガ 梵語にて痴漢・無賴漢の義。おろか。あほう。たはげ。

馬革 バカク うまのなめしがは。馬面 バシメン うまのかは。馬の顔にかぶらす面。

馬具 バク 乘馬に裝ふ一切の具、即ち鞍・籠・手綱等の總稱。

馬車 バシヤ 馬に牽かす車。馬兒 バシ おかは。おまる。

馬乳 バニヨウ 葡萄の實の異名。馬把 バグ うまぐは、水田をからすきたる後その泥をならす農具。

馬毳 バキ めうま。馬糞。馬勃 バハク まぐそ。馬糞。

て表面に馬蹄の如き形ある石、庭の置石又は硯などに用ゆ。馬蹄硯 バタイケン 墨をすり水をたふふる所を馬蹄の形にほりたる硯。

馬尾蜂 バビハチ (動) 膜翅類に屬する小さき昆蟲、全身赤褐色にして翅は銜色を爲し濃き斑紋あり尾に馬毛の如き産卵管を有す。

馬頭瘡 バトウサウ 病の名、るゐれき馬醉木 バスイキ (植) あせび、春季小白花を開く。

馬政局 バシキョク 内閣總理大臣の管理に屬し馬匹の改良繁殖其の他馬政に關する一切の事務を掌る所。

馬鈴薯 バレイシヨ (植) じやがたら馬糞紙 バシシ 塵などのある下等なる唐紙、黄色の黒びみたる厚紙。葉を原料としたる一種の紙質粗糙にして厚く、書籍の表

馬部

馬部

馬蚊 バシ むかで。馬脚 バキヤク 馬の足。ばけのかは。馬脚 バキヤク を顯はす。

馬梳 バシ 馬の毛はらひ。馬術 バシユツ 馬を乗りまはす術。

馬頭 バトウ 馬のあたま。はとば。馬寮 バシヤウ うまのつかさ。

馬銜 バシケン くつわの馬の口にあたる部分。悍馬の口にはませて縛りおくもの。

馬頬 バシ (動) くらげ。海月。馬標 バシヒヤウ 軍中にて將帥の傍に建て置きその所在の記標とするもの。うまじるし。

馬醫 バシイ 馬の醫師。馬の獸醫。馬政 バシセイ 馬匹に關する政務。

馬場 バシバ 乘馬の練習をなす所。馬糞 バシ うまぐそ。

馬簾 バシ 纏に垂れ下ぐるものにして紙又は革を細長く裁ちて作る。

馬蹄 バシ 馬のひづめ。硯の異名

紙又は紙箱などに供せらる。馬齒莧 バシキョウ (植) 平臥して生じ倒卵形肉質の小葉を有し黄色小形の花を開く。

馬舞災 バシマヰ 火災。火事。馬鹿貝 バカガイ (動) 瓣鰓類中同柱類に屬する貝、形蛤に似て介殼薄く淡黄色なり。

馬鹿笑 バカウシ 笑ふさまの馬鹿らしく見ゆること。「す所。馬場本 バシバホン 馬場の馬を乗り出す所。馬場末 バシバマツ 馬場の馬を乗り出す所。

馬腕風 バシワキ トラヂフテリヤの一名。馬鞭草 バシヒヤウ (植) 原野に自生し高二三尺、葉は對生し細かき鋸齒あり往々分裂す夏小形の紫色花を開く。

馬面鏡 バシメンキョウ 昔軍馬の顔にかぶらせし鏡。「ひしくつ。馬上脊 バシヤウサ 昔馬に乗るに用馬車馬 バシヤウマ 馬車をひき行く

馬部



馬。脇目もふらずに突進するもの。

馬鹿囃子 バカバシ 東京にて祭禮の時に一種のはやし、太鼓・鉦などにてはやすもの。

馬耳東風 バシトウウ いひ聴かせても心に感ぜぬ事に譬へていふ語。

馬蹄磁石 バシジヤク 馬蹄の形を馬頭觀世音 バトウクワン (佛)七觀音の一、三面八臂あるもの。

馮河 トウガ 徒歩にて河を渡ると無謀にして勇あると。

馮虛 トウキョ 空にさまよふと。世を離れて遊ぶと。

二三畫

馮

ヒヨウ。ハウ。フン。ポンのる。みる。しのぐ。はする。のぼる。かちわたりす。いきどほる。はやみち。たのむ。

馭 ギョ ゴ。のる。馬を使ふをさむる。はする。

馭民 ギョミン 人民を治むる。

馭者 ギョシャ 馬をおひつかふ人。又御者に作る。

馭邊 ギョヘン 邊境の地を治むる。

馳 チ 心なくばる。おふ。きそふ。

馳心 チシン 心なくばる。

馳湍 チタン 水のはやく瀾。

馳歸 チキ ばせかへる。

馳驅 チキ かけまはると。奔走盡力する。

馳騁 チウ かけると。かけまはると。はげしくかけると。かけて向ふに突きあたると。

馳走 チウ ばしる。もてなし。ふるまひ。

馳廻 チウイ 走せめぐると。かけ

馳驅 チウ ばやびきやく。

馳道 チウダウ 大道。主に天子の通行せらるる道をいふ。

馳逐 チタク おひかくると。おひま

馴 ジュン シュン。シュン。したがふ。よし。なる。むらがる。みだる。をしふる。なづく。古の訓の字。

馴行 ジュンカウ 善き行ひ。

馴致 ジュンチ なたてなつかしむると。飼ひ馴すと。次第に現前の事情に到達せしむると。「昵。

馴染 ジュンゼン なじみ。なづく。親

馴養 ジュンヤウ やしなひならすと。

馴育 ジュンイク ならしそだてると。

馴伏 ジュンフツ なつき従ふ。

馴服 ジュンフク なれしたがふ。ならしたるがはしむると。

馴鹿 ジュンロク (動) 偶蹄類中麋鹿科に屬し、牝牡共に長大なる角を有す。亞細亞・歐羅巴の北地に産す。とよかい。

四畫

駮

ケツ。クワイ。ケチ。よきうま。こころよし。

駮駮 クツクツ はやうま。

駮駮 クツクツ はやうま。ハク。ホク。まだら。まじる。みだる。ぶちうま。にれのき。

駮擊 クツキ 他人の言説を非難する。非をうつと。

駮說 クツセツ 人の議論を破壊する。爲にたつる説。

駮雜 クツザツ いろいろありてあると。さつばく。

駮馬 クツバ 毛色の斑なる馬。ぶち

駮骨 クツボネ むねつき。

駮論 クツロン 駮撃して議論すること。駮に同じ。

駮 クツ うさぎうま。サフ。ツフ。すすむ。ゆく。はする。はやし。おひかく。

馱

タ。おふ。荷を馬にのせて送ると。普通一匹の馬に負はしむる重量。おふする。或語に冠して劣る。又は悪の意を表する語。

馱送 ダウ 馱馬につけて荷物を運送する。

馱鞍 ダアン 牛又は馬の背にのする鞍。

馱辯 ダベン 無用の辯舌。

馱物 ダモノ よからぬしなもの。

馱作 ダサク つまらぬ製作。

馱馬 ダバ 荷を牽かする馬。乘馬にならぬ下等の馬。

馱市 ダシ 牛馬を賣買する市。

馱賃 ダチン 馱馬にて荷を送りたる賃金。仕事の賃金。「て。

馱向 ダウ 旅中の糧食。たびのか

馱法螺 ダホウ つたなき洒落。

馱洒落 ダサラク つたなき洒落。

馱菓子 ダカシ 粗末なる菓子。粗製の價やすき菓子。

五畫

駝

タ。ダ。らくだ。くぐせ。せむしのうま。のす。

駝鳥 ダウ (動) 熱帯地方の沙漠などに棲める鳥、力強く馳する。と速かなり、鳥類中最も大にして長七八尺に及ぶ。

駝馬 ダバ (動) 亞米利加洲に産する形や麒麟に似たり。

駝背 ダセ せむし。くぐせ。タイ。はづる。はなる。にぶし。にぶきうま。つか

駝 ダ る。ける。のる。ひろし

駝 ダ 踏に同じ。

駝 ダ 駝に同じ。

駝 ダ シ。すみやか。とし。はやし。

駝 ダ シ。すみやか。とし。はやし。

駝 ダ シ。すみやか。とし。はやし。

駝 ダ シ。すみやか。とし。はやし。

駝 ダ シ。すみやか。とし。はやし。

駛快 シライすみやかなる。快  
はしる。速。フ。ホ。そのちかづく。すみやか。とし。そへうま。

駙 駙馬 フ。む。婚。貴人のむこ。ク。コ。キウ。かける。かる。驢に同じ。

駈引 カチキ 戦の時機を見計らひて兵を進退する。商賣又は談判などに機を見てとり計らふ。

駈落 カチキ 居所を逃げ隠るる。駈足 カチキ 走ると。馬を早く走らす。

駕 駕橋 カクワのりもの。かこの類。駕馭 カキヒキまはすと。御しつかふ。又駕御に作る。

駕籠 カキ 人を乗せて前後よりかき行くのりもの。駕丁 カキかこかき。

駕輿 カキのりもの。駕輿丁 カキヤウ 御輿を昇ぐ人。輿駕籠訴 カキ 徳川時代に大名なこの通行する時親しくその乗物に接して直訴せしむ。

駟 駟馬 シ。シツ。シチ。よつ。うま。星の名。一乗の車に四頭をつけたる馬。

駒 駒馬 シ。四頭立ての馬。駒にふたさせうま。駒聲 カキ 馬のいななく聲。駒隙 カキ 白駒の隙を過ぐといふ。この略にて光陰の疾きをいふ。

驚 驚下 ドカ 自分をとを謙遜していふ語。不肖に同じ。

驚質 ドシラ 他より劣れるたち。劣りてにぶき生れつき。又驚性と驚劣 ドレツ おされる。驚材 ドイ 才能にぶき。おろか自分を謙遜していふ語。自ら揣らす。

驚馬 ドイ 歩みの遅き馬。驚鈍 ドシ ぶき。おとれる。驚駿 ドシラ 悪しき事と善き事との勝れたるものと劣れるものと。足なみのにぶき馬と速き馬と。

駐 駐兵 チユウヘイ 兵をとむる。駐屯 したる兵。駐蹕 チユウロ 人ばらひのかけ聲。おさへのこゑ。御駕の止まること。

騁 騁馳 テイチ かけまはる。シユン すぐれうま。すみやか。きびし。おほひ。ながし。

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

駱 駱馬 ラカ。ロ。かはらけのうま。駱又は駕に同じ。

駱駝 ラカダ (動) 偶蹄類中反芻類

駐 駐輦 チユウレン 天子の行幸先に御駐在せらるる。駐屯 チユウテン 軍隊が其處に陣營を構へて屯在する。駐劄 チユウワツ 又駐紮に作る。とごまりて居ると。外交官などが派遣せられて其の任地にあること。公使。天子のおのりものが駐在官 受持の地方に駐在して徴兵事務を取扱ふ陸軍の士官。

駐在所 チユウイシヨ 巡查が受持區域に駐在して事務を取扱ふ所。

駐屯軍 チユウテンケン 其の地に駐屯してある軍隊。

駭 駭馬 カイ 物音などに驚ける馬。駭鼓 カキ 太鼓をうち鳴らす。駭亂 カキ 驚き亂る。駭然 カキ 驚けるさまにいふ語。馬に鞭つ。

駭擾 カキ 驚きみだれる。駭異 カキ 驚き怪しむ。駭恟 カキ おどろきまじふ。駭視 カキ おどろき視る。キウ。ク。まだら。しゆんめ。ぶち。へん。へい。つらなる。ならぶ。ならぶ。駢に同じ。

駢 駢馬 シ。シツ。シチ。よつ。うま。星の名。一乗の車に四頭をつけたる馬。

駢 駢馬 シ。四頭立ての馬。駢にふたさせうま。駢聲 カキ 馬のいななく聲。駢隙 カキ 白駒の隙を過ぐといふ。この略にて光陰の疾きをいふ。

駢 駢下 ドカ 自分をとを謙遜していふ語。不肖に同じ。

駢 駢質 ドシラ 他より劣れるたち。劣りてにぶき生れつき。又驚性と驚劣 ドレツ おされる。駢材 ドイ 才能にぶき。おろか自分を謙遜していふ語。自ら揣らす。

駢 駢馬 ドイ 歩みの遅き馬。駢鈍 ドシ ぶき。おとれる。駢駿 ドシラ 悪しき事と善き事との勝れたるものと劣れるものと。足なみのにぶき馬と速き馬と。

駢 駢馬 シ。四頭立ての馬。駢にふたさせうま。駢聲 カキ 馬のいななく聲。駢隙 カキ 白駒の隙を過ぐといふ。この略にて光陰の疾きをいふ。

駢 駢下 ドカ 自分をとを謙遜していふ語。不肖に同じ。

駢 駢質 ドシラ 他より劣れるたち。劣りてにぶき生れつき。又驚性と驚劣 ドレツ おされる。駢材 ドイ 才能にぶき。おろか自分を謙遜していふ語。自ら揣らす。

駢 駢馬 ドイ 歩みの遅き馬。駢鈍 ドシ ぶき。おとれる。駢駿 ドシラ 悪しき事と善き事との勝れたるものと劣れるものと。足なみのにぶき馬と速き馬と。

七

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

騷 騷馬 シユン すぐれてよき馬。足なみはやき馬。騷才 シユン 俊才に同じ。才の勝れたる人。騷浪 シユン さんかにわきたつ。騷麗 シユン すぐれて大なる。騷惠 シユン 大なるめぐみ。騷脚 シユン 大なるたけし。おごりあがる。人を突く馬。

**駮** シン。とし。すみやか。はしる。あつむる。すすむ。にふ語。①乎として。カイ。ゲ。シ。ゆく。すすむ。おろか。やまひ。つかる。

八 畫

**駮** ヒ。そへうま。すすむ。すみやか。はやし。

**駮** 駮。馬の走り行くさまにふ語。

**駮** ケン。しるし。こころみる。俗の驗字。

**駮** くるみどりのうま。

**駮** 騏驎。支那古代の想像上の獸。鹿に似て大きく尾は牛に似て蹄は馬に似たり。頭上に肉に包まれたる一本の角を有し背毛は五彩にして腹毛は黄色

なり生草を履ます生物を食まず聖人出で王道行はるれば出づさいふ。(動) 偶蹄類中に屬し亞弗利加内地に産す。形鹿に似頭は前脚と共に甚長く頭は地上より一丈五尺以上の高さに達し木の嫩芽を食す。最も傑出したる人の稱。

**駮** 騏驎。すぐれたる馬の稱。

**駮** 騏驎。アケニ(植) 唐木にして葉はゆすらに似て三角なり根は薬川とす。

**駮** 騏驎。技藝又は才能の最も拔群なる少年の稱。

**駮** 騏驎。草(植) 景天科に屬し、長楕圓形の葉を有し夏白花を開く。

**駮** キ。馬に乗る。またがる。のる。のする。騎兵。

**駮** キ。馬に乗る。またがる。のる。のする。騎兵。

**駮** キ。馬に乗る。またがる。のる。のする。騎兵。

**駮** キ。馬に乗る。またがる。のる。のする。騎兵。

**駮** 騎射。犬追・笠懸・流鏑など馬上にて弓を射る式の總稱。

**駮** 騎將。馬に乗りたる大將。

**駮** 騎竹。竹馬にのる。

**駮** 騎竹交。竹馬の友。

**駮** 騎月雨。つきこしの雨。

**駮** 騎虎勢。馬に乗りて中途にて下る能はざるが如く物事のゆきが、り上止むに止ま

**駮** ス井。「れざる」と。あしげうま。

**駮** ヘン。ヘイ。ビヤウ。つらなる。ならぶ。ならべる。

**駮** 駮進。ならび進む。

**駮** 駮死。枕をならべて死する。

**駮** 駮母。大指の並び生じて指の六本あるもの。

**駮** 駮齒。前齒の一枚になりて生ずるもの。

**駮** ソウ。ス。駮に同じ。

九一十畫

**騫** プ。ム。はしる。はする。はやし。とし。すみやか。つこむ。

**騫** サウ。ソウ。セウ。さわぐ。うれふ。なづる。みだる。はらふ。さわがし。

**騫** 騫人。花。月などをめではやして詩歌・文章などを作る文人墨客。「ふ語。

**騫** 騫然。さわがしきさまに騫動。さわぎ。あらそひ。た

**騫** たかひ。都下の。

**騫** 騫擾。さわぎ。みだれる。海内。「みだる」と。

**騫** 騫亂。事變。おこりてさわぎ。騫騫。風の強く吹くさまに

**騫** 騫屑。風。物を鳴らす音。騫客。風流の人。みやび心の

**騫** ある人。文士。

**騫** 騫騫。かなしみあること。

**騫** スウ。シウ。ソウ。都に同じ。うまかひ。はしる。

**騫** 騫卒。いやしきもの。

**騫** 騫從。車駕に隨行するもの。

**騫** トウ。ドウ。あがる。のぼる。おどる。はしる。ぶちうま。つたふ。去勢したる馬。

**騫** 騰馬。はれあがる馬。極めてよく走る馬。又騰駒といふ。

**騫** 騰躍。はれあがる。とびあがる。

**騫** 騰驤。馬のはれあがる。騰貴。物の高くなる。騰貴。物の高くなる。騰貴。物の高くなる。

**騫** 騰奔。早く駛ること。

**騫** リウ。ル。くるくりげうま。

**騫** 騫馬。たて髪黒く體の赤き馬。

**騫** シツ。チヨク。シチ。チキをうま。のぼる。さだまる。なる。のる。

**騫** ケン。コン。うまのほらのやまひ。かく。さふ。おそる。あやまち。さわがし。はたたき。とる。

**騫** 騫馬。よく走る能はざる馬。病みたるうま。

**騫** 騫崩。かけくづること。

**騫** 騫違。かけちがふこと。

**騫** 騫損。かけそんじ。

**騫** 騫驚。しかと歩まずさびはれるさまにふ語。

**騫** ゴウ。ゲ。みだれはしる。

**騫** ヘン。駮に同じ。

**騫** とびのる。たばかり。

**騫** 騙局。かたり。だまし。

**騫** 騙取。かたり。さると。すかしうばふ。

**騫** 騙馬。うまにのると。

馬部 十一畫

騙欺 ヘシキ かなり。だまし。  
騙詐 ヘシヤ だまし。かたる。

十 驅

驅馳 チ かけ走ると。  
驅逐 チク おひはらふと。はしりくらはを爲すと。おひしりぞく。  
驅魔 クマ あくまを追ひ拂ふと。  
驅除 クツ おひのけると。かりのそく。害蟲。  
驅役 クツキ おひつかふと。  
驅使 クツキ おひつかふと。  
驅逐艦 クツクワン 軍艦の一、水雷艇に似て大きく速力水雷艇より速く艦内に備へ付けたる速射砲を以て水雷艇を驅除又は破壊し時としては敵艦の襲撃に使用せらるゝもの。

馬部 十一畫

驅逐艦隊 クツクワンタイ 二隻以上の水雷驅逐艦の編制の名。

十一 聽

聽馬 ソウマ 毛色の青と白と交れる馬。  
聽 ソウ あしげうま。聽に同じ。

十二 驃

驃 ソウ 馬の足早く走る様にサソ。ソソ。そへうま。

十三 驂

驂 ソウ 用意のために車にそへてひかしむる馬。そへうま。

十四 騾

騾 ソウ 車に乗るに其主たる人は左側に乗り平均を保たしむる爲め右側に陪乗する者。

十五 騾

騾 ソウ ガウ。ゴウ。すぐれうま。すすむ。はしる。おこる。バク。ミヤク。バ。メ。のぼる。またがる。こえる。

馬部 十二畫

騾地 ソウチ まつしぐらに。たちまち。急に。  
騾然 ソウゼン たちまち。急に。俄か。

十六 騾

騾馬 ソウバ (動) うさぎまの牡。普通の馬の牝と交りて生めるもの。體格強健粗食に堪え効用馬に劣らず。

十七 驕

驕子 キョウシ わがままそだちの子。  
驕心 キョウシン たかぶる心。「いふ。  
驕放 キョウホウ わがまま。又驕肆と  
驕兵 キョウヘイ 勝ちほこれる兵。  
驕侈 キョウシ おこりたかぶると。ほしいま。わがまま。

馬部 十二畫

驕名 キョウメイ 武勇のきこえ。  
驕勇 キョウユウ 力強く勇ましきと。

十八 驕

驕 キョウ か。たけし。

十九 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十一 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十二 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十三 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十四 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十五 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十六 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十七 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十八 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

二十九 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

三十 驕

驕 キョウ タ。タン。テン。すぐれたるうま。れんぜんあしげ。ゲウ。いさむ。すぐれうま。はやし。さし。すこやか。たけし。

馬部 十三畫以上

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

馬部 十三畫以上

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

驛 エキ エキ。ヤク。うまやど。みちつぎうま。ひとやどり。つらなる。ことづける。さかんなり。ふなつぎ。つぐ。つたふ。しゆくば。停車場。

馬部 十三畫以上

**驚動** キヤウドウ あわてふためくこと。  
**驚怖** キヤウフ 驚きおそるること。びつくりしておちけちやむこと。  
**驚惶** キヤウワウ おどろきあはてること。①一度を失す。「あること」。  
**驚慌** キヤウワウ おどろきうるたへ  
**驚喜** キヤウキ 事の意想外なるに喜びておどろき喜ぶこと。  
**驚風** キヤウフ 痲性の烈しき病。小兒の腦膜炎。  
**驚愕** キヤウガク にはかのこと。逢ひて心みだること。①措く所を知らず。「こと」。  
**驚嚇** キヤウワク つよくおどろかす  
**驚瀾** キヤウラン 能書をいふ。  
**驚瀾** キヤウラン たちさわぐ波。勢はげしき浪。  
**驚悸** キヤウキ ぞつぞつしておどろく  
**驚噪** キヤウサウ おどろきさわぐこと。  
**驚潰** キヤウクワイ おどろきてにげること。「去ること」。  
**驚逸** キヤウイツ 驚きて場所を離れること。

馬部 十三畫以上

**驚怖病** キヤウフビョウ 驚きより生ずる小兒の病。  
**驚天動地** キヤウテンドウチ 大に世人を驚かすこと。いふ語。  
**盲駭** マウサイ 駭に同じ。  
**駭** サイ うさぎうま。らば。ケン。しるし。あらはす。か人がふ。こころむる。檢に通用す。  
**駭左** サイサ ケン。しるし。證據。  
**駭治** サイヂ ケン。しるし。ぶると。  
**駭算** サイサン 算術にて運算したる結果の正否をためすこと。  
**駭氣** サイキ 治療などのききめあること。  
**駭者** サイシャ ケン。加持・祈禱などする人。修驗者。  
**駭温器** サイオンキ 寒暖計に同じ。  
**驟** ソウ シウ。ソウ。はする。すみやか。しばしば。にはか。驟雨。シウ。にはか雨。①沛然として至る。

馬部 十三畫以上

**驢** リョ ロ。うさぎうま。うしわすみ。おるか。駢に同じ。  
**驢馬** リョバ ロ。うさぎうま。キ。しゆんめ。  
**驢足** リョソク キク。すぐれた馬の足。能く伎倆を振ふを驢足を展ぶるといふ。  
**驢尾** リョビ キビ。すぐれた馬のしり。後進の士が先輩にまはりて榮達の道を得るを驢尾に附すといふ。シヤウ。ナウ。くる。こえ。あぐる。のる。足白き馬。  
**驢** リョ クワン。うまのな。やはらぎたのしむ。  
**驢附** リョブツ キン。ふ。よる。こびて服従すること。「ふ語」。  
**驢然** リョゼン クラシキ。相共に喜ぶ様。いに驢迎。クワン。イ。よる。こび迎ふること。①外資をいす。

骨部

**驪** リ。レイ。ライ。チ。ならぶ。くろうま。  
**驪馬** リバ。くろうま。  
**驪駕** リガ。二つ揃つた乗物。  
**驪龍** リリョウ 毛色のくろき馬。

**骨部**  
 コツ。コチ。ほれ。動物の體中にある堅き部分の稱。ひこり。なめらか。ぐあひ。てうし。

**骨子** コツシ 肝要なる所。要點。ほれ。①議論の。

**骨末** コツマツ ほれのこ。

**骨肉** コツニク 骨と肉と。血すぢの間柄。しんみ。親子兄弟など。①の情愛。「やうす。人。中」。

**骨柄** コツガラ ほれぐみ。からだの

**骨炭** コツタン 骨の如き動物性の物質を炭化せしめたるもの。

**骨法** コツホウ ほれぐみ。禮儀作法

骨部

のすぢ。しかた。こきふ。藝術上の主眼なる點。「こと」。

**骨直** コツチヨク 語はずまつすぐなる相。ほれぐみに顯はれたる相。又其相を見るとき。

**骨格** コツカク 高等動物の體格を組織する種々の骨片。ほれぐみ。人から。人品。又骨格に作る。

**骨粉** コツポン ほれのこ。

**骨桶** コツタク 死人の骨を納める桶

**骨頂** コツテイ てつべん。づねけ。①馬鹿の。

**骨牌** コツパイ かるた。

**骨張** コツチャウ 骨逞しく強げなること。強健なること。最上。第一。

**骨董** コツドウ 古道具。風雅なる製作の道具類。こたくしたる古道具。

**骨膜** コツマツ 骨を包めるうすき膜

**骨盤** コツパン (生)無名骨。薦骨相抱合して環状をなせるものにして下肢を支ふ。

骨部 二一四畫

**骨節** コツセツ ほれぶし。ほれつがひ。骨格の關節。

**骨鯁** コツカウ 正直剛毅なること。へつらひげのなきこと。鯁骨。

**骨髓** コツネツ ほれみ。骨肉の腔所に充滿する脂肪様の柔軟なる物質。心のそま。要點。主眼。①恨みに徹す。

**骨堂** コツドウ 火葬して残りたる骨を葬る堂。

**骨相學** コツサウガク 人の頭蓋骨を相して其の性質又運命を卜する學。①古道具屋。

**骨董店** コツドウテン 骨董品を賣ふ店

**骨** コツ。コチ。イキ。かたばね。にばね。コ。トウ。ツ。股に同じ。とう。もも。すころくのさい。

**骰子** トウシ 賭博に用ゆるさい。

骨部 五十九畫

骰戯 トモ ばくち。賭博。

五十九畫

骸

テイ。タイ。セ。しり。

骼

カク。ほれ。されほれ。

骸

カイ。ガイ。かばれ。ばぎほれ。ほれのつがひ。

骸骨

ガイロ 屍體の肉おちて骨組ばかりになりたるもの。官職を免ぜられんことを請ふを骸骨を請ふさいふ。

骸軀

ガイク からだ。

骸炭

ガイタン コークス。石炭をむしやきにしたるもの。

骸所

ガイジョ 死骸を埋めし場所。ヒ。ヘイ。もも。

髀

ヒ。ヘイ。もも。ものほれ。

髀子

ヒコ ふともも。

髀肉

ヒク ふとももの肉。

髀肉歎

ヒクタン 久しく馬に乗り

骨部 十一畫以上

て戰場に赴かざるよりも、肉のふとりたるをなげく。轉じて功名を樹て若くは伎倆を示さん程のあれかしと待つのみにて空しく時日を経過するをなげく。

十一畫以上

體

ロウル。ごくる。されかうべ。あたたまのほれ。トク。ドク。かしらほれ。ひとのかしら。

體

トク。ドク。かしらほれ。ひとのかしら。

體

トク。ドク。かしらほれ。ひとのかしら。

體

トク。ドク。かしらほれ。ひとのかしら。

體

トク。ドク。かしらほれ。ひとのかしら。

體

トク。ドク。かしらほれ。ひとのかしら。

骨部 十一畫以上

なふ。作用の本源。「生。

體力

タイリキ からだの力。①養

體式

タイシキ ていさい。かた。方式

體仁

タイジン 仁を深く心に止め思

體用

タイヨウ 本體と運用と。もと

體行

タイギョウ 身の行ひ。

體刑

タイケイ 身體に加ふる所の刑

體形

タイケイ からだつき。なりか

體言

タイゲン (文法) 名詞其他凡て

體系

タイケイ 個々別々のものを統

體育

タイイク 身體の生長發達を幫

體格

タイカク 身體のくみたて。か

體性

タイセイ タイキョウ 木質。實體。

骨部 十一畫以上

體溫

タイオン からだの溫度。

體旨

タイシ おふせをよくのみこ

體法

タイホフ 法律に従ふこと。おき

體狀

タイジョウ やうす。からだの工

體要

タイヨウ かなめの所。肝要な

體相

タイサウ すがた。かたち。

體面

タイメン 他より見られたる所

體當

タイタウ 擊劍にて機に乗じ

體腔

タイカウ 動物體の體内の空所

體制

タイセイ 各其の官能を營みて統一

體罰

タイバツ 身體に苦痛を與ふる

體裁

タイサイ やうす。ありさま。み

骨部 十一畫以上

體量

タイリヤウ 身體の目方。

體解

タイカイ 五體を分解して慘殺

體遠

タイエン 遠くのものなつて

體認

タイニン よく心にのみこむと

體意

タイイ 意味を善くのみこみ

體質

タイシツ からだのたち。①

體察

タイサツ 我身に引當て善く思

體操

タイソウ 筋肉を發達せしめ身

體積

タイセキ (數) 或物體を或單位

體軀

タイク からだ。身幹・頭肢の

體温器

タイオンキ 身體の溫度をは

體育會

タイイクワイ 體育の盛大な

高部

體量器

タイリヤウキ 體量をはかる器

體格検査

タイカクケンサ 體格の良否

體髓

タイズイ ロウ。かしら。

體頂骨

タイテイコウ ロウ。かしら。頭蓋を形成せる

體膠

タイカウ。しり。いさらひ。

高部

高山

カウ。コウ。たかし。かみ

高士

カウシ 志高く節を守りて流

俗にこびぬ人。高節の人。けだ

かき人。隱君子。

高下

カウゲ だかひく。あがりさが

り。好きとあしきと。まされる

高部

高カウ大ダイ カウダイ 高く大なる。最もすぐれたる。◎建築。

高カウ才サイ カウサイ すぐれたる智識。

高カウ手テ カウテ じやうす。たくみ。

高カウ札シャ カウシャ 入札中の價額の最も高きもの。往來繁き街路に高く掲げ置きて公衆に示す制札。掲

高カウ年ネン カウネン 老年のこと。「示札」

高カウ名メイ カウメイ 多くの人に知られたる名。名高き名前。

高カウ足ソク カウソク すぐれてある。すぐれたるでし。高弟。

高カウ低テイ カウテイ 高きと低きと。あがりさがり。◎一ならず。

高カウ弟テイ カウテイ 第一の弟子。高足。

高カウ原ゲン カウゲン (地) 兩山脈に圍まれたる高地又は火山の噴出物の堆積より成りたる高地。「所」

高カウ地ヂ カウヂ たかき土地。たかき場

高カウ免メン カウメン ゆるしを受くること。の敬語。おゆるし。◎御一被下

高部

高カウ妙ミョウ カウミョウ すぐれてたえなる。尋常の人の及び得ざる妙處あり。

高カウ志シ カウシ けだかき志。「る」と

高カウ言ゲン カウゲン 口はひひるきこと。ば。人もなげに高ぶりたる言。

高カウ位イ カウイ 高きくらゐ。◎一高官

高カウ利リ カウリ 高き利息。

高カウ材サイ カウサイ 勝れたる器量。

高カウ作サク カウサク 人の作れる品をほめていふ語。

高カウ坏クヮイ カウクヮイ 腰の高き食物を盛る

高カウ枕シン カウシン 安眠すること。心うちとけていむる。

高カウ官カン カウカン 高き官職。顯官。

高カウ庇ヒ カウヒ なかけ。おなさげ。

高カウ批ヒ カウヒ 他人のなしたる評の敬稱。◎一多謝。

高カウ佬ラウ カウラウ 勝れてけだかき人。

高カウ尙シヤウ カウシヤウ 學術などの意義深き。氣高き。上品なる。卑俗ならざる状態。

高部

高カウ臥フイ カウフイ 世に媚びず心に思ふ通り行ふ。心安く世に處する

高カウ采サイ カウサイ 氣高き風采。「と」

高カウ門メン カウメン 大きな門。家柄の勝れてよろしき家。「きん」

高カウ金キン カウキン 金高の多き。たい

高カウ卑ヒ カウヒ 高きと卑しきと。

高カウ級キツ カウキツ 階級の高きと。

高カウ度ド カウド 程度高き。(天)地平より天體に至る角距離。

高カウ直チツ カウチツ たかれ。れだんのたかき。◎諸色一に付云々。

高カウ風フウ カウフウ すぐれたる人柄。けだかき風采。◎彼の一を慕ふ。

高カウ家カウ カウカウ 王朝時代に身分の高き人。徳川時代に公家と武家との雙方に關することを司れる官。

高カウ氣キ カウキ けだかき氣象。

高カウ梁リヤウ カウリヤウ (植) たうさび。

高カウ座ザ カウザ 講釋・説法などの如く衆人に物事を説く人の爲に設けたる一段高き席。上席にすわ

高部

高カウ眠メン カウメン 心配なく眠ること。やすやすとして居ること。

高カウ埠ブ カウブ たかだいの。

高カウ致チ カウチ けだかきおもむき。

高カウ祖ソ カウソ 第一の先祖。己より五代前にあたる先祖。一宗一寺の開基の祖。

高カウ崇チュウ カウチュウ 氣高き。一切。

高カウ情セイ カウセイ 深き心。厚き心。深

高カウ厦シャ カウシャ 大きな家。高き建築物

高カウ雅ヤ カウヤ けだかきみやびやかなること。◎一愛すべし。

高カウ潮シュウ カウシュウ (地) あげ潮が其の極に達せしときの稱。感情又は時勢などが最も高まり起る程。

高カウ率ソツ カウソツ 率の程度高き。

高カウ評ヘイ カウヘイ 他人のなしたる批評の敬語。◎一を乞ふ。

高カウ等トウ カウトウ 等級の高き。程度の高き。高尙。「高き僧」

高カウ僧ソウ カウソウ 徳の高き僧。官位の

高部

高カウ貴キ カウキ 身分の高く貴き。品格のよき。價高き。

高カウ祿ロク カウロク 高き祿高。大祿。

高カウ義ギ カウギ 義の厚くけだかき。なみなみならぬ恩義。

高カウ察サツ カウサツ おさつし。他人が推察したるの敬稱。◎御一是祈

高カウ模モ カウモ 善き手本。

高カウ閣カク カウカク たかどの。高樓。

高カウ遠エン カウエン 氣高く遠大なる。◎思想。

高カウ慢マン カウマン 誇りたかぶること。その身に過ぎたる事をすると。小兒の年齢の割合にませたる物

高カウ聞ブン カウブン お聞に入ると。他人の聞くの敬語。

高カウ需ソウ カウソウ おもとめ。おあつらへ。貴需。◎一に應ず。「ふ歌」

高カウ歌カ カウカ 高聲をはりあげて唱

高カウ臺ダイ カウダイ 地面の高きところ。たかだか。高地。高きうてな。た

高部

高カウ説セツ カウセツ すぐれたる論説。他人の説の敬稱。◎一を拜聴す。

高カウ談タン カウタン あたり憚らぬ聲高き談話。他人の談話の敬稱。

高カウ潔セツ カウセツ けだかきして潔白なる。高尙にしていさぎよきと

高カウ徳トク カウトク 徳の高き。すぐれたる徳。◎一の君子。「と」

高カウ價ケン カウケン 高きれたん。價の高き

高カウ論ロン カウロン すぐれたる議論。他人の論説の敬語。

高カウ興キョウ カウキョウ 甚しきおもしるみ。面しるきと。「酬ゆ」

高カウ誼ギ カウギ 親切。よしみ。◎一に

高カウ嶺レイ カウレイ 高山。たかれ。

高カウ範ハン カウハン 善き手本。「數」

高カウ點テン カウテン 多き點數。最上の點

高カウ踏トウ カウトウ 世の事に心を煩はさす思ひのままに行ふ。氣高く身を處すると。世累をぬけ出づ

高部

ると。官祿に心をのこさず身を  
しりぞくこと。●一勇退。  
高節 カウチ たかきみさな。容易  
に挫けざる節操。●一を全うす  
高邁 カウマイ すぐれたる。氣象  
の衆にすぐれたる。●  
高臨 カウリン おのぞみ。他人の來  
臨の敬稱。●御一奉待候。  
高壓 カウアツ 強き壓力。「叱咤」  
高聲 カウサイ たかごゑ。大聲。●一  
高燥 カウサウ 土地高くしてしめり  
けなきこと。  
高議 カウギ すぐれたる議論。  
高齡 カウレイ 老年。壽命永きこと。  
高欄 カウラン 欄干の高きもの。高  
き樓のらんかん。  
高覽 カウラン ごらん。見給ふこと。他  
人の見ることの敬稱。●一に供  
す。「の敬語。●一に達す。  
高聽 カウチウ 他人の聽聞すること  
高氣壓 カウキアツ 空氣柱の平均の  
重さ即ち七六〇ミリメートル

高部

の水銀の重さより氣壓の度が  
大なること。「にある環」  
高勝環 カウシヨウワケン 兜のうしろ  
高勝山 カウシヨウサン 兜の一種。鉢の  
わきをつぶし山を高くして人  
の頭と同じ形にしてつべんを  
せまくしたるもの。「分」  
高壓部 カウアツブ (地)高氣壓の部  
高祖父 カウソフ 曾祖父の父。  
高祖母 カウソボ 曾祖母の母。  
高利貸 カウリガシ 高利をとりて金  
を貸すこと。又その人。  
高御座 タカミクラ 天皇の御座。玉座  
天皇の御位。「官吏」  
高等官 カウトウワン 奏任官以上の  
高野聖 カウヤセイ 勸善を目的に高  
野山より全國に出づる僧徒の  
稱。(動)蜻蛉類の幼蟲が水中に  
生活するさまの稱。  
高野槇 カウヤキ (植)松杉科に屬  
する喬木。葉は長線形にして數  
個輪生し七個の胚珠ある果鱗

高部

を有し木材は種々の材に供せ  
らる。  
高蒔繪 タカマシ 地より小し高く  
もりあげて蒔きたる蒔繪。  
高地線 カウチセン 高地の一帶に引  
き續ける所。  
高麗鶯 カウライウヅメ (動)鶯の一種  
腹部白く頭部・背部は黄綠色な  
り。「る陶器の總稱」  
高麗燒 カウライヤキ 朝鮮にて焼きた  
高麗芝 カウライシバ (植)莖短く葉細  
くして美しき芝。ひめしば。  
高鐘樓 カウシヨウロウ 火の見やぐら。  
高樓館 カウロウケン 料理屋。  
高岸深谷 カウガンシンコウ 山河の變  
轉するなれふ。  
高架鐵道 カウカダウ 地上に柱礎  
を建設し其の上に架設する鐵  
道。「に生ずる植物」  
高山植物 カウサンシヨウブツ (植)高山  
高等植物 カウトウシヨウブツ 根より液  
狀の滋養分を吸収し狀態の全

高部

く動物に異なる植物。  
高等動物 カウトウドウブツ 口を有し  
固形又は液狀の食物を攝取し  
複雑なる内部の機關によりて  
之を消化し狀態全く植物と異  
なる動物の稱。  
高等警察 カウトウケイサツ 國家社會  
の安寧に關する危害を防止す  
ることを目的する警察。即ち出  
版・集會・結社又は浮浪・出獄人  
若くは火藥・刀劍等に關する警  
察。  
高等探訪 カウトウタンパフ 新聞社に  
て政治社會の狀況を探訪する  
こと。又その人。  
高等行政 カウトウキョウギ 國家社會  
の安寧に關する行政。  
高次方程式 カウジハクテイシキ (數)  
二次より高き次數を有する方  
程式の稱。

### 髟部

ヘウ。サン。セン。フウ。  
ながきかみ。あげまき。  
かみたる。たてがみ。  
くなゆる。

#### 一四畫

【髡】 コン。コツ。  
かみそる。かみきる。  
【髡首】 シユ 頭の髪をそると、古  
の刑の一。

【髡人】 シユシ 髡首されたる人。  
【髡鉗】 シユカン 頭毛を剃り鐵を以て  
首を束れたる刑。

【髡】 テイ。タイ。セキ。シヤク  
かづら。そへがみ。かも  
じ。

【髡草】 シユカウ かつり草に似たる  
タン。トン。さげがみ。  
かみたる。

### 髦部

パウ。マウ。ム。としかみ  
たれがみ。あげまき。す  
ぐれびと。えらむ。なが  
きけ。いぼじり。ちる。わ  
れる。

【髦士】 パウシ 勝れたる學者。俊才の  
人。又髦俊といふ。

【髦邱】 パウキウ 前高く後低き岡。  
【髦馬】 パウバ なたがみをばやした  
ままの馬。

【髦】 ハウ。ほのか。  
さもにたり。

【髦髯】 ハウシヤウ さもよく似て居ると  
又彷彿に作る。●水天一。

#### 五六畫

【髦】 ハツ。ホチ。かみ。いのち  
ながし。くさ。かみすぢ。  
ねれがみ。ねもと。くは  
むし。ふたあたまのへび  
あなのり。かほこけ。み  
づわく。け。

髟部 二一四畫

髟部 五一六畫





門部 十畫以上

闘

トウ。闘の俗字。

闘

タウ。ネウ。いそがはし。みだるる。かまびすし。

闘

カウ。コウ。たたかふ。あらそふ。ときのこと。

闘

カウ。さい。ときのこと。

闘

ケキ。ギヤク。うつたふ。もとの。せめぐ。たたかふ。おそる。うらむ。あなごる。

闘

ゲキウ。せめぎたたかふこと。

闘

ゲキウ。兄弟相争ふこと。

闘

ゲキウ。せめぎあらそふこと。

闘

トウ。俗の闘字。たたかふ。あらそふ。きそふ。か

闘

トウ。たたかひ。あらそひ。

闘

トウ。いくさ。

鬯部

鬯詩 トウシ 詩を作りあつて互に優劣を争ふこと。

鬯文 トウシ 文章を作りあつて互に優劣を争ふこと。

鬯歌 トウカ 歌を作りあつて互に優劣を争ふこと。『争ふこと。』

鬯鶏 トウケイ 鶏を闘はして勝負を争ふこと。

鬯腕 トウワン 腕を闘はして勝負を争ふこと。

鬯風 トウフウ 風を闘はして勝負を争ふこと。

鬯腕 トウワン うでを闘はして勝負を争ふこと。

鬯酒 トウシウ 酒のよき酒。

鬯圭 トウケイ おたまの祭に供ふる圭。

鬯部

鬱

ウツ。ウチ。にほひ。しげら。さかんなり。ふさぐ。くらし。鬱に同じ。

鬱伊 ウイ 氣ふさがること。

鬱氣 ウキ 氣散せざること。こもりふさがる氣。たちのぼる氣。

鬱散 ウツサン うさはらし。きはらし。『一を晴らす。』

鬱憤 ウツフン つもりしうらみ。

鬱鬱 ウツウツ 氣分のほれくせぬさま。草木のしげれるさま。雲氣などのさかんなるさま。物事のふさがりさいこほるさまなど。いふ語。

鬱結 ウツケツ 氣のむすぼるさま。

鬱勃 ウツボク 雪などの盛に起るさま。また意氣の起りあがるさま。いふ語。

鬱蒸 ウツショウ 物事のさかんに起るさま。

鬱燠 ウツウツ 氣のふさぐこと。物事のふさがりとさいこほること。

鬯部

鬱陶 ウツタウ 心むすぼるさま。氣ふさぐこと。

鬱悶 ウツモン 心むすぼれもたゆる鬱積 ウツセキ とこほること。つもの。

鬱悒 ウツイ 氣ふさぎて樂しまざること。

鬱症 ウツシヤウ 氣のふさぐやまひ。

鬱血 ウツケツ 充血すること。

鬱然 ウツゼン 氣のふさぎたるさま。物事のさかんなるさま。草木のしげれるさま。いふ語。

鬱葱 ウツソウ むしのぼる氣のさか入なるさま。又は草木のしげれるさま。いふ語。

鬱金香 ウツコウカ (植) 薔薇科に屬する草。秋小白花を開き根は香料又は染料に供せらる。

鬱壘神荼 ウツリシント 支那にて百鬼を支配する兄弟の神にして東海の度朔山の桃樹の下にありといふ。

鬯部

鬯部

鬯

鬯

鬯

鬯

鬯

鬯

鬯

鬯

鬯

レキ。カク。リヤク。キヤク。かなへ。かま。もたひにぎり。へだつ。くびき。シン。セン。かま。おほがま。こしき。かなへ。すみやか。

イク。シユク。キク。ソクひさぐ。おさなし。うる。かひ。やしなふ。

キ。死人のたましひ。おに。かへる。ささし。とほし。げもの。

鬼人 キジン 死せる人。

鬼女 キメヨ 女相の鬼。鬼のやうに心の酷なる女にいふ。

鬼火 オニヒ 燐火。いんくわ。

鬼神 マシ 死人の靈魂。たましひおにがみ。荒く恐しき神。

鬼卦 マイ あたためうらなひ。

鬼籍 マキ 死亡したる人の名前を記したるもの。過去帳。

鬼瓦 オガラ 屋根の棟のぼしの飾りに葺く大なる瓦。

鬼號 マキ 戒名。かみやう。

鬼價 マカ 定まらぬだん。

鬼罰 マツ かみのばち。

鬼怪 マライ げもの。

鬼面 マシ めん。鬼の假面。

鬼燈 キウ ぼほづき提灯。

鬼録 キロク 人の死するを鬼録に登るさいふ。

鬼畜 マク おにとちくしやうと。轉じて無慈悲なるもの。

鬯部

鬼誅 マキウ 神のばち。しんばつ。

鬼宿 キシユク 二十八宿の一。鬼星。

陰陽家にて正月は十一日、二月は九日、三月は七日、四月は五日、五月は三日、六月は一日、七

鬼部

月は二十五日、八月は二十二日、九月は二十日、十月は十八日、十一月は十五日、十二月は十三日の稱、此等の日は嫁取の外は萬事に吉なりといふ。

**鬼門** ミシ 陰陽家にて東北の方角にありて忌み避くべきむき。行くを忌む所。①に當る。

**鬼門除** ミシヨク 鬼門の方に神佛を祭り災難を除け避くる。

**鬼神論** キシロン 鬼神につきて研究したる説。

**魂** コン ゴン。たましひ。さかんなり。

**魂魄** コンバク たましひ。みたま。精神の靈と體力の靈と。

**魂** コン 數多きありさま又は光り輝く有様にいふ語。

**魂夢** コンム ゆめ。「たる企魂膽」コンタン たくなみ。入り組み魂樓 コンロウ 山の如く高くなれる墓。

鬼部

**魂喚** コンケン 死者の魂を呼びかへすと。招魂。

**魁** クワイ ケ。かしら。ひきゆる。ほし。さき。おさむ。いさむ。きのこぶ。

**魁梧** クワイゴ 様子などのいかめしく立派なると。身體のすぐれて逞ましきと。

**魁偉** クワイイ からだの殿しく立派なると。又魁壘といふ。

**魁陵** クワイリヤウ 小高き岡。

**魁堆** クワイタイ うづたかき有様。

**魁首** クワイシュ かしら。なま。

**魁帥** クワイシュイ 軍の大將。

**魁岸** クワイガン 人並すぐれてからだの立派なると。

**魁大** クワイダイ 壯大。

**魁** クワイ ビ。ミ。こだま。

**魄** ハク タク。たましひ。くらし。かたち。こぶ。

鬼部 七―八畫

**魃** ハツ パチ。ひでりのかみ。ひでり。ひでりのおに。

**七―八畫**

**魃** セウ すだま。山魃。獨足鬼。

**魃** ギ クワイ。たかし。ほそし。おほいなり。地の名。

**魏** キ 高く大いなるさまにいふ語。①たる峻峰。

**魏闕** キク 大いなる門。

**魃** リヤウ みづのかみ。魃に同じ。みづち。

**魃** マツ パウ。みづのかみ。みづち。網に同じ。

**魃** マリヤウ 水の神。山川の靈。

**魃** タイ デ。ツ井。ヅ井。しやくま。あかぐま。さいづちまげ。

**魃結** ツツク さいづちの形にむすびたるまげ。

鬼部 十畫以上

**魃** チ すだま。こたま。蟻に同じ。

**魃** チ あやしきげもの。すだま。山林の精。山の神。

**魃** チ 心を惱亂せしむる害物。バ。マ。おに。

**魔王** マウ げもの。の。な。又魃といふ。

**魔鬼** マキ あやしきもの。げもの。マキ。悪しき方に迷ふと。

**魔神** マシ あくまの神。

**魔窟** マク 怪しきもの。の。す。み。か。げもの。の。住。家。賤業婦などの住める所にいふ。

**魔巷** マウ 怪しきもの。の。住。む。所。賤業婦などの集まれる所をいふ。「譏なる術」。

**魔術** マジウ 人を欺く方術。不思議な行ふと。妖術。

魚部

**魔道** マジウ よこしまなる道。邪道。

**魔力** マリキ 怪しき力。

**魔魅** マジ げもの。「める所。魔界」マジカイ 悪魔の世界。悪鬼のすまはりになるもの。

**魃** キ ゲ。螿に同じ。

**魃** キ ナミ。のか。た。の。お。に。

**魃** エン エフ。お。そ。ぼ。る。

**魃** ユ メ。に。お。ご。ろ。く。

**魃** サン お。に。の。な。

**魚部**

**魚油** ギョウ ゴ。し。み。う。な。す。な。ご。り。

**魚山** ギョサン 梵唄(ボウイ)の異稱。

**魚水** ギョスイ 魚と水との如く君と臣との極めて親しきと。

魚部

**魚類** ギョル う。な。の。た。ぐ。ひ。う。な。水中に棲息する冷血動物。「ち。魚味」ギョミ う。な。の。料。理。う。な。の。あ。魚族 ギョゾク ぎよるぬ。う。な。

**魚介** ギョカイ 魚と貝と、即ち海産動物の總稱。①禽獸。

**魚鱗** ギョリン 魚のうろこ。鱗の相次するが如く聚まると、昔鱗のならびたるが如く順序正しく列べたる軍隊。②左右に―す。

**魚刀** ギョタウ 魚切り庖刀。

**魚麗** ギョレイ 物の多くあると。太平の年を形容する語。昔長楸圓形の陣隊。

**魚子** ナナコ 金・銀・赤銅などの面に小さき粒を密に浮ばりにしたる細工。織物の織目を密に且つ斜に打ち違ひて粒だちて見ゆる様に織りたる組布。

**魚戸** ギョコ さかなや。う。な。や。

**魚田** ギョデン 小魚を切らずに焼きてすり味噌をつけたる料理。

魚部

魚鬚 ギョウソウ 竿の異名。  
魚生 ギョセイ 魚のさしみ。  
魚肉 ギョニク うなのにく。やがて斬殺せらるべきもの。●我は方に一たらんとす。

魚池 ギョチ 魚のいけす。  
魚袋 ギョタイ 古束帯のとき石帯の右の第一第二に帯びしもの。  
魚肥 ギョヒ 鮓又は鱒なごを乾して製造したる肥料。

魚虎 ギョコ しやちほこ。想像の海獣の名、全身黒く形魚に似て頭虎の如く背には刺あり勢ひ猛勇にして鯨をもさし殺すさいふ。

魚板 ギョバン 魚の形に作れる板。揚げおきて時を報ずるため大槌にて叩くもの。

魚道 ギョダウ 魚の群をなして浮び泳ぐ状を海中の道路に見なしていふ。杯のみ干して後杯底の残酒が連続して滴るさま。

魚部

魚素 ギョソ 手紙。書簡。  
魚貫 ギョクワン 魚の隊をなすが如くに順にながり合ふこと。

魚塘 ギョタク 魚のいけす。  
魚箔 ギョハク 魚を捉る竹の籠。  
魚鹽 ギョエン 海の産物の總稱。●を致して木材に代ふ。

魚膠 ギョカウ 魚の鱗にて製したる膠、普通の膠よりも粘着力更に強し。にべにかは。

魚市 ウライチ 魚類を賣買する市場。  
魚膾 ギョクワイ 魚のなます。  
魚目 ウツメ 手足などに生ずる神經の乳嘴突起の發育せるもの。

魚河岸 ウツメガシ 魚市場を立つる水邊の地。  
魚燈油 ギョトウユ 鱒・鮓・鯨などより製出したる油、ともし油に用ゆ、たれ油より烟多し。

魚水交 ギョスイマシハリ 魚と水との離る可からざる如く親しき交りないふ。

魚部 二畫

魚形水雷 ギョケイスイライ 攻撃水雷の一種、形魚の如く外部は眞鍮にて包み内部にある空氣の壓力又は爆發物の力によりて進行して當る處に爆發す。

魚籃觀音 ギョランクワンオン 魚を入れたる籠を提ぐる像の觀音。

魚網鴻離 ギョマウワウリ 得る所其求むる處にあらざるをいふ、魚網を張りて却て鴻が離るとの意なり。

魚目燕石 ギョモクエンゼキ 似て非なるものをいふ。玉に似て非なるもの。

魚形水雷發射器 ギョケイスイライハツシキ 軍艦に備へつけられ魚形水雷を裝填して艦外に發射する爲めの器。

魚 イサ (國訓)。魚の名。

魚部 三一四畫

鮐 ハワキ ながまつ。  
鮐魚 ハワキ ながまつ。  
鮐鮐 ハワキ ながまつ。(動)形も色もかながしに似て細長く味輕し。

鮐 (國訓)。ばえ。鱒魚。

鮐 ハン。ホン。ヘン。かれひ。ばまち。ロル。すなほ。おろひ。にぶし。しつぱく。

魯直 ロチヨク 馬鹿正直なること。  
魯酒 ロシユ 悪き酒。氣のうすき酒。  
魯魚 ロギョ あやまり易き物事に形容する語。

魯桑 ロクワ (植桑の一種、葉大にして厚し。

魚部 五一六畫

魯魚之誤 ロギョノイマリ 書き寫し(國訓)。こち。「の誤り。一種の海魚。

鮐 シ。タフ。トウ。(國訓)。かます。毒ある魚。サ。シヤ。鯨に同じ。さめ。うなぎ。ばせ。

鮐 タ。ガ。うなぎ。魚の名。セイ。シヤウ。なまぐさきと。さげ。魚の名。サ。セ。すし。魚を鹽米などに漬けたるもの。

鮐 (國字)。なまづ。鮐。淡水魚。フ。ホ。ふな。川魚。ハウ。ペウ。しほつけうを。腐り魚。開き魚。あはび。鮐に同じ。

鮐 ハワキ しほづけ魚。ひもの。ハワシ。魚をうる市。ひものやテン。ネン。香魚。

鮐 (國訓)。あゆ。なまづ。セイ。シ。サイ。たちうを。みじかし。(國字)。いさざ。淡水魚。鱒魚。

鮐 (國字)。このしる。背青く腹白く形あぢに似て扁し。セン。魚肉。生肉。なまもの。あたらし。あざやか。あざやか。かにうつくし。

鮐 セシカ あざやかにみげのよ。セシカ。さかなや。魚肝。セシカ。生肉。あたらしき肉。セシカ。すくなきと。わづか。セシカ。なまら。いきち。淋瀝。セシカ。生魚と鳥と。羽の美し。

魚部 五一六畫

鮐魚 ハワキ しほづけ魚。ひもの。

鮐肆 ハワシ 魚をうる市。ひものや。

鮐 (國訓)。あゆ。なまづ。セイ。シ。サイ。たちうを。みじかし。(國字)。いさざ。淡水魚。鱒魚。

鮐 (國字)。このしる。背青く腹白く形あぢに似て扁し。

鮐 セン。魚肉。生肉。なまもの。あたらし。あざやか。あざやか。かにうつくし。

鮐 セシカ あざやかにみげのよ。セシカ。さかなや。魚肝。セシカ。生肉。あたらしき肉。セシカ。すくなきと。わづか。セシカ。なまら。いきち。淋瀝。セシカ。生魚と鳥と。羽の美し。

鮐 セシカ あざやかにみげのよ。セシカ。さかなや。魚肝。セシカ。生肉。あたらしき肉。セシカ。すくなきと。わづか。セシカ。なまら。いきち。淋瀝。セシカ。生魚と鳥と。羽の美し。

鮮明 シイ あざやか。はつきりとせる。

鮮魚 シキヨ 生魚。あたらしき魚。

鮮菜 シサイ あたらしきやさい。

鮮潔 シケン あざやかにしていき。

鮮麗 シレイ あざやかにうるはし。

鮮新 シシン あたらしき。

鮮味 シミ あたらしき料理。なま。

鮮蓄 シチク いけぶね。いけす。

鮭 サケ ケイ。ケ。

鮭 サケ さけ。ふぐ。

鮭 サケ (國字)。また。こちの訓

あれご詳ならず。

コウ。

しび。

(國字)。春淡水に生じ後

海水に入る魚。ぼら。お

ぼら。

アン。

魚の名。

鮫鱈 サウダク (動) 海底にすみ形琵琶

琶の如し。

鮫 サウダク (國字)。うぐひ。

鮫 サウダク 淡水魚。

鮫 サウダク カウ。ケウ。

鮫 サウダク さめ。

鮫珠 サウジュ しんじゆ。玉の名。

鮫函 サウカン さめざや。

鮫石 サウシ 有孔虫の化石、石灰

質にして斑紋あり。

鮫鞘 サウシヤ 刀のさやにさめの皮

を巻きたるもの。

鮫肌 サウバ 皮膚の鮫の皮の如く

さらさらとせるもの。

井。イウ。まぐろ。

かぢき。しび。

鮫節 サウセツ かつをぶしの類、し

びにて製したるもの。

キ。シ。ケイ。すし。つけ

う。いるか。しび。

クワイ。ゲ。こなまづ。

(國訓)。鮫に似て大なる

一種の魚。はえ。

鮎 ササギ シヤウ。鱧の俗字。ほし

魚のあぶら。ひうを。

(國訓)。せいご。

鮎 ササギ 鱧の小さきもの。

七八畫

鯊 ササギ サ。シヤ。ばぜ。

うなぎ。さめ。

(國字)。あさり。

一種の介虫。

鯉 ササギ こひ。淡水魚。

鯉口 ササギ コヒケチ 刀の鞘の口の鏝さい

で合ふところ。袖なきうはッば

リ。つつ袖の衣。

鯉素 ササギ リ 手紙。書状。又鯉書さい

(國字)。こち。

鮪 ササギ 一種の魚。

カウ。キヤウ。

魚の骨。ほれくづ。

(國字)。

鮠 ササギ かます。

鮠 ササギ カン。クワン。あめのう

を。鱧に似て大なる魚。

コン。ソ。

おほうを。よみがへる。

(國字)。うぐひ。うごひ。

淡水中に生ずる魚。

サウ。セウ。

(國訓)。たご。

(國字)。すばしり。

初生のぼら。

(國字)。かすのこ。鮠の

たら。子を風乾しにせ

るもの。

(國字)。なます。全身う

るこなくして口に髯あ

るうを。鮠と同じ。

(國訓)。あみ。

えびの一種。

ケイ。ギヤウ。

くじら。

鯨 クジラ 鯨 クジラ 大奸賊又は悪徒の首

領などの稱。

鯨油 クジュ くじらの油。

鯨波 クジハ ときのこゑ。大波。

鯨音 クジオン 梵鐘の聲。

鯨尺 クジシ 古は鯨のひげにて

作られしが今は多く竹にて造

り吳服の長さなどを計るに用

ゆ、其一尺は曲尺の一尺二寸五

分に當る。

鯨飲 クジイン 酒を甚だ多く飲むと

鯨獵 クジリツ 鯨を捕ふる。

鯨 クジ コン。

おほ魚。うなのこ。

ゲイ。カイ。さんせうの

うな。めくぢら。あし

クラ。ゲ。

はむ。なます。魚の名。

(國訓)。

あぢ。鱈のこ。

テフ。

鯛 ササギ たひ。

鯛麵 ササギ 鯛の肉をまぜて作れ

鯛味噌 ササギ 鯛の肉をくだきて

味噌にすり交ぜ砂糖などにて

味をつけたるもの。

鯖 ササギ セイ。シヤウ。

さば。あなさば。

シ。ぼら。

いな。なよし。

ヒ。

にしん。

(國字)。

ごぢやう。

セイ。このしろ。

鱈に同じ。

(國字)しやち。

一種の海獣。

クン。コン。

めばる。

九一十畫

鱈 ササギ 音詳かならず。馬鮫(さ

ばら)に似て小なる魚。

【鰕】

カケ。さんしやううな。えび。「たる染色。」

【鰕茶】

セキヤ。えび色に茶色が、リシヤ。海老のまがりたる形に似たる錠。犬なる門のくわんぬきなごにつくるもの。

【鰕茶式部】

セキヤシヤ。女學生の異トウ。ツ。「稱。」

【鰕】

鰕に似たる魚。

【鰕】

サイ。シ。魚の頰中の骨。あぎさ。おそろ。えら。

【鰕】

フク。ハク。(國訓)。あはび。ふぐ。

【鰕】

ホ。モ。魚の名。

【鰕】

カク。鰕魚。タカ。わに。(動)爬蟲類に屬する動物、全身甲に覆はれ性凶暴にして人を害す。

【鰕口】

ワニ。佛殿にかけ吊す銅器。人の口の横に長さもの。船の異名。かれいれ。

【鰕足】

ワニシ。人の歩行のさま。テイ。タイ。(國訓)。

【鰕】

ひしこ。ひしこいわし。シウ。シユ。ける。けむ。どちやう。しのぐ。

【鰕】

ヤウ。(國訓)。するめ。すいき。あかうなぎ。タウ。テフ。

【鰕】

かれひ。ひらめ。ソウ。ス。

【鰕】

いしもち。にべ。(國字)。はや。

【鰕】

はゑ。鱺。シウ。(國訓)。

【鰕】

かじか。(國字)。

【鰕】

いわし。リウ。ル。

【鰕】

なよし。キ。ゴ。鰕に同じ。

【鰕】

魚のひれ。はた。

【鰕】

バ。メ。うみえび。いな。の。小。さ。き。の。つ。く。ら。す。ばしり。(國訓)。(國字)。

【鰕】

きき。ドウ。おこし。えびに似て赤き斑ある魚。

【鰕】

クワン。ゲン。愁ひて寝られぬさま。やもを。おほうを。

【鰕】

鰕寡孤獨。クラクワダク。やもを。やもめ。みなしこ。ひさりもの。四者。よるべなき人などないふ。

【鰕】

シ。老魚。(國訓)。ぶり。

【鰕】

鰕。ワニ。(動)形ふりに似てひらたく赤味を帯び細きもの。

【鰕】

はらか。(國訓)。

【鰕】

一種の海魚。

【鰕】

サ。ウ。いか。魚の一種。

【鰕】

(國字)。はたはた。一種の海魚。

【鰕】

ガウ。ゴウ。魚の名。俗に鰕に通用す。(國字)。

【鰕】

サウ。(國訓)。

【鰕】

あぢ。鰕に同じ。

【鰕】

ヘウ。ベウ。うをのふえ。うきぶくろ。にべ。

【鰕】

ベツ。ヘチ。すつぼん。鰕に同じ。

【鰕】

(國字)。

【鰕】

はえ。はや。ビン。ミン。鰕に似て首に石のある魚。

【鰕】

シヤウ。サウ。た。

【鰕】

ケン。(國訓)。

かつうな。かつな。

【鰕節】

カララシ。鰕の肉をむして乾し固めたるもの。かつなをふし。

【鰕木】

タカキ。宮殿神社などの棟木に數個並べて飾りつくるかつなを形したる材木。

【鰕】

(國字)。琵琶魚。華勝魚。あんこう。

【鰕】

(國訓)。

【鰕】

鰕に同じ。

【鰕】

パン。マン。うなき。

【鰕垂】

ウダレ。かばやきに用ゆる味をつけたる醬油。

【鱗】

リン。うるこ。いろくづ。こけら。魚類の稱。

【鱗甲】

リンカウ。うるこ。このかけら。鱗の片を爲す細片。

【鱗莖】

リンシヤイ(植)地下莖の短縮して鱗状を爲すもの。百合の如し。

【鰕】

リンシヤイ。魚類。又鱗界といふ。

【鰕】

リンシヤイ。魚類。甲のある蟲類。

【鰕】

リンシヤイ。鱗の如くならび合へると。又鱗布。鱗列といふ。

【鰕】

リンシヤウ。鱗ある虫。即ち蛇などの類。

【鰕集】

リンシラ。打ちそろふこと。鱗の如く引つり集まること。

【鰕胸】

リンシユン。見わたす限り殆んどはてなしこの意。

【鱗翅類】

リンシヤウ(動)昆蟲類の一。日、兩對の翅及軀軀は粉の如き細鱗を以て覆はれ小顎著しく發達して口邊細長管状を爲し花蜜を吸ふに適す。

【鰕】

(國字)さば。一種の海魚。

【鰕】

ハイ。ペ。うち。はれる。魚の名。

【鰕】

セン。セン。うみへび。こまめ。ひしこを干したるもの(國訓)。

魚部 十三畫以上

鯨

シウ。魚の名。(國字)。きす。

鱈

一種の海魚。ソシ。あめます。うぐひ。ます。

鱈

魚の名。(國字)。きす。

鱈

魚の名。(國字)。きす。

鱈

コウ。グ。かにの一種、色青黒く短き十二本の足を具ふ。かぶさがに。テン。タン。かぢきに似たる一種の大魚、一に黄魚と稱す。

鱈

魚と稱す。

鱈

魚と稱す。

鱈

魚と稱す。

十三畫以上

魚部 十三畫以上

鰻

鰻夫ヲツチヤモを。(國字)。

鰻

鰻に同じ。

鰻

シヤウ。サウ。黄鰻魚の別名。シヤウ。ふか。鰻に同じ。

鰻

一種の海魚。(國字)。しびら。

鰻

一種の海魚。

鰻

一種の海魚。

鰻

一種の海魚。

鰻

一種の海魚。

鳥部

鵲

(國字)。鵲に同じ。

鳥部

鳥

テウ。こり。

鳥

青錢の異名。鳥目トイ。夜間は物を見るを。得ざる眼病。「にいふ語。

鳥

鳥雀。ツラシク。人里近く集まる鳥。鳥馬。ツラマ。(動)つぐみの異名。

鳥

鳥渡。チヨト。しばし。ちよいと。す。鳥肉。ツラク。鳥のにく。「こし。

鳥

鳥族。ツラツク。とり類。鳥のたぐひ。鳥章。ツラシク。鳥を模様に織れる布。「といふ。

鳥

鳥語。ツラゴ。鳥のなきごゑ。又鳥聲。鳥啄。ツラダク。鳥の口ばし。

鳥

鳥道。ツラダク。山中の細道。鳥の通ふほごの小みち。「鐵砲。

鳥

鳥銃。ツラシク。鳥を打つに用ゆる

鳥部 二一三畫

鳥羅

ツララ。とりあみ。

鳥跡

ツラシク。文字の異稱、支那の蒼頡といふもの鳥の足あとを見て文字を作りしより起る。

鳥類

ツラシク。鳥のたぐひ。

鳥獸

ツラシク。鳥のたぐひ。

鳥類

ツラシク。鳥のたぐひ。

鳥類

ツラシク。鳥のたぐひ。

鳥類

ツラシク。鳥のたぐひ。

鳥類

ツラシク。鳥のたぐひ。

鳥部 二一三畫

鳩民

キヤシ。民をあつめると。

鳩尾

キヤビ。みづおち。胸骨の上部。鳩集。キヤシ。よせあつめると。

鳩

(國字)。には。

鳩

一種の水禽。

鳩

一種の水禽。

鳩

一種の水禽。

鳩

一種の水禽。

鳩

一種の水禽。

鳥部 二一三畫

鳴物

オチキ。音楽に用ゆる金鼓。管絃などの總稱。樂器類。

鳴

鳴。ツラシク。弓づるを鳴らすこと。鳴動。ツラシク。なりひびくこと。山

鳴

鳴謝。ツラシク。あつく禮をいふこと。鳴神月。ツラシク。陰曆六月の異稱

鳴

鳴妻戸。ツラシク。あけたてに音のする妻戸。

鳴

鳴禽類。ツラシク。(動)鳥類の一目概ね小形にして鳴管を有し美聲を發して鳴づるもの、鶯雀等の如し。

鳳

ホウ。フ。至徳の瑞應として現はる、神鳥。おほ

鳳

鳳。ツラシク。なみなみの器量なりといふ語。

鳳

鳳凰。ツラシク。鳥類中最も靈なるものにて體の前部は鶴に似後部は麒麟に似たりさいふ想像上の鳥。

鳳音 ホウオン 律の上無の調。音聲  
又は音信の敬稱。

鳳曆 ホウレキ コノミの美稱。

鳳眼 ホウガン 美しき目つき。

鳳闕 ホウケツ 天皇の御すまひ。禁  
裡宮闕。

鳳輦 ホウエン 屋形の上に金の鳳凰  
をつけたる輦。天子の御車。又

鳳輿 ホウウ 天子の詔書。

鳳梨 ホウリ (植) あななす。

鳳凰竹 ホウワウチク (植) 竹の一種、  
幹細くし葉樞に似たり。

鳳仙花 ホウセンカ (植) 葉は桃に似  
て淡緑色を有し花は葉腋に着

生して紅白色を呈し美麗なり。  
シ。鳩の一種。つゞどり。

すみたどり。ふゞどり。  
なほしるどり。

ト。ツ。

ほととぎすに似たる鳥

鳩片 アンケシの實の汁より製  
せる麻酔性の劇薬。

四五畫

鴈 ガン。ゲン。暖氣を追ひ  
て去來する鳥。かり。雁  
の條を見よ。

ハウ。ボウ。のがん。雁の  
一種にて趾なき鳥。

鴝母 ハウボ ヤリてげ。

チン。毒鳥の名。鼻に似  
て紫黒なり、好て蛇を食

す。羽に毒あり。

鴝酒 チンチン ちんの羽の毒を入れ  
たる酒。

鴝毒 チンチク 鳩の羽の毒。酒に加  
へて人を殺すに用ふる酒。

鳩殺 チンチク 鳩毒をのませて殺す  
ヒツ。

あひる。

ア。からす。

はしぶさ。

鴝片 アンケシの實の汁より製  
せる麻酔性の劇薬。

鴉鳴 アイイ からすなき。

鴉鳥 アイイ からす。

鴉聲 アイイ からすのこゑ。

鴉鳴蟬噪 アイイセウ 鴉のなき蟬  
のなくも如く從に聲を立て、  
讀むも其意味を解せざるにい  
ふ語。

鴉 (國字)。しぎ。

鴉燒 シギキ 油を塗りて焼きたる  
茄子に摺り味噌をつけたる料  
理。

鴉壺燒 シギキヤキ やき茄子の上に  
板にて鴉の頭の形をつくりて  
おく料理。

ア。あひる。

かも。あひかも。

鴨居 カヅキ しきぬと相對して上  
部に横たはれる溝ある横木の  
稱。

ヤウ。アウ。めなしどり。  
めすのをしどり。

鳩 コ。リ。

しやこ。

シ。とび。

ふくろふ。

鳩尾 を轅の如くにして牛車の  
背後に出でたるもの、宮殿の棟

などに作る飾物。

鳩張 シヤウ 形勢猛悍鳩の翼を張  
るが如きないふ。

鳩鼻 シウ (動) ふくろふ。暴悪な  
るにふ語。

ケウ。

ふくろ。

鴉鳥 カウチウ (動) 鼻の類にして緑  
色の羽あり、肉の味よし。

シ。くろとび。

しまつどり。

エン。なしどり。

をすのなしどり。  
並び泳ぎて相離れず鴨に似て  
小さき鳥。

鴛鴦契 エンアノチキ 夫妻相親むに  
いふ語。

鴛鴦衾 エンアノスマ 夫婦同衾する  
ト。又。

あつとり。

ダ。タ。だてう。

熱帯地に棲む一種の鳥。

レイ。リヤウ。いした、  
き。みちなしへ鳥。

カフ。コウ。

いへばと。はと。

鳩口 カウコウ ごもると。ごもりの  
鳩者 カウキョウ ごもりの人。「人。

鳩仔 カウシイ いへばとのひな。

鳩屋 カウヤ いへばとの小屋。

コウ。凡て大なる意味。  
かり。大がり。ひしくひ。

おほとり。おほいなり。

コウキョウ 極めて軽き物にいふ  
語。一より輕し。

カフ。コウ。

鴻大 コウダイ 極めて大なるも。  
鴻爪 コウソウ 行衛の不明なる又は  
徑路の定かならざるにいふ語。

鴻業 コウゲツ 國を開き基を建つる  
などの偉業。大なる事業。

鴻益 コウエキ おほいなる利益。

鴻荒 コウワウ 太古。おほむかし。

鴻烈 コウレツ 大なる勳功。

鴻筆 コウヒツ 大手腕ある文士。

鴻圖 コウト 大いなる謀計。

鴻臚 コウロ 外國の來賓との應接。

鴻恩 コウオン おほいなる恩惠。

鴻學 コウガク 學問に深く達したる  
人。て。しまり。

鴻溝 コウコウ おほいなる溝。へだ  
鴻儒 コウジュ 學問深き人。

コウ。グ。ゴ。つげさ。

はれ。左足の白き鳥。

ヂン。ニン。

やまがらす。  
ケン。  
ほととぎす。



**鵠** (國字)。とき。つき。鵠に似たる鳥。ブ。ム。あうむ。能く人の言語を真似る一種の鳥。コク。一種の水禽。く。ひ。はく。て。う。おほ。ざり。つま。だち。おほ。い。なり。が。が。て。う。

**鵠** 隊陣の名。

**鵠** 鵠鳥(動)舶來の家禽にして雁に似て全身白く嘴は黒なり。「形容語。雪の異名。」

**鵠** 鵠毛 鵠鳥の羽。白きもの。鵠眼 鵠の異名。孔のある鵠鵠卵形 鵠のたまごなり。鵠管石 鵠の殻。いし。ざ。く。つら。らしい。の。中。空。なる。もの。

**鵠** 鵠口瘡 ガコウソウ 専ら幼児に發する病にして口中白く爛れて乳を飲むに痛む病。多く牛馬より鵠に同じ。一傳染す。

**鵠** カン。かつ。ちち。一種の山鳥。(國字)かしざり。かけす。鳥の名。テイ。ダイ。う。が。ら。ん。て。う。み。づ。こ。の。さ。ぎ。

**鵠** 鵠呑 ウミ 食物を噛まずに呑みこむ。丸呑。

**鵠** 鵠舟 ウツ 鵠飼に用ゐる舟。鵠卷 ワキ 谷川にて鵠を集め魚を取巻きて汀に逐ひ寄ると。鵠飼 ウカヒ 飼ならした鵠にて鮎などを捕らしむる。又その人鵠目鷹目 ウメタカメ 目を鋭くはたらかして物事に注意すると。

類に屬する貝、介殼圓く鵠に似たる斑紋あり。

**鵠** 鵠格子 ウツカワシ 女郎屋にて女郎の居る處に建つる格子。セイ。シヤウ。ご。め。さ。ぎ。

**鵠** ギキ。ギヤク。ゲイ。さ。ぎ。に。似。て。大。なる。水。禽。(國字)鳥の名。き。く。い。た。だ。き。エン。

**鵠** か。や。く。き。鴨。の。屬。シヤク。サク。か。さ。さ。ぎ。テウ。

**鵠** お。ほ。わ。し。く。ま。た。か。ヒツ。

**鵠** ひ。よ。ざ。り。ホウ。ホウ。お。ほ。と。り。想像上の大鳥。

**鵠** 鵠程 ホウテイ ばるかにへだたりたる航路。萬里の航路。一萬里。

**鵠** ボリ。プ。ム。あひる。

**鵠** 鵠鴨 プラ あひがも。ヘン。ヒン。輕。き。貌。に。い。ふ。字。ひ。る。が。へ。る。鵠鴨 鵠の鳥のかるく飛ぶ貌。コウ。鵠に同じ。シウ。こ。う。の。と。り。し。ぎ。み。づ。と。り。セキ。シヤク。を。し。ざ。り。の。一。種。ガク。み。さ。こ。

**鵠** 鵠鴨 ガク 小さな鳥。ホ。プ。は。した。か。の。類。テイ。ダイ。た。か。ほ。こ。と。ぎ。す。

**鵠** ケイ。時。を。知。ら。ず。る。家。禽。には。と。り。く。だ。か。け。鵠人 ケイシ 支那唐の世宮中において時を告げ知らせたる役人。鵠心 ケイシン おくびやうなる心。鵠仔 ケイシ 鵠の子。鵠旦 ケイタン 鵠の鳴きはじめる頃よあけ。あけがた。又鵠明さいふ。

**鵠** 鵠肋 ケイラク 鵠のあばら骨をねぶれば一種の味ありて何となく捨てがなき心地せらるゝが如くさほご役に立たれど捨てがたき物事にいふ語。

**鵠** 鵠林 ケイリン 朝鮮の異稱。鵠卵 ケイラン 鵠のたまご。鵠姦 ケイカン 男色。かはつるみ。鵠肉 ケイニク にはとりの肉。鵠口 ケイコ 小なる團體のかしら。鵠頭 ケイトウ (植)算科に屬し花序

鵠冠状を爲し夏秋の交赤・黄・白等の花を開く。

**鵠** 鵠冠 ケイクワン 鵠のときか、鵠の頭上にある赤き肉の稱。

**鵠** 鵠蛋 ケイタン 鵠の卵。鵠卵のしろ。

**鵠** 鵠距 ケイキョ 鵠のけづめ。「み。鵠湯 ケイタウ 鵠肉より作るスープ。鵠語 ケイゴ 鵠の鳴きこゑ。よあけ又鵠啼といふ。「あけ。鵠鳴 ケイメイ 曉に鵠の鳴くと。夜鵠 夜の鵠のひな。鵠髻 ケイセツ 鳥の形をなせる盃、禮式に用ゆ。

**鵠** 鵠脚菜 ケイキョウサイ と。ろ。て。ん。草。鵠冠石 ケイクワンゼキ (礦) 硫黄と砒石との化合物、橙黄色にして光澤あり噴火山邊に存す。「ふ。鵠皮鶴髮 ケイヒカクハツ 老人をい

**鵠** 鵠鳴之助 ケイメイノタケ 婦人の内助をいふ。鵠助 ケキ。ギヤク。鵠に似て大なる一種の水禽。

鷓首 ケキ 鳥の形をへさきにつけたる船、貴人の乗る船。

鷓 シ シ。一種の水禽。うのさり。しまつじり。

鷓 コウ コウ。ク。鳥のひな。はぐくむ。ひよこ。たまご。ひな。

鷓 セキ セキ。シヤク。鷓に同じ。

鷓 ケン ケン。コソ。飛ぶ貌にいふ。かける。とぶ。

鷓 アウ アウ。ヤウ。うぐひす。てうせん。うぐひす。

鷓 アウ アウ。鷓の聲。

鷓 アウ アウ。鷓のうた。

鷓 アウ アウ。鷓のうた。

鷓 アウ アウ。鷓のうた。

鷓 カツ カツ。ゲツ。つぐみ。

鷓 ス ス。シユ。鳥の子。ひな。ひなどり。

十一畫

鷓 クワ クワ。カク。一み方。つる。

鷓 カ カ。鷓の如く緩りせる歩

鷓 カ カ。鷓の如く首をのぼす

鷓 カ カ。鷓の如く首をのぼす

鷓 カ カ。鷓の如く首をのぼす

鷓 カ カ。鷓の如く首をのぼす

鷓 カ カ。鷓の如く首をのぼす

鷓 シ シ。鷓・鷓など凡ての猛鳥の稱。

鷓 シ シ。荒く無慈悲なる。

鷓 シ シ。荒く無慈悲なる。

鷓 シ シ。荒く無慈悲なる。

鷓 シ シ。荒く無慈悲なる。

鷓 シ シ。荒く無慈悲なる。

鷓 シ シ。荒く無慈悲なる。

鷓 シ シ。荒く無慈悲なる。

鷓 シ シ。荒く無慈悲なる。

鷓 シ シ。鷓の頭上の毛。

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。たか。あらどり。

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。たかの子。又鷹仔に作る。

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。たかの眼。鷹の如く

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。たかがりに用ゆる

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。鷹を放ちて狩りする

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。鷹を放ちて狩りする

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。鷹を放ちて狩りする

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。鷹を放ちて狩りする

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。鷹を放ちて狩りする

鷓 ヨウ ヨウ。オウ。鷹を放ちて狩りする

鷓 ヘツ ヘツ。ヘチ。きんけいてう。

鷓 シヤウ シヤウ。みそささい。

鷓 セン セン。ケン。あらどり。

鷓 ハ ハ。やぶさ。

鷓 ロ ロ。リヨ。う。

鷓 アウ アウ。ヤウ。

鷓 アウ アウ。ヤウ。

鷓 アウ アウ。ヤウ。

鷓 アウ アウ。ヤウ。

鷓 アウ アウ。ヤウ。

鷓 アウ アウ。ヤウ。

鷓 ラ ラ。鷓と風凰と。昔き配偶をほめていふ語。

鷓 ラ ラ。天皇のめさせ玉ふ乗もの。屋根の中央に鷓鳥の飾あり。又鷓駕といふ。

鹵部

鹵 ロ ロ。ソリ。とらへるしほつち。不毛の地。やせ地。荒地。

鹵 ロ ロ。ソリ。とらへるしほつち。不毛の地。やせ地。荒地。

鹵 ロ ロ。ソリ。とらへるしほつち。不毛の地。やせ地。荒地。

鹵 ロ ロ。ソリ。とらへるしほつち。不毛の地。やせ地。荒地。

鹵 ロ ロ。ソリ。とらへるしほつち。不毛の地。やせ地。荒地。

鹵 ロ ロ。ソリ。とらへるしほつち。不毛の地。やせ地。荒地。

鹵 ロ ロ。ソリ。とらへるしほつち。不毛の地。やせ地。荒地。

鹵部

鹵簿 ロホ 天子の行列。行幸の儀。仗。①を拜す。「地」。

鹵

鹵瘠 ロホキ 石がちにてやせたる鹵獲 ロホク 敵軍の軍器其他の動産を捕獲すること。①敵砲。

鹵

鹵鹹 ロカン しほはゆきと。エン。オン。しほ。

鹵

鹵水 カスネ しみみづ。うしほ。鹹草 カセウ あしたぐさ。海邊に生ずる草の名。「ち」。

鹹

鹹味 カシ しほからき味。しほめ。鹹地 カシ しほはま。「もの」。

鹹

鹹魚 カシゴ しほづけの魚。しほ過 カシゴ しほからずさる。鹹湖 カシコ(地) 鹹水を湛ふる湖。すへて排水口を有せざるもの。鹹濕 カシラ しほけのしめり。鹵鹹蛋 カシラ しほづけの卵。「斥」。

鹵部

鹽 塩 エン。ケン。しほのこり。かたまれるもの。カン。ケン。しほみづ。エン。オン。しほ。(化)酸の水素を金屬元素にて置換したる化合物。

鹽

鹽丁 モシイ しほやき。鹽田に使用する男。

鹽

鹽水 モスネ しほ水。鹹水に同じ。鹽戸 エモコ しほ屋。

鹽

鹽分 モシイ しほけ。①を含む。鹽田 エンエン しほはま。しほを作する場所。

鹽

鹽池 モシチ 鹽水の池。鹽酸 エンシ(化) 鹽化水素の水にとけたるもの。鹽梅 アンパイ 食物の鹽。加減。うめぼし。①を試む。

鹽

鹽精 エンシ(化) 鹽と硫酸とを混じ熱を加ふれば發火する瓦斯體。

鹵部

鹽艇 モシイ しほを積む船。鹽素 エシ(化) 氣體元素の一、鹽の主成分にして能く溶解す。鹽酢 モシイ しほと酢と酒と醬油と。味噌の異名。

鹽

鹽基 モシキ(化) 酸類と化合して鹽酸を作り得べき化合物の稱。

鹽

鹽化物 モシクワ(化) 鹽素と他の元素との化合物。

鹽

鹽化銀 モシクシ(化) 白色の粉末水及酸に溶解せず日光にあたられば紫黑色に變ず。

鹽

鹽風呂 シホラロ 潮水をわかつて浴する湯。しほゆ。

鹽

鹽化水素 モシクスガ(化) 鹽素と水素との直接化合によりて生ずる無色の氣體。

鹿部

鹿 ロク。しか。さなしか。ふもと。こめぐら。

鹿部

鹿毛 カ 茶色にて鹿の毛に似たる馬の毛色。

鹿

鹿茸 ロクサ とりで。樹竹等の枝を以て敵軍の容易に近づき能はざる防禦物を作れるもの。

鹿

鹿鳴 ロクイ 鹿の鳴きこゑ。嘉賓を饗應すること。

鹿

鹿柵 ロクサ 木を立て並べて獸などの通行をさまたぐるもの。

鹿

鹿角 ロクカ しかのつゝの。

鹿

鹿茸 ロクサ 鹿のふくろつゝの。

鹿

鹿火屋 カキ 鹿猪などが田畑を荒すを防ぐためにその邊にて火を焚く假屋。

鹿

鹿尾菜 ロクビイ(植) 褐色藻類に屬する海草、海中の岩石に着生し鼠の尾に似て黒く食用に供せらる。

鹿

鹿野苑 ロクエン 釋迦のほじめて法を説きたるまゝの。しかのそ。

鹿

鹿角砦 ロクカサキ(植) かもぎ。「の」。

鹿

鹿角菜 ロクカサキ(植) ふのり、紅。

鹿部 二一四畫

鹿 鹿 イウ。ウ。めじか。

鹿

鹿鹿 イウウ。めじか。

鹿

鹿鹿 鹿鹿 イウウ。めじか。

鹿

鹿鹿 鹿鹿 イウウ。めじか。

鹿

鹿鹿 鹿鹿 イウウ。めじか。

鹿

鹿鹿 鹿鹿 イウウ。めじか。

鹿

鹿鹿 鹿鹿 イウウ。めじか。

鹿部 五十八畫

麀 シユ。ス。鹿に似て大なる鹿。しゆび。ほつし。

麀

麀尾 シユビ 白鹿の毛を束ね柄をつけたる僧具。ほつし。

麀

麀麀 シユシユ。鹿の屬にて水牛に似たるもの。なれじか。

麀

麀麀 麀麀 シユシユ。鹿の屬にて水牛に似たるもの。なれじか。

麀

麀麀 麀麀 シユシユ。鹿の屬にて水牛に似たるもの。なれじか。

麀

麀麀 麀麀 シユシユ。鹿の屬にて水牛に似たるもの。なれじか。

麀

麀麀 麀麀 シユシユ。鹿の屬にて水牛に似たるもの。なれじか。

鹿部 五―八畫

麗質 レイシツ 清らかなる生れつき

麗麗 レイレイ 人目に立つさま又は

麗飾 レイシヨク うららかに立派に

麗艶 レイエン うるはしくつや／＼

麗好 レイカウ 甚だ美しきこと

鹿因 キクイン キン。クシンのろ。

鹿至 キクシ 悉くあつまること。群り

鹿集 キクシツ より集まること。

麓野 ロクヤ 麓にある林。

麒麟 キリン 支那にて聖人の出る

麒麟兒 キリンニ 俊秀の少年をいふ

鹿部 九畫以上

麒麟竭 キリンキョク 一種の血止薬、膠

麋 メイ 鹿の子。

麋鹿 メイロク 鹿のよき鹿の肉。

麋香 メイカウ 鹿のよき鹿の肉。

麋子 メイシ 鹿の子。

麋鹿 メイロク 鹿のよき鹿の肉。

麋香 メイカウ 鹿のよき鹿の肉。

麋子 メイシ 鹿の子。

麋鹿 メイロク 鹿のよき鹿の肉。

麋香 メイカウ 鹿のよき鹿の肉。

麋子 メイシ 鹿の子。

鹿部 九畫以上

麝香猫 ジカウキョウ (動) 熱帯地方に

麝香鼠 ジカウキョウ (動) 形ねすみ

麝香 ジカウキョウ 麝の香気ある

麝 ジカウ 麝の香気ある

麝香 ジカウキョウ 麝の香気ある

麝 ジカウ 麝の香気ある

麝香 ジカウキョウ 麝の香気ある

麝 ジカウ 麝の香気ある

麝香 ジカウキョウ 麝の香気ある

麝 ジカウ 麝の香気ある

麝香 ジカウキョウ 麝の香気ある

麥部

〔麥〕

むぎ。芒ある穀。

麥芒 バクマウ 麥ののぎ。「る原料。

麥芽 バクガ むぎのもやし、餡を作

麥草 バククシ (植) しやうろの一名。

麥奴 バクド 麥の黒穂。

麥秀 バクシウ 郷里の衰へたるを嘆

麥雨 バクウ さみだれ。さつきあめ

麥酒 バクシユ 麥麴にて醸したる酒

麥屑 バクセツ 引わり麥。「ビール。

麥粉 バクコン 麥のこな。

麥秋 バクシウ 陰曆五月の異稱。麥

麥飯 バクハン むぎめし。

麥黃 バクワウ 小麥のかりぢ。

麥湯 バクチュウ 大麥のいり焦したる

の飲料とす。

麩 フ むぎのふすま。

麩子 フシ 麥を粉末にせるもの。

麩架 フカ さうめんかけ。

麥部

麥部

麥部

麥稈 バクカン むぎわら。

麥隴 バクロウ 麥をうえつけてある

麥穂 バクホ むぎばたけ。①稻田。

麥門冬 バクモントウ (植) やますげ。

麥芽糖 バクガタウ (化) 麥芽中の醱

麥飯石 バクハンセキ (礦) 山谷の間よ

り産し、その状麥飯をまるめた

るが如し。

麩 フ むぎのふすま。

麩子 フシ 麥を粉末にせるもの。

麩架 フカ さうめんかけ。

麩包 フホウ 小麥粉に麥芽を加へ水

麩 フ むぎのふすま。

麩子 フシ 麥を粉末にせるもの。

麩架 フカ さうめんかけ。

麩包 フホウ 小麥粉に麥芽を加へ水

麩 フ むぎのふすま。

麩子 フシ 麥を粉末にせるもの。

麩架 フカ さうめんかけ。

麩包 フホウ 小麥粉に麥芽を加へ水

麩 フ むぎのふすま。

麩子 フシ 麥を粉末にせるもの。

麩架 フカ さうめんかけ。

麩包 フホウ 小麥粉に麥芽を加へ水

麻部

### 麻部

**【麻】** マ。マ。あさ。を。こ。ま。あさの着物。喪服に用ゆるしる布の着物。

麻衣 マイ あさの着物。喪服に用ゆるしる布の着物。

麻子 マシ あさの實。

麻仁 マジ あさの實。

麻布 マフ 麻絲にて織りたる布。

麻油 マエ あさの實より取れる油

麻垂 マダレ 漢字の冠の名、麻床などの字の上にある尸の字の稱。又麻冠といふ。

麻疹 マシシ はしか、疱瘡の類の病氣、皮膚に赤斑を生じ喉のいちちて渴するもの、子供に傳染し易し。

麻幹 マカン 麻の莖の皮をほぎた

麻索 マサク あさなは。

麻雀 マジヤク まだらすすめ。

麻枷 マカ 麻をまとふ具。

麻部

麻衫 マシシ あさの着物。あさのかたひら。

麻櫛 マカイ あさがら。ながら。

麻鞋 マイ 麻にてあみたるわら

麻履 マリ あさざうけ。

麻繩 マシヤウ あさなわ。

麻子油 マシエ 麻の實より取れる

麻利子天 マリテン (佛) 惡鬼神の名、後世誤りて武勇の神として祭る。

**【磨】** キ。さしまれく。

麾下 キカ はたもと。

磨呼 キコ さしまれきよぶと。

磨兵 キヘ 麾下の兵卒。

**【磨】** マ。マ。細し。こまかし。

(國字) マロ。われ。おのれ。丸。そばた。おまへ。昔人の名に添へて用ゐたり。

黄部

### 黄部

**【黄】** クワウ。ワウ。こがれ。き。さいる。

黄土 ワウド 黄色の土。めいど。

黄口 クワウコウ 幼き人。年若き人。青年。又黄吻といふ。

黄巾 クワキン 支那漢の頃の賊。

黄天 クワテン おほぞら。

黄色 クワシヨウ きいろ。

黄門 クワモン 中納言の唐名。

黄化 クワワツ (植) 葉綠素次第に分解して遂に黄白色になること。

黄牛 クワウゴウ あめうし。

黄石 クワウセキ 硫黄の異名。

黄白 クワウハク 黄色と白色と。金錢の異稱。

黄昏 クワウコン ゆうぐれ。たそがれ。夕方。

黄香 クワウカウ まつやに。

黄純 クワウジュン 陰曆十月の異稱。

黄部

黄泉 クワウエン よみぢ。地中のいづみ。人の死後魂のゆくべき所。めいど。よみぢ。

黄帝 クワウダイ 支那にて神農に次ぎて世に立ちしみかどの名。

黄面 クワウメン きばめる顔。

黄丹 クワウタン 紅花と梔子とにて染めたる濃き梔子色の如き染

黄金 ワウジン こがれ。きん。「色。黄疽 ワウタン 皮膚・眼・小傾に至るまで悉く黄色になる病氣。

黄葉 クワウエフ (植) 葉綠素分解して黄色を呈する葉。「の熱病。

黄熱 クワウネツ マラリヤ性の一種

黄燐 ワウリン (化) 通常の燐。稍黄ばめるを以て赤燐と分つ爲に此稱あり。「述べる學。

黄老 クワウラウ 黄帝と老子とを祖

黄花 クワウカウ 黄色の花。菊の異名

黄道 クワウダウ 地球の太陽を一週する道。よきひがら。

黄書 クワウショ 佛書の異名。

黄部

黄梅 ワウバイ (植) 木犀科に屬し三個の小葉を有し六瓣の黄花を開く。

黄鳥 クワウニョウ 鶯の異名。「名。

黄雲 クワウウン きいろの雲。酒の異

黄斑 クワウハン 眼珠の最奥網膜の一凹點。

黄筍 クワウジュン たげのこ。

黄髮 クワウハツ 老人の白髮の變更して黄ばみたるもの。

黄楊 ヲウ (植) 常綠葉を有し材堅く白くして印材等に用ふ。

黄銅 ワウドウ しんちうの異名。

黄龍 クワウリョウ 清國々旗の標し。

黄熟 クワウジュク 熟して黄ばむと。

黄精 ワウセイ (植) なるこゆりの異

黄鼠 ワウ (動) てんの異名。「名。

黄卷 クワウケン 書籍の異名。

黄塵 クワウジン 黄なる土けむり。厭はしき世間の俗事。一萬丈。

黄耆 クワウキ 七八十の老年者。

黄緯 クワウイ (天) 黄道より天體に

黄部

至る角距離。

黄經 クワウケイ (天) 春分點より黄道に沿ひて測りたる天體の角距離。「守護する神。

黄幡 ワウバン 入將軍の一、軍陣を

黄櫨 ワウロ (植) はじ。ばぜ。

黄鐘 ワウヂョウ 十二律の一。陰曆六月の異稱。

黄玉石 クワウギョクセキ (礦) 黄色無色又は青綠色の透明なる結晶をなせる石、水晶よりも固く且つ重し。トツパース。

黄表紙 キベシ 草双紙の一種、表紙の色の黄なるもの。

黄禍論 クワウカワロン 歐米諸國にて東洋の黄色人種跋扈して遂に白色人種に禍を及ぼすとの杞憂を抱き黄色人種を斥くべしと唱へたる論。黄人禍。

黄蘗宗 ワウハクシヨウ 禪宗の一派、承應二年明僧隱元歸化して開きたるもの。

黄部

**黄鐵鑛** タウロウクワウ (鑛) 硫黄と鐵と化合し眞鍮の如き色を帯べるもの。

**黄口兒** タウロウコウジ 幼年者又は無經驗者をのしりていふ語。

**黄銅鑛** タウロウドウクワウ (鑛) 黄金色の微小なる結晶を有する銅鑛。

**黄熟香** タウロウジュクカウ 熱帯地方より舶來する一種の香料。

**黄櫨染** タウロウロセン 天皇の御袍の染色の稱、黄色にして桐竹鳳凰などの紋あるもの。

**黄道吉日** タウロウドウキツニチ 物事をなすにさばりなき日。よきひから黄綬褒章 タウロウジュハウシヤウ 私財を献納して海防の事業を賛するものになまばりし褒章。

**黄金政略** ワウジンセイリヤク 金錢を興へ其慾心を買ひて己が味方となし以て事を行ふ政略。

**黄金時代** ワウジンジダイ 最も進歩發達して缺陷なき時代。

黍部

**黄絹幼婦** ワウケンユウフ 字句の絶妙なること。

**覺** クワウ。ワウ。學舎。まなびどころ。

**黍部**

**黍** ショ。ツ。きび。穀類の一種。レイ。ライ。もろもろ。たみ。くるし。ころ。くづの

**黎** レイ。イ。あけがた。黎明 レイミン 天下の萬民。あなひとくさ。又黎首。黎庶といふ。

**粘** デン。ネン。つく。ねばる。藕の類。黏絹 デンケン 練りてやばらかにしたるきぬ。

**藕** チ。もち。烏などを捕ふに用ゆるもの。「繩。藕竿 チン。さりもちを塗りつけ

黒部

たる竿。もちざな。

**黒部**

**黒** コク。くらし。くろ。きび。

**黒人** コクジン くるんぼ。黒色人種に屬する人。

**黒子** コクシ ぼくろ。あざ。ちひさきもの。彈丸の地。

**黒土** コクド 黒色の土。百分中二十以上の腐植物を含有し輕鬆なる土壤。

**黒色** コクシヨク くるきいろ。「名。黒丑 コクシュウ (植) あさがほの黒衣 コクイ 黒色のきもの。すみぞめの衣。「ろきと。

**黒心** コクシン 無慈悲の心。はらぐ

**黒羊** コクヤウ ぶた。

**黒白** コクハク 黒と白と。よしあし。暗きさあきらかなると。一を分つ。

黒部

**黒奴** コクド 黒人。くるんぼ。

**黒印** コクイン 黒肉にて押したる印形。すみつき。「ろご。

**黒板** コクバン くるぬりの板。ほ—

**黒炭** コクタン (鑛) 色の黒き石炭。火中に投入すれば黒烟と異臭とを放ちて燃ゆ。

**黒毯** コクキヤ 投票に用ゆる黒玉。否決の意を表はす。「てん。

**黒圈** コクケン くるぼし。黒きけん

**黒夜** コクヤ くらやみ。やみの夜。

**黒烟** コクエン くるげぶり。「天を蔽ふ。「紋所。

**黒餅** コクチ 正圓の中に模様なき

**黒線** コクセン 黒色のすぢ。「き人。

**黒頭** コクトウ 髪くるき頭。年わか

**黒肉** コクニク くるいりの印肉。

**黒鉛** コクエン (鑛) 大理石などに混じて出づ。鉛筆を製するに用ゆ

**黒晦** コクワイ まつくら。「たら。

**黒斑** コクハン くるぶち。黒色のま

**黒雲** コクウン くるくも。「天に

黒部

漲る。

**黒影** コクエイ 黒きかげ。かげぼ

**黒潮** コクチウ くるしほ。赤道地より流れ来る潮にして黒き藍色を爲す。「の。

**黒睛** コクセイ 眼の中にある黒きもの。

**黒漆** コクシツ くるうるし。黒色のうるしの如く光澤ありて深黒なること。

**黒檀** コクタン (植) 熱帯地方に産し色黒く麗しくして堅し。

**黒點** コクテン 黒色の點。くるぼし。

**黒幕** コクマク 芝居などにて用ゆる黒き幕。かげに居て後援するも

**黒頭公** コクトウキョウ 筆の異名。「の。

**黒障眼** コクショウガン そこひ。眼の病の名。又黒内障といふ。

**黒耀石** コクエウセキ (鑛) 玻璃質火山岩の一種。質脆く黒色又は赤褐色なり。

**黒死病** コクシビヤウ 黴菌の作用によりて身體黒化して死に至る

黒部

病。ハスト。「馬の毛色。

**黒栗毛** コククリゲ 栗毛の黒みたる

**黒衣宰相** コクイサイサイヤウ 僧侶にして君王を輔佐し大政に參與するもの。稱。

**黒色人種** コクシヨクジン シュ 皮膚黒色にして髪黒く鼻平く額の中央突出したる特徴ある人種。

**三―五畫**

**黔** ケン。ゴン。くろし。黎と同意。

**黔黎** ケンレイ 色くるきと。

**黔首** ケンシュ 人多ければ頭黒く見ゆるを以て人民を黔首といふ。又黔庶といふ。

**黔雷** ケンライ 神の名。ボク。モク。おふ。くろし。だまる。しづか。かすか。

**默契** モクケイ いひ合されど互に意志の一致する。

黒部

**默視** モクシ だまつて見て居ると。  
**默許** モクキョ 知らぬふりにて許すこと。又默認といふ。  
**默諾** モクダク だまつて承知すること。默示によりてなす承諾。  
**默坐** モクサ 無言にて坐すること。  
**默止** モクシ 言すがまゝに黙してすておくと。干渉せざること。  
**默秘** モクヒ 秘していはざること。  
**默禮** モクレイ 言を發せずした敬禮すること。  
**默然** モクゼン だまりて。つくれん心によく理會すること。  
**默識** モクシキ 問ひ又は論せずして口をふさぎて。①に附す。  
**默黙** モクモク だまりて。もだして。口をふさぎて。②に附す。  
**點** テン 細小なる痕跡。しづく。ちよほ。ほら。ほら。し。ともす。そ。ぐ。う。な。づく。ゆびさす。(數)位置ありて大いさのなきもの。

**點水** テンスイ 水をさすと。水さし。  
**點心** テンシン 日々の常食の間に食ふ食物。茶うけの菓子。茶ぐわし。  
**點示** テンシ さし示すと。指し示す。  
**點汚** テンケ 詩歌俳句などの點を汚ける人。  
**點火** テンカ 火をつけること。さも。  
**點呼** テンコ 姓名を呼びて人員の揃へりや否やを調ぶること。  
**點茶** テンチャ 抹茶を湯にたつこと。  
**點查** テンサ さんみすること。  
**點起** テンキ ながすと。  
**點化** テンカ 體裁をつくりかふる。  
**點額** テンガク 試験に落第すること。  
**點染** テンゼン 染るほひそむること。  
**點字** テンジ 點を組み合せたる文字の符號。  
**點附** テンブツ 漢文の返點のつきた。  
**點取** テンク 點數の多寡によりて優劣又は勝負を争ふこと。

**點畫** テンクワク でんとくわくと。ぼちとすちと。漢字の書き方。  
**點瑕** テンカキ しみ。かきん。  
**點滴** テンテツ あまだれ。したたり。  
**點檢** テンケン しらぶること。一々あらたむること。  
**點頭** テントウ うなづくこと。  
**點燈** テンテイ あかりをつけること。ともし火をつくること。  
**點數** テンシュ 點のかす。評の數。  
**點線** テンゼン 點よりなれる線。……の如し。  
**點發** テンパツ 漢字の四隅に圈をつけて四聲を分つこと。  
**點綴** テンテツ 斷續してつながること。つりあはすること。  
**點點** テンテン 點をうちたるやうに。そこちちにちりみだれたる貌。しづくのしたたる貌。  
**點藥** テンヤク 外部より患部に注ぎ入れるくすり。さしぐすり。  
**點算** テンサン (數)和算の代數學。

**點心舖** テンシンボ 菓子をうる家。  
**點眼水** テンガンスイ 病眼に注ぎて療治するに用ゆる水藥。さしぐすり。  
**點鬼簿** テンキボ 死者の名をしるしおく帳簿。過去帳。  
**點火時** テンカクキ 燈火を點すべき時刻。ゆふまぐれ。ゆふかた。たそがれ。  
**黝** イウ ウ。微に青みを帯びたる黒。あなぐる。かすか。  
**黝黒** イウコク 青味がかれる黒。  
**黝** チツ チュツ。くたす。しりぞく。おさす。  
**黝陟** チュツシヨ 上げさげすること。官職などを進め又は退くこと。  
**黛** タイ テ。まゆ墨にてかける眉。まゆ。まゆすみ。まゆすみの色。  
**黛青** タイセイ 青のまゆすみの色。  
**黛黒** タイコク 黒のまゆすみの色。

**點** カツ。ガチ。かたし。くろし。さがし。悪がし。こし。  
**點才** カサイ わる賢き才。  
**點奴** カド わるもの。  
**點惡** カクアク わるごすきと。はらあしきと。  
**點智** カチ わる賢さちふ。①にタウ。ともがら。なかま。むれ。くみ。かたよる。たぐふ。まじはる。  
**黨** タウ 友。なにかま。同一黨派に屬するもの。  
**黨人** タウジン 徒黨の人。なかまの人。政黨に屬する人。  
**黨紀** タウキ 黨の紀律。なかまの風規。  
**黨首** タウシュ 黨のなま。仲間のか  
**黨派** タウハ 徒黨のわかれ。徒黨。團結。  
**黨則** タウタク 黨の規則。又黨規と

**黨威** タウイ 黨の威嚴。  
**黨情** タウジヨ 黨の様子。黨の状況。  
**黨族** タウソク なかま。ともがら。  
**黨閥** タウバツ 黨派と門閥と。同一黨派のもの。相團結して他黨に屬するもの。進路を妨ぐる。きほひ。  
**黨勢** タウセイ 黨の勢力。黨派のい  
**黨綱** タウカウ 黨の紀綱又は政綱。又黨憲といふ。  
**黨與** タウヨ ながまのともがら。く  
**黨論** タウロン 黨の議論。  
**黨類** タウレイ なかま。ともがら。く  
**黨議** タウギ 黨の意見。黨の決議。  
**黨費** タウヒ 黨派の費用。  
**黨籍** タウキキ 黨に加入せるもの。名前帳。①を脱す。  
**黨派別** タウハク 黨派によりて區別を設くること。  
**黨同異伐** タウドワイバツ 同じ仲間の者は加擔しそれに違へるものは攻撃すること。

黒部 九畫以上

黧

レイ。リ。くろし。黒。

黧豆 リトウ ふじまめ。

黧面 リン くるすみたる顔。

黧黒 ヨク くるすみたると。

黧刑 ケイ。ギヤウ。いれずみ。「する刑。

九畫以上

黠

アン。オン。くろし。くらし。

黠黒

アノク。まつくろなると。

黷

クダス。おとす。筆を黷す。

黷毒 バイドク 多く交接より来る傳染病、陰部に小疹を生ずるに始まり次第に全身に蔓延して腫瘍を生じ骨節などに疼痛を起すもの。かさ。がんがさ。

黷菌 バイキン (植)肉眼にては見えぬほごの極めて細微なる下等植物、其細胞は纖維質の細胞膜に蔽はれたる原形質にして之を延長して發育するにより絲状を爲す、少しの營養分を得ればよく蕃殖す。

黠部

微敗 バイイ。やぶる。と。

微氣 バイキ。かさげ。

微菌學 バイキンガク 微菌に就きて研究する科學。

黧 黒 エン。ほくろ。あざ。

黧子

エン。ほくろ。あざ。

黠 黠 エン。ほくろ。あざ。

黠衣 フライ 昔の禮服。

黠 黠 エン。ほくろ。あざ。

黠 黠 エン。ほくろ。あざ。

黠 黠 エン。ほくろ。あざ。

黠部

黠

フ。ホ。あや。ゆひ。古の禮服に施したる一種の繡文。

黠部

黠

パウ。ミヤウ。ピン。つとむ。背かへる。

黠

ゲン。グラン。あもり。おほすつぼん。大龜。

黠

ゲン。グラン。あもり。おほすつぼん。大龜。

黠

ア。エ。古文の蛙の字。樂聲の淫猥なると。

黠

海がめ。大すつぼん。タ。ダ。セン。長さ丈餘にして體の如き甲ある海中の動物。

黠

龍の皮にて作れる太鼓。

黠

龍の類。

黠

龍の皮にて作れる太鼓。

黠

龍の皮にて作れる太鼓。

鼎部

鼎部

鼎

テイ。チャウ。かなへ。三足兩耳の金器。つなぐ。まさ。ゆるやか。のぶ。

鼎足 テイタ かなへのあし。三方に分れて對峙すると。①の勢

鼎立 テイリツ かなへの足の如く三方に分れて立つと。

鼎峙 テイシ かなへの足の如く山の三方に峙ると。

鼎沸 テイフツ かなへの湯が沸くやうに多くの人がかげしくさわぎたつと。①を極む。「ふ。

鼎食 テイシヨク 美味珍膳の食をい

鼎鹵 テイロウ 天地の象。天地。

鼎鑪 テイロ 鼎の形したる香爐。

鼎鑊 テイコク あしのある鼎とあしのなき鼎と。罪人を煮る釜。極刑にいふ語。

鼙

ダイ。ナイ。大かなへ。

鼙

シ。上すばまりて口挟き一種の小かなへ。

鼓部

鼓

コ。ク。つらみ。面に革を張りたる樂器。

鼓手 コシユ 太鼓つづみなどをうつ人。

鼓行 コカリ 太鼓つづみなどを打ち勢をつけて行くと。

鼓吹 コシヤ 太鼓をたたく笛をふくこと。音樂を奏すると。吹きたてると。天下に告げ知らずと。

鼓奏 コシヤ 太鼓などをならして音をたてると。

鼓動 コシヤ 心臓の血液循環によりて胸にたふるひびき。

鼓膜 コシヤ (生) 耳孔の奥にあり

鼓部

鼙

鼙部

鼙

ゲン。グラン。あもり。おほすつぼん。大龜。

鼙

ア。エ。古文の蛙の字。樂聲の淫猥なると。

鼙

海がめ。大すつぼん。タ。ダ。セン。長さ丈餘にして體の如き甲ある海中の動物。

鼙

龍の皮にて作れる太鼓。

鼙

龍の類。

鼙

龍の皮にて作れる太鼓。

鼙

龍の皮にて作れる太鼓。

鼙

龍の皮にて作れる太鼓。

鼙

龍の皮にて作れる太鼓。

鼙部

鼙

て外耳と耳の界をなす薄き膜。鼓腹 ヲク はらつらみを打つと。天下太平にして民の悦ぶ貌。鼓舞 ヲク 鼓をうちならして舞を演ぜしむると。はげますと。獎勵に至らざるなし。

鼙

鼓譟 ヲク 音をたてて、噪がしくすると。①として敵軍に迫る。

鼙

鼓樂 ヲク 太鼓を鳴らして音をたてると。

鼙

鼓聲 ヲク 太鼓つづみなどの、コ。ク。つらみうつ。うつ。ひく。なる。ホウ。ブ。

鼙

鼓の聲にいふ字。タウ。ドウ。

鼙

小鼓。ふりつらみ。

鼙

鼙鼓 タウ。杓のつきたる小鼓。調子を直すもの。

鼙

コウ。おほつらみ。長さ一丈二尺ある太鼓。



鼠部

【鼯】ヘイ。ハイ。うまのりつ  
ヲみ。琵琶に通じ用ふ。

鼠部

【鼠】シヨ。ソ。善く盗をなす  
一種の小獣。れすみ。う  
れふ。

鼠歩 ソホ。ちよ。ちよ。こばしり。  
鼠思 ソウ。れへると。心配する  
と。

鼠盗 ソウ。小ぬすびと。又鼠賊と  
鼠輩 スイ。とるに足らぬやから  
人をいやしめていふ語。

鼠窟 ソク。そこそこと逃げる  
鼠竄 ソク。こそこそと逃げる  
鼠竄 ソク。こそこそと逃げる

鼠婦 ソウ。わらじむしの一名  
鼠鬚 ソウ。筆の異名。  
鼠麴 ソク。みそばぎの一名。

鼠竊 ソウ。人にかくれてこそ  
と盗みする。鼠肝 鼠臂  
ソカンチウ。至小至微な

鼠部

鼠環燕石 ソルエンキ 悪人の物に  
通せずして眞偽を取り違ふる  
に喩ふ。

【鼠】シ。尾の雞に似たる鼠。  
ひでりれすみ。  
フン。ホン。田中の鼠。  
たれすみ。土鼠。  
セウ。

【鼯】古文の貂の字。  
セイ。ジャウ。  
むささび。いたち。  
イウ。ユ。

【鼯】いたち。  
セキ。ジャク。げら。  
をかつき。鼠の一種。  
ゴ。グ。むささび。  
ももんぐわ。

【鼯】イウ。むささびといたちと。  
語鼠 ム。むささび。もみ。

鼻部

語鼠技 ソウキ 拙劣なる技。  
【鼯】ケイ。ガイ。一種の小鼠。  
はつかね。もみ。

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠  
【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠  
【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠  
【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠  
【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠  
【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠  
【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠  
【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠  
【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠  
【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

鼻部

右各一對あり。

鼻腔 ビョウ。はなのうつろになり  
たる所。はなのあな。

鼻汗 ハナ。鼻端に汗をかくと。  
鼻藥 ハナ。少量の脂。子供を  
慰むる爲に與ふる菓子。

鼻風 ハナ。鼻腔に加答兒を起し  
て鼻汁の多く出づる感冒。

鼻鏡 ビョウ。鼻孔をのぞくために  
鼻にさす圓筒状の鏡。

鼻唄 ハナ。鼻にかゝりたる低聲  
にて小唄などなうたふと。頓着  
なく平氣で行ふと。

鼻祖 ち。はじめ。せんぞ。元祖。  
鼻柱 ビョウ。はなの左右の隔ての  
肉。はなばしら。「一」を伺ふ。

鼻息 ぢ。はないき。きげん。  
鼻莖 ビョウ。はなすぢ。  
鼻音 ビョウ。氣息のはなに  
ふれて發する音。

鼻高 ビョウ。鼻を高くそら  
せあげて造りたる香。僧侶のは

くもの。はなたか。「ら」

鼻梁 ビョウ。はなすぢ。はなばし  
鼻液 ビョウ。はなみづ。はなしる。

鼻準 ビョウ。はなさき。「繩」  
鼻環 ビョウ。牛のはなに通ずる輪  
鼻渣 ビョウ。鼻腔の中に  
鼻液と塵との相混じて生ずる  
固まり。

鼻端 ビョウ。はなのさき。又鼻頭と  
鼻繩 ビョウ。はなすぢ。はなな。

鼻聲 ビョウ。はなにかゝる。こゑ。涙  
にむせびて鼻のつまりたる聲。

鼻下長 ビョウ。女に迷ひやすき  
と。女色におぼれやすきと。又  
その人。先生。

鼻障子 ハナ。鼻腔の隔壁。  
鼻折鯛 ハナ。鼻の折れ鯛。まだひの  
一種。其の頭部方形にして鼻の  
折れたるが如く見ゆ。

【鼯】いびき。ねいき。  
鼯睡 カン。いびきをかきてよく

鼻部

鼻部

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

齊部

眠ると。「の如し」

鼯聲 カン。いびきの聲。雷  
鼯雷 カン。いびきの聲の高きと

鼯折る。あふむきげな。  
コウ。ケウ。ケウ。

鼯熱 コウ。せきの出る病。ぜん  
コウ。コウ。コウ。

鼯息 カン。いびき。

鼯鼻 カン。いびき。

鼯鼻 カン。いびき。

鼯鼻 カン。いびき。

鼯鼻 カン。いびき。

齊部

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

【鼯】エン。オン。おごるもち。  
もぐらもち。一種の土鼠

齊部

齊列 サイレイ そろひならぶと。そろへならぶと。①一堂にす  
 齊車 サイシャ 帝王の侍させ玉ふこがれ色のくるま。②くま。  
 齊眉 サイメイ 妻がふく夫にかしづ齊家 サイカ 家をとへのへると。家内の不道德のことなきやうにする。③治國の道。  
 齊和 サイワ やばらぎ合ふと。  
 齊物 サイモノ 物に對して區別を立てざる。平等界に立ちて萬有を觀察すること。  
 齊平 サイヘイ とのひて平かなる  
 齊民 サイミン 無位無官の人民。  
 齊射 サイシャ 多くの銃砲又は矢なごを一時に放つと。  
 齊軌 サイキ 規則を同ふすると。  
 齊進 サイシン ひさしく進むと。一列に進むと。  
 齊律 サイリツ 調子をそろへると。  
 齊備 サイビ そろひそなはると。  
 齊唱 サイシャウ 一同にうたふと。同

齊部

時に發言すること。「たると。  
 齊等 サイトウ ひとしきと。そろひ  
 齊盟 サイメイ ちかひあふと。  
 齊調 サイテウ 調子のそろふと。  
 齊整 サイテイ ことのひそろふと。  
 齊聲 サイセイ こゑを揃へると。  
 齊東野人 サイトウヤジン ものを知らぬなむもの。  
 齊東野人語 サイトウヤジンゴ 妄誕取るに足らざるうばさ。ものを知らぬ田舎もの。とりさた。  
 齊女 サイメ いみきよまはりて神に仕へる女。「ごする日。  
 齋日 サイジツ ものいみ日。精進な齋食 サイシキ 程度を立て、口舌の嗜慾をとのふる。法會の施食。  
 齋主 サイシュ 祭主。神主。神をまつ

齊部

齋王 サイウ 伊勢と加茂との神に仕へ奉る内親王又は女王の稱。いつきのみこ。  
 齋立 サイタテ 弓を射る時齋戒する  
 齋如 サイニ いみつ、しむ有饒。  
 齋米 サイメ 僧侶の食とする米。ひじ米。  
 齋戒 サイゲ 物忌みして身を清めると。思慮意念を慎み心を專一清明に守ると。①沐浴。  
 齋車 サイシャ しがれ色に飾れる祭の車。「る斧。いむなの。  
 齋斧 サイブ 不潔を祓ひきよめた  
 齋兒 サイジ かしづき育つる兒。  
 齋居 サイキ いみ清まりて居ると  
 齋服 サイフク 白き布又は絹にて製し祭典の時着るもの。  
 齋屋 サイヤ 齋戒なごする時こもり居る堂。  
 齋院 サイエン 齋王の居ます宮。昔加茂神社につかへられし内親王。

齊部

齋宮 サイミヤ いつきのみや。伊勢と加茂との社宮におはします内親王又は女王を呼び奉る。  
 齋敬 サイケイ ものいみつ、しむと  
 齋殿 サイテン いみ清めたる殿。  
 齋場 サイチャウ 神をまつるためにいみ清めたる場所。「ご。  
 齋肅 サイソウ きびしくつしむ  
 齋勤 サイキン 神事に用ゐる勤。  
 齋潔 サイケツ 物忌みして身をきよむること。  
 齋庭 サイテイ 神おろしたとり行ふ  
 齋嚴 サイガン きびしくつしむと  
 齋宮寮 サイミヤシヤウ 齋宮のこゝをつかさどりしつかさ。  
 齋院司 サイエンシ 齋院のこゝをつかさどりし司。  
 齋田鹽 サイデンシホ 阿波國齋田(撫養)地方より生ずる鹽。  
 齋 サイ セイ。サイ。おくる。もたらす。持行く。  
 齋刺 サイシ 名刺をさし出すと。

齒部

齋 サイ セイ。サイ。くだく。さざみな。なます。  
 齒部 シブ シ。は。動物の上顎の下面と下顎の上面とに生ずる白色にして骨に類するもの。よはひ。たぐひ。年。  
 齒列 シリツ よはひする。ならぶ  
 齒代 シダイ 人力車なごの借用賃。  
 齒牙 シガ はさきばと。言葉のはし。口の論。①にかくるに足らす。  
 齒固 シコ 古正月元三日の内歯を固むる爲めさて鹿・猪などの肉を食せしこと。後世に至りて餅を用ふること。なれり。  
 齒老 シラウ 年齢の長けたると。  
 齒朶 シダ (植)羊齒類に屬する植物の總稱。葉は羽狀複葉にして

齒部

表青く裏白く莖は地下莖にして毛茸あり。うらじろ。  
 齒托 シタク 用向。用事。  
 齒序 シジョ 年齢の順序。年齢によりて順序を立つると。  
 齒危 シキ 年老いて居ると。  
 齒車 シガクルマ 輪のまはり時刻ある車。諸機械を運轉するに用ゆ  
 齒軋 シガリン 歯がみをする。歯をかみ合せて音さすると。  
 齒音 シオン カキタケコなどの如く歯にふれて出づる音。  
 齒根 シコン はぐき。  
 齒近 シキン はぐき。  
 齒釜 シク 縁につばのある釜。茶  
 齒痛 シツウ はのいたみ。歯のうづさ。  
 齒齡 シレイ としげえ。よはひ。  
 齒肥 シヒ そつば。「の乳。  
 齒槽 シヤウ 歯の根をはむる顎骨  
 齒質 シヤク 殆んど歯の全體を造れる石灰分にて成れる物質。

**齒黑** ハクロ 鐵を酒に浸して酸化せしめたるもの、齒を黒く染むるに用ふ。

**齒德** ショク 年長じ且つ徳高きをいふ。高齢の人。

**齒蠹** シト 虫。むしば。

**齒類** シル 牙。なま。 「る醫者。」

**齒科醫** シクイ 専ら齒を治療す

**齒敵舌存** シヘゼツン 強は死して弱は存するに喩ふ。

**齒輪軌道** シリンギダウ ラツクと稱する鋸齒狀の軌條にして之を普通の鐵道軌條の中央に設け機關車内部の齒輪車と相かみ合ひて坂路を列車の昇降するに便なる装置をいふ。

二一五畫

**齒** シン。ソソ。いとけなし。齒のぬけかばる年ごろ。

**齒童** シドウ 齒のぬけかばる年頃。即ち七八才の小兒。

**齒** コツ。ケツ。かじる。かむ。

**齒昨** キツク 強くかみつくと。かみ喰ふと。

**齒** ギン。ゴン。齒の本の肉。はぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** ばぐき。齒あらはる。

**齒** 群棲し生産力極めて大なり。ク。コ。

**齒** 齒の朽ち缺けたる病。ギヨ。ゴ。

**齒** くひちがふ。シユク。ソク。はざしり。うやうやし。そるふ。孔を開く具。

**齒** キウ。ク。うすば。白の如くに中の凹める齒。ゲイ。ガイ。老人の齒の脱落して更に生えたる齒。みづば。

**齒** 靨齒 九十歳頃の老人。年をとつて齒のぬけたる後に又更に生えたる齒。

**齒** サク。シヤク。物をかむ。かむ。

**齒** アク。オク。麗謹又は覺りの意味。

**齒** 九畫以上

**龍** リヨウ。リユウ。想像上の動物、體軀は大蛇に似て背に八十一の鱗あり頭に二本の角を有し四足各五本の指を具し耳面共に長く口邊に大なる鬚あり、能く雲を起し雨を呼び神靈測り難きもの。たつ。俊傑の稱に

**龍** リヨウ。龍の模様。「の神。」

**龍** リユウ。海を支配する夫婦

**龍** リヨウ。皇太后の敬稱。

**龍** アツク つまらぬとにこせ

**龍** ク。コ。むしば。

**龍** むしばむ。くされ齒。

**龍** 龍部

**龍** リヨウ。リユウ。想像上の動物、體軀は大蛇に似て背に八十一の鱗あり頭に二本の角を有し四足各五本の指を具し耳面共に長く口邊に大なる鬚あり、能く雲を起し雨を呼び神靈測り難きもの。たつ。俊傑の稱に

**龍** リヨウ。龍の模様。「の神。」

**龍** リユウ。海を支配する夫婦

**龍** リヨウ。皇太后の敬稱。

**龍** リヨウ。龍の模様。「の神。」

**龍** リユウ。海を支配する夫婦

**龍** リヨウ。皇太后の敬稱。

**龍** リヨウ。龍の模様。「の神。」

**龍** リユウ。海を支配する夫婦

**龍** リヨウ。皇太后の敬稱。

**龍** リヨウ。龍の模様。「の神。」

**龍** リユウ。海を支配する夫婦

**龍** リヨウ。皇太后の敬稱。

**龍** リヨウ。龍の模様。「の神。」

**龍** リユウ。海を支配する夫婦

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

**齧** カツ。ケチ。かむ。くらふ。

龍部

龍宮 リウウク たつのみやこ。かひのみやこ。わたつみのみや。紫貝宮。

龍孫 リウサン 人の孫の敬稱。

龍陽 リウヤウ 男色のこと。

龍章 リウシヤウ 天子のめしもの。龍の模様。

龍孫 リウサン 符の異名。

龍眼 リウガン (植) 熱帯地方の喬木にて其實の核中の實を龍眼肉といひ薬用に供す。

龍駕 リウカ 天子の御のりもの。

龍軻 リウカ 天子のおめしの船。

龍紋 リウモン 白地の絹布にして地厚く緯糸のなり目を高くしたる織物。

龍燈 リウテイ 海上にもゆるが如く見ゆる燈火。しらぬひ。

龍旗 リウキ 支那の國旗、黄色の地に青龍を染出したるもの。

龍腦 リウノウ 樟腦を精製したるもの。薬用とす。

龍部

龍腰 リウウ 倫の異名。

龍淵 リウエン 硯の異名。

龍蹄 リウテイ すぐれたる馬。天子の御乗用の駿馬。

龍焚 リウキ (植) こなすび。

龍象 リウシヤウ (佛) 智行併せそなへて徳高く甚だ衆にすぐれたる僧侶。

龍頭 リウウ 釣鐘の上に龍の形したるもの。たつがしら。捻ちてせんまいを巻くために懷中時計などの頭にある装置。

龍集 リウシュウ 年の下に書く語。明治四十二年一月。

龍顏 リウガン 天子の御顔。麗草、竹に似たる卵状楕圓形の葉を有し秋筒状紫色の花を開く。觀賞川として栽培せらる。

龍膽 リウタン (植) 龍膽科に屬する草。竹に似たる卵状楕圓形の葉を有し秋筒状紫色の花を開く。觀賞川として栽培せらる。

龍鐘 リウシュウ 老人の衰態をいふ。

龍樓 リウロウ 皇太子の御殿。

龍部

龍蟻 リウギ 勢力の盛んなること。

龍體 リウタイ 天子のみからた。

龍涎香 リウセンカウ 抹香鯨の腦にある香料。

龍頭卷 リウウマキ 頭に龍頭のあつくりかたの懷中時計。

龍尾道 リウビドウ 禁中の大極殿へ正面より向ひて進むところの石階。

龍吐水 リウトスイ 消火器の一種。ポンプ仕掛にて水を注ぎ出すもの。

龍騰水 リウトウスイ たつまさき。

龍骨車 リウコウシャ 水を田に注ぐ器械、車輪の状を爲し水を跳ねあぐる爲に其の周圍に幾多の板を横に装置し人力を以て之を回轉するもの。

龍骨車 リウコウシャ 消火器の用具、大なる匣の中に押上ポンプの装置を爲し上に横木の把手を設け匣中に水を入れ其の横

龍部

木を上下して水を弾き出すもの。

龍頭蛇尾 リウウツウビ はじめ盛にして終りの衰ふるをいふ。

龍頭鷄首 リウウツウケシユ 天子の御座船の稱。「才あるをいふ。」

龍駒鳳雛 リウコウホウスウ 幼にして龍樓鳳閣 リウロウホウカク 天子の居所。

龍驤虎視 リウシヤウコシ 世を睥睨するさまにいふ語。

龍蟠虎踞 リウパンコシヤク 一方に據りて雄威を振まふさまにいふ語。

龍 リウ 「語。あつし、充實せる意味。カン。コン。うく。もる。龍の貌にいふ字。たから

龍像 リウゾウ 佛像を安置するもの。

龍囊 リウノウ 物を容れ盛るもの。雷の聲にいふ字。

龍部

龜部

龜部

キヨウ。ク。そなふ。たてまつる。

龜ト キウ 龜の甲を焼きて行ふ。うらなひ。かめ。うら。又墨筵と

龜甲 キウカ かめの甲。「いふ。すなる」と。

龜背 キウハイ かめのせなか。

龜居 キウキ 膝をつきなる姿。

龜貨 キウカ 貨幣。

龜殼 キウカク かめの甲。「一す。ひびわれると。田面

龜裂 キウレツ ひびわれると。田面

龜算 キウサン ながいき。

龜齡 キウレイ ながいき。

龜鑑 キウカン かみ。てほん。國

龜部

龜甲形 キウカケイ かめの甲の如き六角形の上下左右に重なり並びたる模様。龜の甲を描ける紋所の名。

龜甲打 キウカウチ 紐の表に龜甲形を組み合したるもの。

龜 キ 古文の秋の字。

龜 キ コウ。ゲウ。龜の頭をさむるをいふ。ちむ。

龜 キ ベツ。すつほん。ごるがめ。鼈に同じ。

鼈甲 ベツカ (動) 熱帯地方の海に産する龜の一種、甲は黄褐色にして美しき黒斑あり。

鼈 ベツ かの一種。

鼈 ベツ かの一種。

鼈 ベツ かの一種。

龠部

龠部

龠部

ヤク。ふえ。三孔ある竹管の樂器。

俞部

〔蘇〕 クワ。ヤク。  
 古文の和の字。  
 ユ。ヤク。  
 〔顛〕 よぶ。呼ばふ。やはらぐ

訂正増補漢和中辭典終  
 熟語註解

明治三十八年十二月二十日印  
 同三十九年一月二十五日訂正印  
 同四十二年九月二十八日訂正増補印  
 同四十二年十月一日發

(増補五千部印刷之内)

定價金壹圓七拾錢

著作  
 權  
 登  
 錄

編修者 森 納  
 發行所 大阪市南區心齋橋筋一丁目六十七番屋敷  
 發行所 森 村 九 兵衛  
 發行所 大阪市南區心齋橋筋一丁目四十三番地  
 發行所 森 本 謙  
 發行所 東京市神田區猿樂町二十三番地  
 發行所 東京市京橋區本湊町一番地  
 發行所 東京市京橋區本湊町一番地  
 發行所 東京市日本橋區數寄屋町九番地  
 發行所 東京市神田區猿樂町二十三番地  
 發行所 大坂賣所 林 平次郎  
 發行所 東京市神田區猿樂町二十三番地  
 發行所 同 山海堂書店

216  
847

◎新開批評

○東朝日新聞  
○玉篇  
○鑑不日  
○字蓋今世  
○各字疑當  
○萬朝報  
○用萬朝報  
○初訓加  
○是便主特  
○を大に毎  
○を採り支  
○字を採集  
○せらば力  
○る然字の  
○其要者跡  
○喜東日者  
○假名通術  
○の讀實新  
○本不新  
○大字書  
○出方取  
○引東朝日  
○玉篇  
○鑑不日  
○字蓋今世  
○各字疑當  
○萬朝報  
○用萬朝報  
○初訓加  
○是便主特  
○を大に毎  
○を採り支  
○字を採集  
○せらば力  
○る然字の  
○其要者跡  
○喜東日者  
○假名通術  
○の讀實新  
○本不新  
○大字書  
○出方取

○玉篇  
○鑑不日  
○字蓋今世  
○各字疑當  
○萬朝報  
○用萬朝報  
○初訓加  
○是便主特  
○を大に毎  
○を採り支  
○字を採集  
○せらば力  
○る然字の  
○其要者跡  
○喜東日者  
○假名通術  
○の讀實新  
○本不新  
○大字書  
○出方取

○玉篇  
○鑑不日  
○字蓋今世  
○各字疑當  
○萬朝報  
○用萬朝報  
○初訓加  
○是便主特  
○を大に毎  
○を採り支  
○字を採集  
○せらば力  
○る然字の  
○其要者跡  
○喜東日者  
○假名通術  
○の讀實新  
○本不新  
○大字書  
○出方取

終

